

建築監督科

- ・履修科目表
- ・卒業・進級要件
- ・履修判定試験および評価方法
- ・シラバス（授業概要）

ディプロマポリシー

工事現場における品質管理・コスト管理・工程管理・安全管理の監理要点を修得し、大手建設会社で活躍できる技術者・監督者

<https://tec.ttc.ac.jp/departments/architectural-director/diploma-policy>



学校法人 小山学園

専門学校 東京テクニカルカレッジ

※「1履修時間」は実時間で45分とする。また、「1授業時間(1コマ)」は2履修時間(実時間で90分)とする。

※履修時間を単位数で換算する場合は、講義科目にあっては15履修時間、実習科目にあっては30履修時間をそれぞれ1単位として換算する。

分野

科目

科目番号

科目名

単位数

1年次

2年次

3年次

4年次

修得単位数

備考

基礎科目

01

① 専門導入1

1

1

○

02

② 専門導入2

1

15

○

03

③ 数学I(オプショナル)

1

15

○

04

④ 数学基礎1

1

15

○

05

⑤ 数学基礎2

1

15

○

06

⑥ 数学基礎3

1

15

○

07

⑦ 数学I(オプショナル)

1

15

○

08

⑧ 数学I(オプショナル)

1

15

○

09

⑨ 数学基礎1

1

15

○

10

⑩ 数学基礎2

1

15

○

11

⑪ 数学基礎3

1

15

○

12

⑫ 数学基礎4

1

15

○

13

⑬ 文法基礎1

1

15

○

14

⑭ 工学基礎2

1

15

○

基礎科目

01

① 建築計画1

1

15

○

02

② 建築史1

1

15

○

03

③ 建築史2

1

15

○

04

④ 建築概論

1

15

○

05

⑤ 建築力学1

1

15

○

06

⑥ 建築力学2

1

15

○

07

⑦ 建築設備1

1

15

○

08

⑧ 建築設備2

1

15

○

09

⑨ 建築力学1

1

15

○

10

⑩ 建築力学2

1

15

○

11

⑪ 建築力学3

1

15

○

12

⑫ 建築力学4

1

15

○

13

⑬ 建築一般構造1

1

15

○

14

⑭ 建築一般構造2

1

15

○

15

⑮ 建築一般構造3

1

15

○

16

⑯ 建築一般構造4

1

15

○

17

⑰ 建築施工1

1

15

○

18

⑱ 建築施工2

1

15

○

19

⑲ 建築施工3

1

15

○

20

⑳ 建築施工4

1

15

○

21

㉑ 建築設備1

1

15

○

22

㉒ 建築設備2

1

15

○

23

㉓ 建築設備3

1

15

○

応用科目

24

㉔ 建築計画2

1

15

○

25

㉕ 建築計画3

1

15

○

26

㉖ 建築計画4

1

15

○

27

㉗ 建築史1

1

15

○

28

㉘ 建築史2

1

15

○

29

㉙ 建築概論

1

15

○

30

㉚ 建築力学1

1

15

○

31

㉛ 建築力学2

1

15

○

32

㉜ 建築力学3

1

15

○

33

㉝ 建築力学4

1

15

○

34

㉞ 建築一般構造1

1

15

○

35

㉟ 建築一般構造2

1

15

○

36

㊱ 建築一般構造3

1

15

○

37

㊲ 建築一般構造4

1

15

○

38

㊳ 建築力学1

1

15

○

39

㊴ 建築力学2

1

15

○

40

㊵ 建築力学3

1

15

○

41

㊶ 建築力学4

1

15

○

42

㊷ 建築一般構造1

1

15

○

43

㊸ 建築一般構造2

1

15

○

44

㊹ 建築一般構造3

1

15

○

45

㊺ 建築一般構造4

1

15

○

46

㊻ 建築力学1

1

15

○

47

㊼ 建築力学2

1

15

○

48

㊽ 建築力学3

1

15

○

49

㊾ 建築力学4

1

15

○

50

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

51

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

52

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

53

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

54

㊿ 建築力学1

1

15

○

55

㊿ 建築力学2

1

15

○

56

㊿ 建築力学3

1

15

○

57

㊿ 建築力学4

1

15

○

58

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

59

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

60

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

61

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

62

㊿ 建築力学1

1

15

○

63

㊿ 建築力学2

1

15

○

64

㊿ 建築力学3

1

15

○

65

㊿ 建築力学4

1

15

○

66

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

67

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

68

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

69

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

70

㊿ 建築力学1

1

15

○

71

㊿ 建築力学2

1

15

○

72

㊿ 建築力学3

1

15

○

73

㊿ 建築力学4

1

15

○

74

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

75

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

76

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

77

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

78

㊿ 建築力学1

1

15

○

79

㊿ 建築力学2

1

15

○

80

㊿ 建築力学3

1

15

○

81

㊿ 建築力学4

1

15

○

82

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

83

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

84

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

85

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

86

㊿ 建築力学1

1

15

○

87

㊿ 建築力学2

1

15

○

88

㊿ 建築力学3

1

15

○

89

㊿ 建築力学4

1

15

○

90

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

91

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

92

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

93

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

94

㊿ 建築力学1

1

15

○

95

㊿ 建築力学2

1

15

○

96

㊿ 建築力学3

1

15

○

97

㊿ 建築力学4

1

15

○

98

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

99

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

100

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

応用科目

21

㉔ 建築計画2

1

15

○

22

㉕ 建築計画3

1

15

○

23

㉖ 建築計画4

1

15

○

24

㉗ 建築史1

1

15

○

25

㉘ 建築史2

1

15

○

26

㉙ 建築概論

1

15

○

27

㉚ 建築力学1

1

15

○

28

㉛ 建築力学2

1

15

○

29

㉜ 建築力学3

1

15

○

30

㉝ 建築力学4

1

15

○

31

㉞ 建築一般構造1

1

15

○

32

㉟ 建築一般構造2

1

15

○

33

㊱ 建築一般構造3

1

15

○

34

㊲ 建築一般構造4

1

15

○

35

㊳ 建築力学1

1

15

○

36

㊴ 建築力学2

1

15

○

37

㊵ 建築力学3

1

15

○

38

㊶ 建築力学4

1

15

○

39

㊷ 建築一般構造1

1

15

○

40

㊸ 建築一般構造2

1

15

○

41

㊹ 建築一般構造3

1

15

○

42

㊺ 建築一般構造4

1

15

○

43

㊻ 建築力学1

1

15

○

44

㊼ 建築力学2

1

15

○

45

㊽ 建築力学3

1

15

○

46

㊾ 建築力学4

1

15

○

47

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

48

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

49

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

50

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

51

㊿ 建築力学1

1

15

○

52

㊿ 建築力学2

1

15

○

53

㊿ 建築力学3

1

15

○

54

㊿ 建築力学4

1

15

○

55

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

56

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

57

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

58

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

59

㊿ 建築力学1

1

15

○

60

㊿ 建築力学2

1

15

○

61

㊿ 建築力学3

1

15

○

62

㊿ 建築力学4

1

15

○

63

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

64

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

65

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

66

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

67

㊿ 建築力学1

1

15

○

68

㊿ 建築力学2

1

15

○

69

㊿ 建築力学3

1

15

○

70

㊿ 建築力学4

1

15

○

71

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

72

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

73

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

74

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

75

㊿ 建築力学1

1

15

○

76

㊿ 建築力学2

1

15

○

77

㊿ 建築力学3

1

15

○

78

㊿ 建築力学4

1

15

○

79

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

80

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

81

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

82

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

83

㊿ 建築力学1

1

15

○

84

㊿ 建築力学2

1

15

○

85

㊿ 建築力学3

1

15

○

86

㊿ 建築力学4

1

15

○

87

㊿ 建築一般構造1

1

15

○

88

㊿ 建築一般構造2

1

15

○

89

㊿ 建築一般構造3

1

15

○

90

㊿ 建築一般構造4

1

15

○

91

㊿ 建築力学1

1

15

○

◎・・・必修科目(当該学科の全学生が卒業までに必ず履修しなければならない科目)
○・・・選択必修科目(一部の選択科目の中から指定された科目を満額で履修しなければならない科目)
△・・・選択科目(学生が任意に選択して受講することが出来る科目)
※卒業に必要な履修時間数は「必要履修時間数」欄に示された時間数である。

・成績評価及び卒業要件

<履修評価（合否判定）の方法>

①科目の合否

本校では、科目の合否は原則的に履修判定試験のみでおこない、60%の理解度をもって合格とする。
履修判定試験は「筆記試験」・「実習試験」でおこなわれるが、作品制作やレポートなど普段の授業の中でおこなわれる提出物の評価を履修判定試験内で評価することがある。
その場合の評価の方法については、講義概要（コマシラバス）の中に明記される。

②未受験者・試験不合格者の処置

A：以下のものには追試をおこなう。

- 1.公認欠席（忌引き等）に該当する者が試験を受験しなかった場合。
 - 2.病気等で通院・入院・自宅安静をしており試験当日登校できない事由が証明できる者。
- 追試の時期は各科の科長が別途日程を定めて実施する。

B：試験に不合格になった学生及び正当な理由無しに未受験となった学生に対して、原則再試はおこなわない。

ただし、不合格となった科目の単位数に応じた枚数のチケットを取得した上で、担当教員の補習授業が終了した者については、再試をおこなう。
チケットの取得方法に関しては、別途細則で定める。

③履修判定試験の運営

履修判定試験を受験しようとする者は試験会場に5分以上前に入室し、机上に学生証など身分を示す物を提示する。
試験会場では、試験監督官の指示に従って行動する。
試験開始後20分以上経過した場合には、その試験の受験資格を失う。
試験中に監督官から不正行為を指摘された場合には直ちに教室から退室する。この場合は当該科目を不合格とする。

<成績評価およびその客観的な指標について>

履修判定試験の結果が100点～80点のものをA（合格）、79点～70点のものをB（合格）、69点～60点のものをC（合格）、59点以下のものをD（不合格）として成績評価とする。
このA～Dの評価を、A＝3点、B＝2点、C＝1点、D＝0点として各科目の成績を点数化のうえ合計し、総科目数で割り指標数値を算出して各科の成績分布の指標とする。

<進級について>

①進級

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度の履修科目を全て履修した場合に進級できる。

②準進級

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度までの履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、「履修時間表」に記載された卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えない場合は、次の学年に進級できるが、これを準進級とし進級者と区別する。

③留年

進級学年の学生は「履修時間表」に記載された当該年度までの履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、「履修時間表」に記載された卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えた場合は留年となり、その年に取得した全ての単位が無効となり次年度同一学年で学習しなければならない。

④進級・準進級・留年の決定

進級・準進級・留年の最終判断は、進級公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

<卒業について>

①卒業

「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目を全て履修した場合に卒業できる。

②科目留年

卒業学年の学生は「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えない場合は、科目留年となる。

科目留年となった場合は、それまでに取得した全ての科目の単位数はそのままとなり、不合格となった科目のみ次年度再履修することで卒業することができる。

科目留年における在籍料・科目履修費用などを含めた事務的な手続きは別途細目で定める。

③留年

卒業学年の学生は「履修時間表」に記載された卒業に必要な履修科目の内、不合格・未受験等で履修できなかった科目の時間数（単位数）の合計が、卒業までに履修しなければならない総時間数（総単位数）の2割を超えた場合は留年となり、その年に取得した全ての単位が無効となり次年度同一学年で学習しなければならない。

準進級者が留年した場合でも、準進級の原因となった当該年度以前に未履修となった科目について、当該科目の再履修免除はない。

④卒業・科目留年・留年の決定

卒業・科目留年・留年の最終判断は、卒業公示前までに校長がおこない学籍に記録する。

No	3831101	科目コード	1010101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：小山学園では、卒業後にネットワークやパソコンを駆使したコミュニケーションのできる社会人になる事を目標に、情報リテラシー教育を行っています。	
年度	2025年度	学習内容：学内ネットワークを利用できるように設定し、その使用方法を理解します。また、インターネット社会における守らなければならない規則やマナーを理解します。	
学年	1年次		
期	1		
教科名	専門導入	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	専門導入1	01) 学内でPCを使う上でのルール・規則がわかる。	
単位	1	02) 推奨PC/パソコンの各部名称や機能を理解して、Windows10の初期設定ができる。	
履修時間	15	03) 学内のネットワークに接続する事ができる。	
回数	8	04) ウィルスバスターをインストールして、アンチウィルスソフトを使う事ができる。	
必修・選択	必修	05) LotusNotesをセットアップして「学園情報」を見る事ができる。	
省庁分類	-	06) LotusNotesでメール・授業データベース・掲示板を使う事ができる。	
授業形態	講義	07) 学外（自宅）から学内ネットワークに接続するやり方がわかる。	
作成者	小林 文雄	08) Chromeブラウザをインストールして、G Suiteの機能（メール・カレンダー・サイト等）を使う事ができる。	
教科書	情報リテラシー	09) iPhoneやAndroidでG Suiteの機能（メール・カレンダー・サイト等）を使う事ができる。	
確認者	杉本 安雄	10) ウィルス対策・著作権等を理解し、ネットワーク社会でトラブルに合わない対策方法がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考			

No	3831102	科目コード	1010201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：在学中の4年間で使用する様々なアプリケーションに対応できるよう、基本的なアプリケーションを使って操作の基本を学ぶ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：MS WORDで、日本語入力・文章編集・罫線や表を利用したレイアウトができる。MS EXCELによるデータの管理方法を学び、リスト作成・データ集計・グラフの作成ができる。Photoshopを利用して、着色や画像編集ができるようになります。	
学年	1年次		
期	1		
教科名	専門導入	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	専門導入2	01) 「Word」という文書作成ソフトを使って文章を書くことができる。	
単位	1	02) 「Word」文章の編集と装飾ができ、画像が貼り付けることができる。	
履修時間	15	03) EXCELによる、データの管理方法を学習し、リスト作成や、データ集計、グラフの作成ができる。	
回数	8	04) EXCELの基本となる四則演算の方法を理解することができる。	
必修・選択	必修	05) EXCELの関数fxを用いて算出する方法を理解することができる。	
省庁分類	-	06) PowerPointのコンテンツを作成することができる。	
授業形態	講義	07) PowerPointを利用して、アニメーションの作成方法がわかる。	
作成者	小林 文雄	08) PowerPointを利用して、建築のプレゼンテーションすることができる。	
教科書	30時間でマスターOffice2016	09) 画像処理の初歩の知識を得て、データの種類のわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) Photoshopを利用して画像処理ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考			

No	3831103	科目コード	1010301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	建築監督科	必要性：建築物では運用だけでなく材料の製造に関しても多くのエネルギーを消費します。また廃棄なども地球環境に影響を与える要因となります。これから学ぶ建築が環境へどのような負荷を与えているか知る必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：一般的な環境問題に関する知識と、環境・エネルギーといった視点から建築分野に携わる技術者が知っておくべき省エネ法に係る基本事項（リテラシー）について学習します。	
期	1		
教科名	環境リテラシー	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	環境リテラシー	01) 環境問題とは何か、持続可能な開発とは何か、これからの取り組みについての概要がわかる。	
単位	1	02) 地球誕生から始まり自然の恵沢と環境問題に取り組むことの大切さがわかる。	
履修時間	15	03) 地球温暖化のメカニズムと地球温暖化の脅威についての概要がわかる。	
回数	8	04) 日本におけるエネルギー事情と政策の基本的考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 今後期待されている再生可能エネルギーなどの新エネルギーの種類とその概要についてわかる。	
省庁分類	-	06) 日本が目指す低炭素化と建築分野における取組みの概要がわかる。	
授業形態	講義	07) スマートハウスとは何か、その考え方と概要がわかる。	
作成者	今野祐二	08) エネルギーの合理化に関する法律（省エネ法）における建築分野で取り組むべき事項についてわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 省エネ法における住宅の省エネ化の手法について、基本的な考え方がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 建築による省エネ化や設備機器による省エネ・創エネ化の手法がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建築設備の設計施工に携わり、機械設備・プラント設計・施工の経験を活かし科目を担当		

No	3831104	科目コード	1020401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築を学習するにあたり、これからどのように学習し、何を身に付けていかなければならないかを自分自身に問いかけ、これから学ぶ4年間の礎にします。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：これから学ぶ「建築」についての概説を「法規」/「計画・歴史」/「施工」/「構造」/「設備」の5分野をオムニバス形式で学びます。また、「建築士」や「施工管理技士」などの資格について職域・職能を学びます。	
期	1		
教科名	建築概論	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築概論	01) 各自の基本的な取り組み姿勢についてわかる。	
単位	1	02) 建築概論の取り組み方についてわかる。	
履修時間	15	03) 安全と安心と快適性についてわかる。	
回数	8	04) 建築の様々な分野についてわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築の原点についてわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) 建築見学により現実の建築で確認し講義内容をより深くわかる。	
授業形態	講義	07) 企画段階から設計完了までのプロセスがわかる。	
作成者	鈴木 実	08) 設計完了から工事完了までのプロセスがわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 建築を見るいろいろな視点がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) レポート作成を通じてレポートの書き方がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	テーマを指定した3つのレポート（各10点満点）と期末考査70点満点の合計で60点以上を合格とする	
該当DP	-		
備考	設計事務所に意匠・設備設計に携わり、地域開発に関するコンサルなども行っている現役設計者として科目を担当		

No	3831105	科目コード	2020101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設業界では今や手描きで製図をすることは皆無です。製図道具としてのCADが使用できることは、就職に向け最低の技能です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：これからの4年間、製図の道具として使用するAutoCADの基本操作を学び、そこで行う実習課題の中で、建築の平面図の役割や描き方のルール、そしてそこに登場する基本的な部材の名称やその役割を学びます。また、同時に、我々が普通に使っている色々な物の寸法体系も同時に学びます。	
期	1		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習1	01) AutoCADの座標概念と作図空間の概念がわかる。	
単位	2	02) 基本コマンドとその使い方がわかる。	
履修時間	60	03) AutoCADのレイヤの概念がわかり、線の色、線の種類、線の太さの関係がわかる。	
回数	30	04) CADによる効率的な作図方法を体験し、手描き製図には無い作図の特長をとらえる事ができる。	
必修・選択	必修	05) 建築平面図の描き方がわかる。	
省庁分類	-	06) 在来木造住宅の平面図を通して、日本建築が持つ寸法体系（尺貫法）がわかる。	
授業形態	実習	07) 在来木造住宅平面図に表現される基本的な部材の名称がわかる。	
作成者	杉本 安雄	08) 各部材を描く時の線の持つ意味を理解し、細線、中線、太線の使い分けができる。	
教科書	入門/建築CAD、実践/建築CAD	09) 破線、一点鎖線、実線で表現される物の意味がわかり図面で使う事ができる。	
確認者	杉本 安雄	10) CADで使われた色と印刷時の太さの関係がわかり、正しい表現で平面図が印刷できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。日常からCADを使った製図を行ってきた経験を活かし科目を担当		

No	3831106	科目コード	2020601
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物のような立体物を紙面に表現するためには様々な方法がありますが、建築の現場での様々な納まりを表現するために、その表現方法を身につける必要があります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：設計製図の基礎として、図形を描く、長さを図る、角度を読み取るなどの基本的な作業を最初に学ぶとともに、次期から始まるCAD（3DMax）を使った3次元立体を理解するために必要な知識を、図学として立体の様々な表現方法学びます。簡単な図形、物体を紙上にフリーハンド、または定規を使用して表現する手法を学びます。また、展開図から模型を制作します。	
期	1		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習Ⅰ	01) 製図用具の名称がわかる。	
単位	1	02) 平行定規を使い、実線・破線・1点鎖線の水平線を平行に引くことができる。	
履修時間	30	03) 平行定規と勾配定規を使い、実線・破線・1点鎖線の水平線を平行に引くことができる。	
回数	15	04) 各種の製図用具を使い基本図形を正しい縮尺で正しくかけることができる。	
必修・選択	必修	05) 基本図形の展開図を書き、二次元表記の図面が三次元立体とどのように関係をもつかわかる。	
省庁分類	32. ⑩その他	06) アクソメトリック図法とアイソメトリック図法の違いを理解し、それぞれ基本的な立体を作図できる。	
授業形態	実習	07) 屋根勾配のある立体をクソメトリック図法とアイソメトリック図法で作図できる。	
作成者	鈴木 実	08) 一点透視図の基本図を作図できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 2点透視図の基本図を作図できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 窓、テーブルなどのある室内の内観パースを1点透視図で作図できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に筆記による履修判定試験20点満点と実技による履修判定試験80点満点の合計100点満点中60点以上を合格とする。	
該当DP	－		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3832101	科目コード	1020101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：寸法の知識、体験、人体行動の知識、洞察。は建築の仕事をする上でどの業種を選ぶとしても必要なものです。それを知らないとい図面を見ても理解できる情報が限られてしまいます。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：一般的な知識、歴史的な成り立ち、目の前にある実際の寸法、を知り体験していきます。	
期	2		
教科名	建築計画	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築計画Ⅰ	01) 建築計画に用いる寸法の種類、成り立ちを知る事が出来る。	
単位	1	02) ソーニング、動線とは何なのかわかる事が出来ます。長い建築寿命の経済的仕組みを知る事が出来る。	
履修時間	15	03) 現在まで続いて来た寸法のシステム（規格）を知る事が出来る。	
回数	8	04) 教室実測・作図。知る事が出来た建築寸法単位を元に教室内で実測、計算出来る。	
必修・選択	必修	05) 独立住宅の中で室と動線がどの様に計画されているのか、知る事が出来る。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) 独立住宅の歴史的な作品と特徴を知る事が出来ます。独立住宅の工法の種類を知る事が出来る。	
授業形態	講義	07)	
作成者	清 孝英	08)	
教科書	やさしい建築計画	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。その知識と経験を活かし科目を担当		

No	3832102	科目コード	1020201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：2級建築士試験西洋建築史に対応します	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：上記に対応しながらも、住宅を中心とした西洋建築史全般を学びます。特にここでは、ギリシャ以前、ギリシャ・ローマ、ゴシック、ルネサンス、新古典主義までの近代以前の建築について学びます	
期	2		
教科名	建築史	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築史Ⅰ	01) 文明が定住によって始まり、定住によって住宅が生まれたという建築史の起源と背景がわかる	
単位	1	02) ユーパの初期文明（メソポタミア、エジプト）建築がギリシャ建築に与えた影響がわかる	
履修時間	15	03) オーダーやアゴラ等、ギリシャ建築の特徴と、ギリシャ建築を代表するパルテノン神殿の機能と特徴がわかる	
回数	8	04) アーチ、ドーム、コルナットの発明によって巨大化したローマ建築の概要と代表的建築物の特徴がわかる	
必修・選択	必修	05) ローマ帝国の衰退と分割によって誕生した西ゴシック建築（西欧）とビザンチン建築（東欧）の違いと特徴がわかる	
省庁分類	20. ②建築計画	06) ローマ帝国の衰退によってしだいに強化したキリスト教建築、特にゴシック建築の構造的特徴がわかる	
授業形態	講義	07) 強化したキリスト教への疑問と反発から生まれたルネサンス建築の概要、特徴、代表的建築がわかる	
作成者	大室 浩明	08) ルネサンス建築の変遷としての、マニエリスム、バロック、ロココ建築の概要、特徴、代表的建築がわかる	
教科書	ユバ 外版建築史	09) ギリシャ・ローマ建築のバリエーションとしての新古典主義建築の背景、特徴、代表的建築がわかる	
確認者	杉本 安雄	10) 世紀末建築（新古典主義建築）と現代建築（ポストモダニズム建築）の類似性がわかる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	住宅メーカーの設計部にてデザイン・設計を担当。海外での留学も活かし科目を担当。		

No	3832103	科目コード	1020901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれている。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識である。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：構造力学Ⅰでは、基本的な構造力学の考え方と、構造物や力の表現方法を学び、建築構造力学の共通言語を習得する。後半は「モーメント」、「力の分解・合成」、「力の釣り合い」の計算方法を学習する。	
期	2		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学Ⅰ	01) 力学の必要性を理解し、構造物に加わる荷重の種類がわかる。	
単位	1	02) 構造物を部材と節点に分解し荷重図としてモデル化できる。	
履修時間	15	03) 「安定構造物・不安定構造物」「静定構造物・非静定構造物」の違いを理解し判別式より違いを求めることができる。	
回数	8	04) 荷重・力を理解し「ベクトル」として正確に表現することができる。	
必修・選択	必修	05) 荷重の位置、作用する位置を正確に把握し、作用点のモーメントを求めることができる。	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06) 「力の合成・分解」を図により求め、適切な大きさ・方向・位置の「合力・分力」を求めることができる。	
授業形態	講義	07) 「力の合成・分解」を計算により求め、適切な大きさ・方向・位置の「合力・分力」を求めることができる。	
作成者	野上 和裕	08) 数学的知識「内項の積・外項の積」「三角比」「三平方の定理」がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学	09) 「複数の平行な荷重」「分布荷重」をバリエーションの定理を利用し、合力を求めることができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 「力のつり合い条件式」を理解し、つり合うために必要な力を求めることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。その知識と経験を活かし科目を担当		

No	3832104	科目コード	1021301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築は、雨・風・温度・地震といった様々な外的因子から人々を守らなければなりません。そのためには、建物がなぜ建っているのかという最も基本的なことを学ばなければなりません。その取り掛かりとして木質構造から学びます。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：最初に、各種構造を学んでいく際に必要となる「基本的な言葉の意味」を学びます。その上で、各種構造の一つ目となる木質構造について、材料、接合部、構造概要など詳しく学んでいきます。	
期	2		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造Ⅰ	01) 建築物を構成している要素がわかる。	
単位	1	02) 建築物に作用する外力と、その外力に対してどのような仕組みで耐えているのかわかる。	
履修時間	15	03) 木質構造の概要と木質構造の種類がわかる。	
回数	8	04) 木材及び木質材料の材料特性がわかる。	
必修・選択	必修	05) 木材の接合方法（継手、仕口）とその性能がわかる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 軸組の全体像と、各部位の名称がわかる。	
授業形態	講義	07) 小屋組の全体像と、各部位の名称がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) 床組みの全体像と、各部位の名称がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造	09) 枠組壁工法の概要がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 木造戸建住宅における壁量計算の概要がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3832105	科目コード	1021701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設現場における4大任務（品質管理・原価管理・工程管理・安全衛生管理）の意味を理解し、実社会での管理の在り方を学びます。	
年度	2025年度	学習内容：4大任務の各内容の概要から一歩踏み込んだ所までを学びます。建設現場では日々どのような事を行い、どんな事に気を付けて管理をしなければいけないかを理解する事が出来ます。	
学年	1年次		
期	2		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工Ⅰ	01) 品質管理の目的・管理手法・品質管理の7つ道具がある事がわかる。	
単位	1	02) P D C Aサイクルの意味・活用方法がわかる。	
履修時間	15	03) 原価管理の目的・出来高と進捗度の関係がわかる。	
回数	8	04) ゼネコンとサブコンとの間で取り交わしをする書類の内容がわかる。	
必修・選択	必修	05) 工程管理の重要性・マイルストーンの押え方・原価管理との関係性がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) ネットワーク工程表の読み取り方・作図方法がわかる。	
授業形態	講義	07) 建設現場における安全管理の重要性・その他の項目との関係性がわかる。	
作成者	片倉 啓太	08) K Y K・T B M・新規入場者教育等、建設現場における安全管理の手法がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築施工	09) 一般建設業・特定建設業など、建設業法で定められる建設会社の制限・資格がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) モチベーション・モラル等、4大任務に追加する考えの「M」の内容・考え方がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	総合建設会社で様々な構造の建物の現場を担当する現役現場監督としての知識を活かし科目を担当		

No	3832106	科目コード	1022001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。また法規は二級建築士・一級建築士の試験科目の一つであり、資格取得のためには内容の理解はもちろん、早い段階から法令集で調べることに慣れておくことが大切です。	
年度	2025年度	学習内容：最初に、法令集の読み取りの原則や調べ方の手順を理解します。次に、建築関連法規の中でも最初に学ぶべき「建築基準法」のうち「全体構成」「用語の定義」「面積・高さの定義」「道路」「用途地域」を学び、その概要を理解するとともに、法令集中関連条文を調べるようになるようになります。	
学年	1年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	2		
教科名	建築法規	01) 建築関係法令集にはどのような法が掲載されているのか、その概要がわかる。	
科目名	建築法規1	02) 「法律・政令・省令」の関係がわかる。	
単位	1	03) どの条文でも、それが「第何条・第何項・第何号」かを言うことができる。	
履修時間	15	04) 「または・かつ・いずれか」「以上・以下・超える・未満」などの意味を正しくとらえることができる。	
回数	8	05) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探することができる。	
必修・選択	必修	06) 建築基準法の「用語の定義」の各項目について、正しい解釈ができる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	07) 建築基準法の「面積・高さの定義」の各項目について、正しい解釈ができる。	
授業形態	講義	08) 単体規定と集団規定の違い及び都市計画区域・準都市計画区域の意味がわかる。	
作成者	上岡 加奈	09) 建築基準法の「道路」について、なぜこれらの規定があるのかと、それぞれの規定の正しい解釈ができる。	
教科書	[井上]建築関係法令集	10) 建築基準法の「用途地域」について、なぜこれらの規定があるのかと、別表2の読み取り方がわかる。	
確認者	杉本 安雄	評価方法	
最終確認者	井坂 昭司	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
実務教員	○		
該当DP	-		
備考	設備設計事務所に設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3832107	科目コード	2020201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：設計は考えたことを形にすることであり、製図はそれを第三者に伝える作図である。設計に必要な能力を身につけないと、設計図の意図も把握できない。設計・製図実習はそれらを身につけるのに必要な科目である。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：実習課題を通して、要求を分析・整理しソーニングできるエスキース力を身につけるとともに、フリーハンドで設計図が描ける技術を学ぶ。	
期	2		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習2	01) 単位部品・単位空間がわかる	
単位	2	02) 住宅の基本性能がわかる	
履修時間	60	03) 課題の分析と整理ができる	
回数	30	04) 課題に対してのソーニングができる	
必修・選択	必修	05) 木造のモジュールがわかる	
省庁分類	31.①建築設計製図	06) エスキースができる	
授業形態	実習	07) 基本図のフリーハンドでの作図ができる	
作成者	鈴木 実	08) 製図で表現しなくてはならないことが表現できる	
教科書	オリジナルテキスト	09) 必ず提出物が提出できる	
確認者	杉本 安雄	10) 相互評価を通じ自分の設計に活かすことができる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験20点満点、提出物評価80点満点の合計の60%の成績を合格とする	
該当DP	-		
備考	設計事務所に意匠・設備設計に携わり、地域開発に関するコンサルなども行っている現役設計者として科目を担当		

No	3832108	科目コード	2020701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：建築を学ぶにあたり、2次元の図面から立体的な思考が出来るように学生を教育したい。それには自分の考えたことが立体的に表現できることが必要と思われます。	
科	383 建築監督科		
年度	2025年度	学習内容：オブジェクトを立体に表現するための3次元空間を把握させるための基礎的学習を行う。それには光の当て方やそれを表現するカメラの位置とマテリアルの貼り付け方法を学習する。	
学年	1年次		
期	2	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築立体造形実習		
科目名	建築立体造形実習2	01) 3DCADの操作に必要な座標軸を理解することが出来る	
単位	1	02) 三面図の数値を読み取り、基本的な立体を作成出来る	
履修時間	30	03) クローンの操作の配列条件複写が出来るようになる	
回数	15	04) 数値通りのオブジェクトを作成することが出来る	
必修・選択	必修	05) 数種類のカメラの作成が出来、その操作方法を理解することが出来る	
省庁分類	-	06) 数種類のライトの作成が出来、その操作方法を理解することが出来る	
授業形態	実習	07) AUTOCADデータを利用して3dsMaxのオブジェクトを作成していくことが出来る	
作成者	小林 文雄	08) 外壁の部分に開口を設けることが出来る	
教科書	3ds Max 操作と3DCG制作の教科書	09) 窓やドアを作成して、マテリアルを貼り付けることが出来る	
確認者	杉本 安雄	10) Photoshopを利用してベース画像をラッチすることが出来る	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【70点】+課題提出による習熟度チェックにより【30点】=合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にて3次元設計を行った経験を活かし科目を担当		

No	3832109	科目コード	2040101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度	学習内容：2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組めます。	
学年	1年次		
期	2		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクトI	01) 問題発見に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題発見に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題発見に向け、技術者としての問題意識をもって、現状の問題点を指摘することができる。	
回数	15	04) 問題発見に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題発見に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
省庁分類	-	06) 問題発見に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題設定に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題設定に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
教科書	-	09) 問題設定に向け、現状の問題点から解決すべき課題を提案することができる	
確認者	杉本 安雄	10) 問題発見をとおして設定した課題の社会的な意義等を適切に説明することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	

No	3832110	科目コード	2060101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物を設計するためには、土地の大きさや形状、面積、レベル差を正確に求める必要があります。その為には、土地の形状を指定されたスケールで正確に描き写すことが必要になります。	
年度	2025年度	学習内容：巻き尺による正確な寸法の読み取りと補正方法、平板による測量とそれらの誤差を修正し、面積を計算できるように未知の寸法を計算し、三斜測量図にまとめ求積図・求積表にまとめる。レベルを使った水準測量の技術的な原理と技能を学ぶ	
学年	1年次		
期	2		
教科名	測量実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	測量実習I	01) 測量の起源から現在までの歴史的な流れを学び、近代測量学が俯瞰できる	
単位	1	02) 巻き尺による2点間の距離の測り方と誤差の修正方法がわかる	
履修時間	30	03) 相似の原理を理解し、寸法比と面積比の関係がわかる	
回数	15	04) 平板の標定の方法を理解し、4～5点で構成される多角形敷地の平板測量（放射法・導線法）ができる	
必修・選択	必修	05) 平板測量の結果から誤差の補正方法を学び、敷地形状を決められた縮尺で紙に作図できる	
省庁分類	32. ⑩その他	06) 対角線で三角形に分割し、ヘロンの公式を活用し、各三角形の高さを求め、三斜測量図として敷地図が描ける	
授業形態	研修	07) 水準測量機（レベル）の取り扱いがわかる	
作成者	小林文雄	08) 水準測量を行う中で、器具の取り扱いを習得し、正確なレベルの読み取りができる	
教科書	技報堂 図解土木講座「測量学」	09) 野帳のまとめ方を学び、実際に野帳を作り、水準測量の結果をまとめることができる	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて行っていた、建築・プラント設計及び施工管理の経験を活かして科目を担当。		

No	3833101	科目コード	1020301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：日本の文化形成の歴史を時系列で学ぶ中で、現代建築における生活の根源的問題と意味（食べる、安らぐ、眠る、集う）について個々に考える機会を与えます。また、1級・2級建築士試験に出題される日本建築史にも対応しています。	
年度	2025年度	学習内容：上記に対応しながらも、住宅を中心とした日本建築史全般を学びます。特に竪穴式住居、寝殿造、書院造、茶室、数寄屋造、町屋等に日本固有の建築について、様式とその背景にある生活についても学びます。	
学年	1年次		
期	3		
教科名	建築史		
科目名	建築史2	01) 竪穴式住居の構造と住居形式、縄文時代の生活様式（定住＋稲作＋食糧保存＝村の誕生）がわかる。	
単位	1	02) 平安時代の庶民の住居形式（みせ＋土間＋通り庭＝町屋の原型）とそれらの今日の住宅への影響がわかる。	
履修時間	15	03) 平安時代の貴族の住居形式（寝殿＋対屋＋渡殿＝寝殿造）とその可変的インテリアの特徴がわかる。	
回数	8	04) 武家社会の武家屋敷の形式、特に書院造が生まれた背景と建築の形式がわかる。	
必修・選択	必修	05) 武家社会の庶民の住まい、特に関東の表店裏長屋の特徴、関西の町屋の特徴と今日の住宅への影響がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) 茶室の構造的特徴、デザインの特徴、空間的特徴が分かり、それらを住居化した数寄屋造の特徴がわかる。	
授業形態	講義	07) 神社建築のの歴史的、形式的、文化的背景が分かり、それらを代表する出雲大社と伊勢神宮の特徴がわかる	
作成者	大室 浩明	08) 「法隆寺」「平等院鳳凰堂」「阿弥陀堂」の事例解説から仏教建築の歴史と建築的構造がわかる。	
教科書	コバ 外版建築史	09) 「春日山城（山城）」「安土城（平山城）」「大坂城（平城）」の事例解説から城郭建築の歴史と特徴がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 明治以降の西洋住宅の導入、中廊下式住宅の普及、モダニズムの始まり等、近代住宅の変遷がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	住宅メーカーの設計部にてデザイン・設計を担当。海外での留学も活かし科目を担当。		

No	3833102	科目コード	1020501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築環境工学は、建築計画の基礎となる重要な学習であると同時に、施工管理技術試験及び建築士試験においても高い出題傾向を有しています。	
年度	2025年度	学習内容：環境工学1では、外部環境及び環境問題、採光（自然光・照明光）、色彩について学習を行い、同時にガイダンス、SI単位系についての講義も行います。	
学年	1年次		
学期	3		
教科名	環境工学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	環境工学1	01) 環境工学が初期の建築計画にどのような関連が有り、重要性を有するのかわかる。	
単位	1	02) 環境工学で必須であるSI単位系（及び工学単位）がわかる。	
履修時間	15	03) 外部環境（気候・温湿度・風向・雨雪等）が建築物に与える影響がわかる。	
回数	8	04) 環境問題（温暖化・ヒートアイランド・大気汚染等）が建築物に与える影響がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築物に対する自然採光（昼光）の有効的な取り入れ方がわかる。	
省庁分類	21.③建築環境工学	06) 日射・日照・日影の各種条件（方位及び季節）と建築計画上の関連がわかる。	
授業形態	講義	07) 人工採光（照明光）の計画性、照度条件と建築計画の関連がわかる。	
作成者	加藤 諭	08) 照明ランプの種別、各種特性（ランプ効率等）、建築計画への応用ができる。	
教科書	やさしい環境工学	09) 色彩の基本原理（色相・明度・彩度）と混色（加法・減法）及び表色（マンセル等）がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 色彩の心理効果（同化・対比・面積作用・ブルキン現象）に係る建築物への色彩計画の基礎がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建築・設備設計事務所における設計業務・設計監理業務経験を持つ現役の設計者で、広い知識を活かし科目を担当		

No	3833103	科目コード	1020701
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383 建築監督科	必要性：建築設備は、快適で利便性の高い環境を実現するため必要不可欠であるとともに、多くのエネルギーを消費するものでもあります。これらを適切に建築物に組み込むためには、「選定」「システム全体と必要スペース」等に関する基礎知識が必須です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：建築設備のうち「給水・給湯」「排水・浄化」「ガス」「消防・防災」を取り上げ、それぞれの主な方式・種類、概要及び必要スペース等を理解します。	
期	3		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備1	01) 建築設備全体の分類がわかる。	
単位	1	02) 上水・中水・下水、クロスコネクションの意味及び防止方法がわかるとともに、給水設備の主な種類と特徴を明確に区別することが	
履修時間	15	給湯設備の主な種類と概要がわかる。	
回数	8	04) 排水の分類、基本事項、排水設備と通気設備の関係などの全体像がわかる。	
必修・選択	必修	05) 排水通気設備、トラップ、及び汚水処理設備のの主な種類と概要がわかる、	
省庁分類	22.④建築設備	06) 衛生器具設備の主な種類と概要がわかる。	
授業形態	講義	07) 都市ガスと液化石油ガスの違い、及び主なガス設備の種類、概要がわかる。	
作成者	上岡 加奈	08) 火災の感知及び避難に必要な設備の主な種類と概要を理解し、明確に区別することができる。	
教科書	やさしい建築設備	09) 「消防設備」のうち一般火災用、油火災用、及び電気火災用の設備の主な種類と概要を理解し、明確に区別することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 「避雷設備」の主な種類と概要がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設備設計事務所に設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3833104	科目コード	1021001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれ、監督が行う仮設物の安全性も同様です。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2025年度	学習内容：構造力学2では、構造力学1にて学習した制定構造物の反力算定を様々な条件でも解けるように演習をこなし、後半では構造物内部に発生する「断面力（応力）」について学習します。応力図を正確に描けるようになることで、部材内部に発生している力を理解し、弱点や補強ポイントの判断ができるようになります。	
学年	1年次		
期	3		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学2	01) 構造物を力学的計算を行うために荷重モデルに置き換えができる	
単位	1	02) 構造物を「判別式」より、不安定・安定・静定・不静定に区別できる	
履修時間	15	03) 荷重モデルを正確に読み取ることができる	
回数	8	04) 「力のつり合い条件式」を理解し、構造物の釣り合っている状態がわかる	
必修・選択	必修	05) 静定構造物（単純梁・片持ち梁・ラーメン）を解き、発生する反力がわかる	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06) 静定構造物の反力より、正確な荷重図を作図できる	
授業形態	講義	07) 構造物に発生する外力と内力の種類分けできる	
作成者	野上 和裕	08) 構造物内に発生する断面力（応力）の種類がわかる	
教科書	初学者の建築講座 構造力学	09) 断面力（応力）の正負の方向性を理解し、構造物内の力の流れがわかる	
確認者	杉本 安雄	10) 荷重図より、応力図（軸方向力・せん断力・曲げモーメント力）を作図できる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。その知識と経験を活かし科目を担当		

No	3833105	科目コード	1021501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築施工において、設計図書に記載されている材料を適切に施工するために、また竣工後に不具合を行きないために材料の正確な知識が必要です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：材料1では、建築の主要構造部を担う3大材料である木、コンクリート、鉄の基礎的知識について学びます。	
期	3		
教科名	建築材料	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料1	01) 木材及び木質構造の特徴がわかる。	
単位	1	02) 樹木の種類や主な用途、注意点がわかる。	
履修時間	15	03) 木材の基本的性質（乾燥・収縮・変形・可燃）や物理的性質がわかる。	
回数	8	04) コンクリート及び鉄筋コンクリート構造の特徴がわかる。	
必修・選択	必修	05) コンクリートを構成する材料及びコンクリートの種類がわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) 硬化前及び硬化後のコンクリートの基本的性質や物理的性質がわかる。	
授業形態	講義	07) 鋼及び鉄骨構造の特徴がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) 鋼材の種類と機械的性能、物理的性能がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築材料	09) 鋼材と炭素量との関係、鋼材の比重と特性、鋼材の強度がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) そのほかの金属材料の概要がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3833106	科目コード	1021801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383 建築監督科	必要性：卒業後に建設現場に行った際に、施工の現場で何の作業をし、その施工方法、注意事項がどんなものかを理解し、即戦力たる人材を育成する事が目的です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：仮設・土工事から始まり、主要構造体の鉄筋コンクリート造と鉄骨造に関して、作業計画・施工方法・品質管理ポイントに関して学びます。	
期	3		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工2	01) Q C D Sと共に、施工管理・設計監理の違いや、生産管理の流れの犬筋がわかる。	
単位	1	02) 地盤調査の種類、杭工事・地盤改良工事の種類や施工方法の違いがわかる。	
履修時間	15	03) 山留工事の種類や、山留支保工の種類、地盤状況の違いでの施工方法の違い、湧水処理の種類がわかる。	
回数	8	04) 型枠建込の流れ、型枠に使用する部材の名称、型枠存置期間がわかる。	
必修・選択	必修	05) 配筋の各部の名称や、施工時の注意事項としてのかぶりや鉄筋ピッチ・定着・圧接がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) コンクリートのワーカビリティやコンシステンシー、受入れ時・打設時の品質管理項目がわかる。	
授業形態	講義	07) ファブでの鉄骨加工の流れ、各部の名称や溶接の種類、超音波探傷試験がわかる。	
作成者	片倉 啓太	08) 鉄骨建方全体の流れ、建方方法、建て入れ直しや仮設部材がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築施工	09) 高力ボルト接合時の品質管理、現場溶接時の注意事項がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) デッキプレートやシアコネクターの重要性、耐火被覆の種類がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	総合建設会社で様々な構造の建物の現場を担当する現役現場監督としての知識を活かし科目を担当		

No	3833107	科目コード	1022101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。また法規は二級建築士・一級建築士の試験科目の1つであり、資格取得を目指すなら内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておくことが大切です。 学習内容：「建築基準法」のうち建築物の規模・形態に関わる規定である「建蔽率」「容積率」「高さ制限」を取り上げ、その概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べるができるようにします。また最終回には、次期に学ぶ「防火・耐火」の規定で用いる用語の定義について、全体像及び概要を理解し、次に繋げます。	
科	383. 建築監督科		
年度	2025年度		
学年	1年次		
期	3		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規2	01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
単位	1	02) 建築基準法の「建蔽率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。	
履修時間	15	03) 建築基準法の「建蔽率」について、条文から原則及び主な例外を読み取り、実際に計算することができる。	
回数	8	04) 建築基準法の「容積率」について、この規定の意味と、基本の考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築基準法の「容積率」について、条文から原則及び主な例外を読み取り、実際に計算することができる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	06) 建築基準法の「高さ制限」について、主な種類、それぞれの意味及び基本の考え方がわかる。	
授業形態	講義	07) 建築基準法の「高さ制限」のうち「道路斜線制限・隣地斜線制限・北側斜線制限」について、条文から原則及び主な例外等を読み取り	
作成者	上岡 加奈	08) 建築基準法の「高さ制限」における「天空率による緩和」について、その意味及び基本の考え方がわかる。	
教科書	[井上] 建築関係法令集	09) 建築基準法の「高さ制限」のうち「日影規制」について、条文から原則及び主な例外等を読み取ることができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 建築基準法の「用語の定義」のうち「耐火・防火に関するもの」について、意味及びそれぞれの関係性を正しくとらえることができる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3833108	科目コード	2020301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：大型建築物の大半は鉄骨造であり今後もその割合は増加すると予測されることから、その設計・製図を計画手法や構造計画の基礎学習を中心にを行います。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：木造と比較しながら鉄骨造の設計を基礎から学習し、ゾーニングを考えながらエスキース技法を習得するとともに製図力の向上を図ります。	
期	3		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習3	01) スパンから鉄骨造ラーメン構造の柱、大梁、小梁の概略寸法を出すことができる。	
単位	2	02) ブレースの意味と役割を理解し説明できる。	
履修時間	60	03) 耐火被覆の必要性を理解し説明できる。	
回数	30	04) 鉄骨造の長所と欠点を他の構造と比較しながら説明できる。	
必修・選択	必修	05) 鉄骨造の外壁（カーテンウォール）を理解し作図できる。	
省庁分類	31.①建築設計製図	06) 鉄骨造のデッキプレート＋コンクリートの床について理解し作図できる。	
授業形態	実習	07) 梁の存在を理解しPSや階段、柱との干渉を避けた計画ができて作図できる。	
作成者	鈴木 実	08) 複合的な要素を持つ併用住宅を明確なゾーニングをしながら計画できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 建築士の試験を視野に入れ、エスキースの手法を身に付け、エスキースをしたうえで作図を行うことができる。	
確認者	杉本 安雄	10) エレベータ及び階段コアを作図できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（学科20点＋実技80点／100点で実施）60点以上を持って合格とする	
該当DP	-		
備考	設計事務所に意匠・設備設計に携わり、地域開発に関するコンサルなども行っている現役設計者として科目を担当		

No	3833109	科目コード	2020801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建物の外観をイメージして、2次元CADのデータを利用して、建物の外観をいかに表現するかを学ぶ中で、平面図・立面図などの表現される建物を立体的にイメージできる能力を育成します。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：AutoCADの平面図を用いて、3dsmaxソフトを利用して外観パースの作成を行います。また各階の平面の鳥瞰図をそえて、プレゼンテーションボードの作成を行い表現力も養います。	
期	3		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習3	01) AutoCADのデータを3dsmaxに移行することができる	
単位	1	02) オブジェクトにマテリアルとテクスチャーを貼り付けることができる	
履修時間	30	03) ツールコマンドを利用して階段の作成ができる	
回数	15	04) 切妻屋根と寄棟屋根の作成ができる	
必修・選択	必修	05) ベランダの手すりや欄などを作成する事ができる	
省庁分類	-	06) 隣地境界の塀・欄などを表現するオブジェクトを作成することができる	
授業形態	実習	07) 各階の平面パースを利用して、外観パースを作成することができる	
作成者	小林 文雄	08) フォトショップを利用してレタッチを行うことができる	
教科書	3ds Max 操作と3DCG制作の教科書	09) パワーポイントを利用してボードの作成ができる	
確認者	杉本 安雄	10) プレゼンテーションボードの作成ができる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【70点】＋課題提出による習熟度チェックにより【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にて3次元設計を行った経験を活かし科目を担当		

No	3833110	科目コード	2040201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	
期	3		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト2	01) 問題解決に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、技術者として解決のための方法や手順を提案することができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、工程表および予算書を提案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題解決に向け、解決のための方法や手順を計画書（企画書）にまとめることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。 ③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	
該当DP	-		
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No	3834101	科目コード	1020601
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築環境工学は、建築計画の基礎となる重要な学習であると同時に、施工管理技術試験及び建築士試験においても高い出題傾向を有しています。	
年度	2025年度	学習内容：環境工学2では、音の性質（防音・遮音等含め）、熱環境（断熱結露・湿り空気線図含め）、室内空気環境基準及び自然換気について講義を行います。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	環境工学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	環境工学2	01) 自然換気手法（重力換気・圧力換気）の特性がわかる。	
単位	1	02) 機械換気の3種について理解し、適する室用途がわかる。	
履修時間	15	03) 室内空気環境基準値（一酸化炭素及び二酸化炭素濃度・浮遊粉じん量・ホルムアルデヒド基準値）がわかる。	
回数	8	04) 熱の伝わり方の基本則（熱伝達・熱伝導・熱対流）を理解し、熱容量の考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 熱伝達率・熱伝導率・熱貫流率を単位と共に各理解し、逆数である各種抵抗値の考え方がわかる。	
省庁分類	21. ③建築環境工学	06) 断熱材の種別及び特性、壁断面上の断熱材と通気、透湿抵抗等の役割がわかる。	
授業形態	講義	07) 湿り空気線図の視方を理解し、内部結露及び外部結露の要因とその防止法がわかる。	
作成者	加藤 諭	08) PMVやS E T * といった温熱環境基準の考え方を理解し、室内における熱的快適さの重点点がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 環境工学	09) 音の性質や室内における音響計画、吸音と遮音の考え方、音に係る各種単位についてわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 屋外及び室内の騒音基準（NC値とdBA）と隔壁及び床の騒音測定に関する差異についてわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建築・設備設計事務所に於ける設計業務・設計監理業務経験を持つ現役の設計者で、広い知識を活かし科目を担当		

No	3834102	科目コード	1020801
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：建築設備は、快適で利便性の高い環境を実現するため必要不可欠であり、多くのエネギーを消費するものでもあります。これらを適切に建築物に組み込むためには、「選定」「システム全体と必要スペース」等に関する基礎知識が必須です。	
科	383. 建築監督科		
年度	2025年度	学習内容：建築設備のうち「空調設備」「換気設備」を取り上げ、それぞれの主な方式・種類、概要及び必要スペース等を理解します。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備2	01) 空調調設備の概要、分類、及び基本的な用語の意味がわかる。	
単位	1	02) 室内環境基準と比較し、設定が適切かどうか判断することができる。	
履修時間	15	03) ルームエアコン及びヒートポンプ方式の全体構成、仕組みの概要を説明することができる。	
回数	8	04) 定風量単一ダクト方式及び変風量単一ダクト方式の全体構成、使用機器、及びそれぞれの特徴を説明することができる。	
必修・選択	必修	05) 各階ユニット方式、二重ダクト方式等の全体構成、使用機器、及びそれぞれの特徴を説明することができる。	
省庁分類	22. ④建築設備	06) ファンコイルユニット方式の全体構成及び使用機器を説明することができる。	
授業形態	講義	07) 熱源装置、熱搬送設備及び関連部材の種類、概要がわかる。	
作成者	上岡 加奈	08) 空調負荷の種類、概要、及び基本の考え方がわかる。	
教科書	やさしい建築設備	09) 「換気設備」の目的、種類と概要、及び必要換気量を求める場合の指標など、基本事項がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 「換気設備」における必要換気量、必要換気回数、居室の換気量について、必要な量を計算することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3834103	科目コード	1021101
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれています。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとも重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2025年度	学習内容：構造力学3では、様々な静定構造物に発生する反力より、応力を求め応力図を正確に描けるように繰り返し練習します。後半では静定トラス構造を学び、トラス構造における力の流れを理解します。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学3	01) 建築構造物を構造計算を行うために、正確にもモデル化できる。	
単位	1	02) 静定構造物をつり合い条件式を用いて、反力計算ができる。	
履修時間	15	03) 静定構造物の反力を元に、正確な荷重図作成ができる。	
回数	8	04) 静定構造物の荷重図より、各応力図（N図、Q図、M図）が作成できる。	
必修・選択	必修	05) せん断力図（Q図）より、柱・梁においてせん断力が最も発生しているの位置がわかる。	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06) 曲げモーメント力図（M図）より、柱・梁において引張力が最も発生しているの位置・側がわかる。	
授業形態	講義	07) トラス構造の条件・構造のモデルがわかる。	
作成者	野上 和裕	08) トラス構造の種類・特性がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学	09) トラス構造物を節点つり合い法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。	
確認者	杉本 安雄	10) トラス構造物をリッターの切断法を用いて、力の流れを求め、部材の軸方向力と圧縮/引張の判断ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。その知識と経験を活かし科目を担当		

No	3834104	科目コード	1021401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：現代建築において鉄筋コンクリート構造の比率は非常に高く、鉄筋コンクリート構造以外の構造形式であったとしても、基礎などに必ず鉄筋コンクリート工事があるため、その知識は非常に重要です。	
年度	2025年度	学習内容：コンクリートはそれが実現できる建物規模に対して、比較的安価な材料であるといわれていますが、ひび割れ等の不具合も発生します。鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットについて学んでいきます。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造2	01) 鉄筋コンクリートの発生から現代までの歴史がわかる。	
単位	1	02) 鉄筋コンクリート構造の特徴とメリット・デメリットがわかる。	
履修時間	15	03) 鉄筋コンクリート構造の形式の種類が判別できる。	
回数	8	04) 鉄筋コンクリートを構成する材料がわかる。	
必修・選択	必修	05) コンクリートの種類と、それぞれの注意点がわかる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 鉄筋コンクリートの力学的性質がわかる。	
授業形態	講義	07) ラーメン構造、壁構造、そのほか構造の特徴を説明することができる。	
作成者	宮坂 達	08) コンクリートのひび割れ等の不具合がわかり、その対策がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造	09) 柱・梁部材の断面算定と許容応力度の関係がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 鉄筋コンクリート構造建物の部位の名称がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3834105	科目コード	1022201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。また法規は二級建築士・一級建築士の試験科目の1つであり、資格取得を目指すなら内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れておくことが大切です。	
年度	2025年度	学習内容：引き続き「建築基準法」を学びます。前半は建築物の防火・耐火に関する規定を、後半は「居室」に関する事項など小規模建築物にも適用される規定を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるようにします。	
学年	1年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	4	01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
教科名	建築法規	02) 建築基準法の「耐火・防火」については複数の規定があり、重複する場合は厳しい方に従うことがわかる。	
科目名	建築法規3	03) 建築基準法の「防火地域・準防火地域」に関する規定について、集団規定であること及びこの規定の意味がわかる。	
単位	1	04) 建築基準法の「耐火建築物等とすべき建築物」に関する規定について、単体規定であること、この規定の意味及び全体像がわかる。	
履修時間	15	05) 建築基準法の「地階の居室」「界壁」「便所」「天井の高さ」「床の防湿」「階段」に関する規定について、それぞれの規定の概要及び基本の考え方がわかる。	
回数	8	06) 建築基準法の「居室の採光」に関する規定について、条文から原則及び主な例外等を読み取り、実際に計算することができる。	
必修・選択	必修	07) 建築基準法の「居室の換気」に関する規定について、条文から原則及び主な例外等を読み取り、実際に計算することができる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	08) 建築基準法の「火気使用室の換気」に関する規定について、条文から原則及び主な例外等を読み取り、実際に計算することができる。	
授業形態	講義	09) 建築基準法の「シックハウス防止のための換気」に関する規定について、条文から原則及び主な例外等を読み取り、機械換気による必要換気量を計算することができる。	
作成者	上岡 加奈	10) 建築基準法の「シックハウス防止のための材料規制」に関する規定について、概要及び基本の考え方がわかる。	
教科書	[井上] 建築関係法令集	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司		
実務教員	○		
該当DP	—		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3834106	科目コード	2020401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：1年時に主要構造である鉄筋コンクリート造の設計及び製図の基礎を学び理解を深めることは、今後より高度な専門教育を学ぶ上で必要条件です。	
年度	2025年度	学習内容：内容は大きく4つに分かれます。1つ目はRC造の基礎知識の習得。2つ目は与えられた課題を回答することにより計画をつくる設計。3つ目に考えたものを作図する製図。4つ目に講評などを通じて学んだことの再確認を行います。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習4	01) RCラーメン構造の主要構造がわかる。	
単位	1	02) RCラーメン構造とS造、木造軸組み工法の違いがわかる。	
履修時間	45	03) 設計に必要な知識である標準スパンを理解し、スパン長さから大梁・小梁の概略寸法を算出できる。	
回数	23	04) 課題内容を読み込み問題点を整理できる。	
必修・選択	必修	05) 課題内容からゾーニングに着目しながらエスキースができる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) エスキースに基づき作図できる。	
授業形態	実習	07) エスキース時点で不備だったものを作図段階で修正することができる。	
作成者	鈴木 実	08) 設計図に必要な最低限の書き込みができる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 他者の案と比較し自己の計画案の長所と欠点の整理ができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 講評結果をもとに自己の計画案の問題点を修正することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所にて意匠・設備設計に携わり、地域開発に関するコンサルなども行っている現役設計者として科目を担当		

No	3834107	科目コード	2020901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：自分で設計した住宅をビジュアル的に3次元で表現し、自分の考えていることを相手に伝えることが必要であり、その手段としてのツールを使いこなせることが必要です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：内観パースの作成を主に行う学習です。光の当て方に工夫が必要になり、外からの光が室内にどの様に入射してくるかにより全く違う空間になってしまいます。光の設定の学習が出来る様にします。	
期	4		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習4	01) 外観パースにおいて、陸屋根の作成と表現ができる。	
単位	1	02) 外観パースにおいて、外壁のテクスチャーマッピングの設定ができる。	
履修時間	30	03) 内観パース作成のためのデータ準備ができる。	
回数	15	04) 内観パース作成のための光の設定ができる。	
必修・選択	必修	05) 室内の幅木を設定作成ができる。	
省庁分類	-	06) 絨毯を作成するにあたり、パンプの表現設定ができる。	
授業形態	実習	07) 自分の設計した住宅を使い、内観パースを作成できる。	
作成者	小林 文雄	08) 各フロアの鳥瞰図が作成できる。	
教科書	3ds Max 操作と3DCG制作の教科書	09) プレゼンテーションボードの作成準備ができる。	
確認者	杉本 安雄	10) プレゼンテーションボードを完成できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	学科試験を40％、実技試験を60％の割合で判定試験を行い、60点を合格点とする。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にて3次元設計を行った経験を活かし科目を担当		

No	3834108	科目コード	2040301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度	学習内容：4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	
学年	1年次		
期	4		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト3	01) 問題解決に向け、計画書(企画書)にそって計画を実行することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、仲間と協力して行動することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、粘り強く取り組むことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
省庁分類	－	06) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録・報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、技術者として計画の進捗状況から新たな問題点を発見することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、新たな問題点の解決策を筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
教科書	－	09) 問題解決に向け、新たな問題点の修正案を立案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題解決に向け、修正案を実行することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	－	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。		
設計事務所に建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当			

No	3835101	科目コード	1021201
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれている。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるととても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：構造力学4では、静定構造物の復習の後、断面の各性質（断面1次・断面2次・断面係数・応力度・たわみ・座屈）を計算より求め、構造設計の判断の元となる数値を正確に求められるようになります。	
期	5		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学4	01) 静定構造物（復習：荷重・反力・応力）の構造計算ができる。	
単位	1	02) 軸方向力と断面積の関係がイメージできる。	
履修時間	15	03) 材料による強さ（ヤング係数）の違いがイメージできる。	
回数	8	04) 曲げモーメント力と形状による剛さの関係がイメージできる。	
必修・選択	必修	05) 断面1次モーメントを利用し、図形の中心がわかる。	
省庁分類	23. ⑤構造力学	06) 断面2次モーメントを利用し、強軸と弱軸の方向を判別し、梁の適切な使用方向がわかる。	
授業形態	講義	07) 断面係数を利用し、繰応力度がわかる。	
作成者	野上 和裕	08) 応力度（垂直応力度・せん断応力度）を求めるために、適切な計算式を組み立てることができる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学	09) 梁のたわみ（量・角）を、荷重の種類、梁の形状より適切な公式を判断し、値を求めることができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 長柱の形状より座屈長さを求め、計算により弾性座屈荷重がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）	
該当DP	-		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。その知識と経験を活かし科目を担当		

No	3835102	科目コード	1021601
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築が生活空間として機能するためには、躯体に内外装材を施さなければならない。これらは、単に機能を付加するだけでなく、人間の感性に深く影響するので、その知識の習得は建築を学ぶ者にとって重要です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：内外装材料の選択において、床・壁・天井とそれぞれの部位における材料の種類とその特徴を理解し、適切な選択ができるように体系的に学びます。さらにはそれらの下地も含めた取り付け方法について学びます。	
期	5		
教科名	建築材料	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料2	01) 床の仕上げ材の種類とその特徴がわかり、適切な選択ができる。	
単位	1	02) 壁の仕上げ材の種類とその特徴がわかり、適切な選択ができる。	
履修時間	15	03) 天井の仕上げ材の種類とその特徴がわかり、適切な選択ができる。	
回数	8	04) 各部位の下地材の種類とその特徴がわかり、取り付け方法の注意点がわかる。	
必修・選択	必修	05) 各種パネル材料の種類とその特徴がわかり、取り付け方法の注意点がわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) 断熱に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。	
授業形態	講義	07) 防火に対する要求性能に対しての適切な材料選定ができる。	
作成者	宮坂 達	08) シックハウス対策における注意点がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築材料	09) 開口部材の各部位の名称がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3835103	科目コード	1021901
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：施工管理の面で、「防水工事」や「仕上工事」は、その内容が複雑で細心の注意を必要とするものであり、現段階でその概要や基礎的な知識を身に付けることは、今後の学習の理解を深める上でも非常に需要です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：パワーポイントで作成された資料を基本として、各工事の概要・具体的な内容を解説すると共に、実際の現場でそれら各工事がどのような流れで計画され、施工されるのかを確認していきます。	
期	5		
教科名	建築施工	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工3	01) 「屋上・防水工事」の種類や各工法がわかる。	
単位	1	02) 「屋根工事」の種類や各工法がわかる。	
履修時間	15	03) 実際の工事現場で、「仕上工事」が時系列的にどのようなタイミングで施工されるのかわかる。	
回数	8	04) 施工管理業務の中で、「仕上工事」の重要性がわかる。	
必修・選択	必修	05) 塗装、金属、内装、石・タイル工事等の「各仕上工事」の概要と詳細項目がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 他工種（設備工事等の関連工事）との関係性がわかる。	
授業形態	講義	07) 「仕上工事」に関する現場での課題（問題）がわかる。	
作成者	川上 寧	08) 「設備工事」についての概要がわかる	
教科書	初学者の建築講座 建築施工	09) 「メンテナンス」や「瑕疵担保」に関する内容（概要）がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	総合建設会社で様々な構造の建物の現場を担当する現役現場監督としての知識を活かし科目を担当		

No	3835104	科目コード	1022301
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。また法規は建築士の試験科目の1つであり、資格取得の為に内容の理解はもちろん、法令集の調べ方や言い回しに慣れおくことが大切です。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：引き続き「建築基準法」を学びます。前半は各種手続きに関する規定を、後半は建築物の構造耐力に関する規定を取り上げ、それぞれ概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるようにします。	
期	5		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規4	01) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
単位	1	02) 建築基準法の「確認申請」「中間検査」「完了検査」及び「建築主事」「指定確認検査機関」の意味とそれぞれの関係がわかる。	
履修時間	15	03) 建築基準法上、確認済証の取得が必要かどうかを判断することができる。	
回数	8	04) 建築基準法の「各種手続き」に関する規定について、それぞれの規定の概要及び基本の考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築基準法の「構造強度」に関する規定について、全体構成、概要、及び基本の調べ方がわかる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	06) 建築基準法の「構造強度・木造」に関する規定について、原則及び主な例外の読み取り方がわかる。	
授業形態	講義	07) 建築基準法「構造強度・木造」に関する規定うち「柱の小径」「構造耐力上必要な軸組等」について必要な寸法を実際に計算することができる。	
作成者	上岡 加奈	08) 建築基準法の「構造強度」に関する規定うち「補強コンクリートブロック造」「鉄骨造」「鉄筋コンクリート造」について原則及び主な例外の読み取り方がわかる。	
教科書	〔井上〕建築関係法令集	09) 建築基準法の「構造強度」に関する規定うち「基礎」については、「基礎」の項目のほかに「鉄筋コンクリート造」の項目も合わせて調べることができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 建築基準法の「構造強度」に関する規定うち「構造計算」の各項目について、それぞれの概要、及び原則・主な例外の読み取り方がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3835105	科目コード	2020501
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：現場では多様な構造種別の建築物を扱います。5期では、未学習の鉄筋コンクリート壁式構造と木造枠組み工法を設計製図の課題を通して学ぶことで、年度を通して一通りの設計製図の常識が習得できます。	
年度	2025年度	学習内容：鉄筋コンクリート壁式構造と、建築基準法の改正により高層化が可能になった木造枠組み工法を「壁構造」という枠組みの中で比較しながら設計製図を通して学ぶことで、その長所と短所を学びます。	
学年	1年次		
期	5		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習5	01) 壁式構造と軸組み工法（ラーメン構造）の構造的な力の流れの違いがわかる。	
単位	1	02) 壁式構造と軸組み工法（ラーメン構造）の長所と短所がわかる。	
履修時間	45	03) 鉄筋コンクリート壁式構造と木造枠組み工法の耐力壁線区画などの構造的制限の違いがわかる。	
回数	23	04) 鉄筋コンクリート壁式構造と木造枠組み工法の長所と短所がわかる。	
必修・選択	必修	05) 鉄筋コンクリート壁式構造の設計ができる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 木造枠組み工法の設計ができる。	
授業形態	実習	07) 鉄筋コンクリート壁式構造の製図ができる。	
作成者	鈴木 実	08) 木造枠組み工法の製図ができる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 併用住宅の設計課題を読み解くことができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 併用住宅の設計課題のエスキースができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末審査（筆記試験20点＋実技80点）、の合計100点満点の60点以上の成績を合格とする	
該当DP	-		
備考	設計事務所にて意匠・設備設計に携わり、地域開発に関するコンサルなども行っている現役設計者として科目を担当		

No	3835106	科目コード	2021001
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：外部からの光を入れないで室内の光の調整方法が出来るようにいたします。光の使い方をマスターすることにより、どんな場面でも明るいバースの作成が可能となります。	
年度	2025年度		
学年	1年次	学習内容：夜間においての室内バースを作成する授業です。照明器具の光をバランス良く配置をして室内の明るさを表現する手法を学び、室内光の調整方法を学習します。	
期	5		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習5	01) 布地の様な軟らかい素材の表現が3次元でできる。	
単位	1	02) 照明器具からの光を発する表現ができる。	
履修時間	30	03) 室内照明の光のみで内観バースの作成ができる。	
回数	15	04) 折り上げ天井の光演出をした内観バースの作成ができる。	
必修・選択	必修	05) 格子天井の光演出をした内観バースの作成ができる。	
省庁分類	－	06) フォトショップを利用した床材画像を貼り付けることができる。	
授業形態	実習	07) フォトショップを利用した外壁材の画像をレタッチ加工することができる。	
作成者	小林 文雄	08) フォトショップを利用して建物背景の空の空間表現ができる。	
教科書	3ds Max 操作と3DCG制作の教科書	09) フォトショップを利用して点景表現が自在にできる。	
確認者	杉本 安雄	10) A1パネルのプレゼンテーションボードの作成作成ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	学科試験を40%、実技試験を60%の割合で判定試験を行い、60点を合格点とする	
該当DP	－		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にて3次元設計を行った経験を活かし科目を担当		

No	3835107	科目コード	2040401
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度	学習内容：5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います。	
学年	1年次		
期	5		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト4	01) 問題解決に向け、問題点を発見し必要に応じて計画を修正することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、修正した計画を実行することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録することができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、最後まで仲間と協力して行動することができる。	
省庁分類	-	06) 成果報告に向け、問題の発見から解決までに作成してきた資料を整理することができる。	
授業形態	実習	07) 成果報告に向け、資料に基づき、問題解決に取り組む意義、方法、成果等を報告書にまとめることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 成果発表に際し、筋道立ったわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。	
教科書	-	09) 成果発表に際し、聴衆を引き付けるプレゼンテーションを行うことができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 成果発表を終え、問題点・不足点・今後の課題等を整理・報告することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。 ③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびレーダーチャート」を用いて記録する。	
該当DP	-		
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネージメント経験を活かし科目を担当		

No	3831201	科目コード	1010402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383 建築監督科	必要性：建築監督が常に気にかけていなければならない事柄のひとつに、業界の時事があります。失敗例や事故例、新製品・新技術等の最新の情報に触れ、建設業界で働きぬくための技術と知識を涵養する。	
年度	2025年度	学習内容：業界に流通する新聞や週刊誌などを読み解き、そこに出てくるキーワードについて解説を行うことで、より深く記事の内容を理解させる。	
学年	2年次		
期	1		
教科名	監督教養	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	監督教養Ⅰ	01) 働き方改革で変わる建築関係の労働を見直し、現場における勤怠管理の原則がわかる	
単位	1	02) 建築監督の管理上のミスや怠慢が引き起こした社会的問題事例を紹介し、監督の職責や義務がわかる	
履修時間	15	03) 建築界における「重層下請け」の本質を理解し、監督としての現場運営基本がわかる	
回数	8	04) 建築物の価格の構成を理解し、入札に至るまでの筋道やその制度がわかる	
必修・選択	必修	05) 建設業の許可要件を理解し、許可に必要な技術的な責任者と経営的な責任者となるための要件がわかる。	
省庁分類	-	06) 現場事業所における指示命令系統や監督の職制、現場責任者の資質・資格などがわかる	
授業形態	講義	07) 近年多発する「地震」のメカニズムを理解し、建築技術者として知らなければならない新しい耐震技術がわかる	
作成者	杉本 安雄	08) 最新の省エネ・創エネ技術に触れ、これからの建築技術者に求められるIT技術の大意がわかる	
教科書	建通新聞・日経7-キクジャー	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。その知識と経験を活かし科目を担当		

No	3831202	科目コード	1011302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383 建築監督科	必要性：本科のカリキュラムでは3年次以降エンジニア領域の科目群を学ぶことから、広い数理知識を必要とします。こうした科目群に対応できる知識を身に着ける。	
年度	2025年度	学習内容：工学基礎Ⅰでは、四則演算・植木算・通過算・鶴亀算などの算数領域の復習から学び、面積計算、指数計算、方程式、関数などの中高における数学領域の学習を、建築をテーマに復習する	
学年	2年次		
期	1		
教科名	工学基礎	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	工学基礎Ⅰ	01) 少数、分数交じりの四則演算の計算ができる。正の数、負の数の四則演算ができる。	
単位	1	02) 建築で使用する様々な単位の変換を通して、指数計算が指数の計算法則を使って計算できる。	
履修時間	15	03) 三角関数（0～90°）の計算や相似図形の比率計算などを使い、辺の長さや面積の計算ができる	
回数	8	04) 様々な図形の面積の計算ができる。	
必修・選択	必修	05) 図形の図芯を求めることができる。構造計算で使われる断面一次モーメントを使って図芯を求めることができる	
省庁分類	-	06) 一次方程式を解くことができる	
授業形態	講義	07) 連立一次方程式を数式解法と図式解法（グラフ）を使って計算できる	
作成者	杉本 安雄	08) 3元連立方程式まで、マトリクス計算を使って計算できる	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所での建築・構造・設備設計の経験を活かし科目を担当		

No	3831203	科目コード	1030102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383 建築監督科	必要性：集合住宅は建設会社にとって多くの実績のある用途の一つです。具体的な設計方法を知識を身に付けることは、建物の計画・設計のみならず、将来の「現場監督」の基本的な教養・基本知識として関連業種を業務を円滑に進める上で重要です。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：集合住宅・図書館・学校について計画の方法を学習します。高度に複雑化する現代社会の中で、それぞれの建築物がどのような特徴をもって成り立っているのか理解を深めます。	
期	1		
教科名	建築計画	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築計画2	01) 建築研究1/集合住宅1： 集合住宅を計画する上で住棟計画（配置計画）の注意点がわかる。	
単位	1	02) 建築研究2/集合住宅2： 住戸内の計画を進める為の注意点がわかる。	
履修時間	15	03) 集合住宅3/ハーレン・ジードルン： 事例を見る事で集合住宅の計画手法の一端を知る事ができる。	
回数	8	04) 建築研究4/図書館： 図書館を計画する上での専門用語を知り、具体的な計画例での活用方法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築研究5/学校： 教室配置形式の種類、内容、特徴を知る事ができる。	
省庁分類	20.②建築計画	06) 建築研究6/学校（事例研究）： 事例を見る事で学校の計画手法の一端を知る事ができる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	清 孝英	08)	
教科書	やさしい建築計画	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。その知識と経験を活かし科目を担当		

No	3831204	科目コード	1031302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：2年次の製図実習7で学ぶ共同住宅の設計の基礎知識として、今まで学んだ住宅と異なり、こうした建物には大きな相違点があります。法的な問題、近隣の問題、収益の問題などについての建設意図を理解することで設計製図の授業に生かす事ができます。	
年度	2025年度	学習内容：大型建物建設などによる収益事業の全体像を把握し、特に共同住宅を例に「初期支出」「初期収入」「経常収入」「経常支出」の4つの項目とり、経理的・財務的な側面から建物を俯瞰します。	
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築経済	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築経済	01) 集合住宅を戸建て住宅と比べた時のメリットとデメリットがわかり、製図課題の企画に活かすことができる	
単位	1	02) 分譲マンションと賃貸マンションの設計企画上の違いがわかり、事業としての建築のありようがわかる	
履修時間	15	03) 大型建物（特に共同住宅）の企画・設計で起こりえる、目に見えない「支出事項」がわかる	
回数	8	04) 建設予算の組み立てに大きな影響のある、条例や省令を学び、設計課題に活かすことができる	
必修・選択	必修	05) 大型建物の企画手順がわかる。必要な調査項目や準備作業ができる。	
省庁分類	-	06) 分譲マンションの資金計画の原理や販売方法がわかる	
授業形態	講義	07) 賃貸マンションのイニシャルコストから長期にわたり必要となるランニングコストの項目がわかる	
作成者	杉本 安雄	08) 賃貸マンションの事業計画書から、資金の流れやキャッシュフローを読み取ることができる	
教科書	オリジナルテキスト	09) 大型建物の企画を通して、設計におけるコストプランニングの重要性と現場での原価管理の重要性がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No	3831205	科目コード	2030102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：鉄筋コンクリート壁式構造は住宅建築においてよく使われる事から、構造計画を主眼に置き、その計画の特殊性や諸制限を学んでおくことはこれからの様々な課題に取り組んでいくうえで必要です。	
年度	2025年度	学習内容：RCの壁工法を用いた住宅の基本設計図を作成します。比較的規模の大きい住宅を、現実的な法規を理解した上で、壁工法の特徴を活かして立体的に計画していきます。都市部における複雑な法規や要望に対しての提案を、壁工法の住宅計画を通し理解し実戦的に計画できるようにします。	
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習6	01) RC壁工法のしくみが理解し計画に反映できる。	
単位	2	02) RC壁工法の壁量計算ができて計画に反映できる。	
履修時間	60	03) 吹き抜け空間の構成、住環境の創造が理解でき、計画に反映できる。	
回数	30	04) 各種法規、特に実践的な北側斜線（高度斜線）を理解し、計画に反映できる。	
必修・選択	必修	05) 屋根裏部屋や屋上を立体的に構成できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 専用住宅における緩和規定を理解し、計画に反映できる。	
授業形態	実習	07) 居住者の家庭環境の変化に対して可変性のある計画ができる。	
作成者	綾 英登	08) 屋上の活用について理解し、計画に反映できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 外構計画について必要寸法や法規制を理解でき計画に反映できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 要望に対しての提案が、わかりやすい図面等でプレゼンテーションできる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所を開設後、公共的な施設の新設・改修を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3831206	科目コード	2030602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：鉄筋コンクリート壁式構造はラーメン構造とは異なります。矩形図を通して相違点を理解するとともに、部材の構成方法を理解することで、施工管理上の注意点を学ぶことができます。	
年度	2025年度	学習内容：RC壁式構造の矩計図のトレースを通してRC壁式構造体の構成を理解し、その知識をもって学生自身が設計したRC壁式構造の住宅の平面図を作図します。その上でパワーポイント等で計画内容をまとめ、最終的なプレゼンテーションを行い、学生自身が計画した住宅設計の内容を期末の作品講評会において発表します。	
学年	2年次		
期	1		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習6	01) 木造とRC造の空間構成の違いを理解し、木造建築物とRC建築物の図面表現上の違いがわかる。	
単位	1	02) 基準線の役割と矩計図に必要な基準線の種類がわかり、基準線と基礎寸法及び下書き線の作図ができる。	
履修時間	30	03) 耐力壁、雑壁、開口部、パラベットの役割がわかり、壁・スラブ等の躯体、躯体開口部及びパラベットの作図ができる。	
回数	15	04) 開口部の図面の読み取りができ、建具枠線、サッシ断面と付属部品の作図ができる。	
必修・選択	必修	05) 床・壁・天井の仕上げ材の種類を理解し作図ができる。幅木及び回り縁、断熱材の役割がわかる。	
省庁分類	-	06) 配置図兼1階平面図の敷地及び基準線の作図ができる。鉄筋コンクリート構造の壁の役割と作図表現を理解し作図できる。	
授業形態	実習	07) 開口による空間の広がり意識した室内計画、階段の適正な段数の算定、階段の形の検討、手すりの設置の検討ができる。	
作成者	丸山 千春	08) 躯体と雑壁、内壁と外壁の表現の違いがわかり作図できる。設備機器や家具などのインテリア表記の必要性がわかり作図できる。	
教科書	はじめてのAutoCAD Revit(5Rev) LT 2017対応 実務！BIM入門ガイド	09) 必要情報（室名・仕上材・レベル・境界線）の記入を文字でできる。必要寸法（通り芯・開口部・壁厚・前面道路）を記入できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 1階平面図と2階平面図での要求される情報の違いを理解し、作図できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にてBIM設計を行った経験を活かし科目を担当		

No		3832201	科目コード	1010502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由		
科	383. 建築監督科	必要性：現場監督が現場で関わりを持つ、施主・設計者・職人との人間関係の根幹をなす、コミュニケーションの方法を、現役監督から聞き、ものに触れることで、監督に必要な素養が得られます。		
年度	2025年度			
学年	2年次	学習内容：水澤工務店の現役監督が工事にかかわった建物について施工に関する様々な話を聞いた後、実際にその建物を見学し、自身の持つ監督としての資質に気付くことができます。		
期	2			
教科名	監督教養	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目		
科目名	監督教養2	01) 浜離宮庭園の3つのお茶屋（松・燕・鷹）について講義を受け、それぞれの茶屋の存在意義がわかる。		
単位	1	02) 見学前に図面や工事資料を見て、設計者の思考や工事に苦心した点がわかる。		
履修時間	15	03) 実際に実物を見学し、図面に描かれた部分が具体的にどのように工事したかがわかる。		
回数	8	04) 和風建物の工事に携わる職人のこだわりがわかる。		
必修・選択	必修	05) 和風建築に使われる道具やその使い方がわかる。		
省庁分類	-	06) 和風建築の美しさの原点がわかる。		
授業形態	講義	07)		
作成者	福富 則夫（水澤工務店）	08)		
教科書	オリジナルテキスト	09)		
確認者	杉本 安雄	10)		
最終確認者	井坂 昭司	評価方法		
実務教員	○	出席評価を40満点、期末に行う履修判定試験の中で作成するレポート評価を60点満点として評価し、合計60点以上を合格とする。		
該当DP	-			
備考	総合建設業の現役現場監督（ゼネコン工事部長）であることから、監督マインド涵養のための科目を担当			

No	3832202	科目コード	1030302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：歴史的な意匠を理解することは、建築設計におけるボキャブラリーを豊かにすることにつながります。また、本科目は2級建築士試験西洋建築史に対応します。	
年度	2025年度	学習内容：上記に対応しながらも、住宅を中心とした西洋建築史全般を学びます。特にここでは、産業革命以降を「近代」と定義し、近代、現在、ポストモダンに連なる建築の歴史を学びます。	
学年	2年次		
期	2		
教科名	建築史	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築史3	01) 産業革命が建築の歴史に与えた影響（建築素材の変化・装飾の排除）とその理由がわかる	
単位	1	02) 産業革命に反対し装飾の復活を試みたアール&グロヴ運動の背景と経過、そして失敗の理由がわかる	
履修時間	15	03) アール&グロヴ運動を継承したヨーロッパの建築様式（アール&グロヴ、デコレーション等）の特徴、建築、建築家がわかる	
回数	8	04) 同時代のヨーロッパとは対照的な米国の建築動向（シカゴ派）の特徴、建築、建築家がわかる	
必修・選択	必修	05) 装飾の排除と復活という矛盾の解決策として生まれた「工芸＝工業と芸術の統合＝デザイン」の背景と意味がわかる	
省庁分類	20. ②建築計画	06) デザインという思想を確立し世界にこれを普及したバウハウスの誕生と背景、影響を与えた建築や建築家がわかる	
授業形態	講義	07) コルビュの「近代建築5原則」や彼の代表作（ヴワヰ邸、カザドビグゾワ、ロサン教会堂）の特徴がわかる	
作成者	大室 浩明	08) FLライトの「有機的建築」の考え方や彼の代表作（ユツアハウス、落水荘、グッソム美術館）の特徴がわかる	
教科書	コバノ版建築史	09) ミースの「Less is more」の考え方や彼の代表作（ファスハウス邸、パルティパビリ他）の特徴がわかる	
確認者	杉本 安雄	10) 機能主義建築の問題点とその解決策としてのポストモダニズムの現状や代表的建築家がわかる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	住宅メーカーの設計部にデザイン・設計を担当。海外での留学も活かし科目を担当。		

No	3832203	科目コード	1030402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築設備は、機能上、設備機器類・配管・ダクト・配線等は地下の機械室、天井裏やパイプシャフト等に隠れており普段あまり目にすることはないが、建築設備の知識を持つことは建築監督として正しい知識を持つ必要があります。	
年度	2025年度	学習内容：本講義では、「建築設備の概要」から「給排水衛生設備」、「空調調設備」、「電気設備」について、建築技術者として、建築の計画・設計、施工を行う上で必要な知識を学んでいきます。	
学年	2年次		
期	2		
教科名	建築設備	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備3	01) 事務所ビルの建築設備、戸建住宅と集合住宅の建築設備の違いを区別することができる。	
単位	2	02) 地球温暖化の主要原因であるCO2の排出量について、部門別について考えることができる。	
履修時間	30	03) 戸建て住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。	
回数	15	04) 集合住宅の給水設備・給湯設備・排水設備を計画することができる。	
必修・選択	必修	05) 戸建て住宅の空調設備・換気設備を計画することができる。	
省庁分類	22. ④建築設備	06) ビルの空調調設備の主な空調調方式とその特徴がわかる。	
授業形態	講義	07) ビルの空調調設備の系統図・ダクト図・配管図・機械室ダクト図等を理解し説明することができる。	
作成者	小林文雄	08) 建物内の受変電設備の仕組みを理解することができる。	
教科書	初学者の建築講座 建築設備	09) 建物内の電気幹線設備・動力設備の特徴を理解することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 建物内の自家発電設備・蓄電池設備・照明設備・コンセント設備の特徴がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。海外従事の実験も豊富		

No		3832204	科目コード	1030502
系	建築・インテリア系		シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれている。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。 学習内容：構造力学5では、「応力・応力度」「断面の性質」「座屈」を繰り返し学習します。後半は「不静定構造物」に注目し、「ラーメン構造での力の流れ」「地震時の応力」「層せん断力」を理解し各部に発生する力の計算方法を学習します。	
科	383. 建築監督科			
年度	2025年度			
学年	2年次			
期	2			
教科名	構造力学		科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目 01) 「垂直・鉛直・曲げモーメント」より発生する「垂直応力度」「曲げ応力度」の力の流れをイメージできる。 02) 「断面1次モーメント」より「図形の重心」を求めることができる。 03) 「断面2次モーメント」より「形による剛さ」を求めることができる。 04) 「断面係数」より図形の「縁の強さ」を求めることができる。 05) 「材料の剛さ（ヤング係数）」を知り、梁のたわみを求めることができる。 06) 長柱の「座屈長さ係数」を知り、「弾性座屈荷重」を求めることができる。 07) 「荷重図の合成・分解」を理解し、たわみ式を利用して「不静定構造物のモーメント図」を求めることができる。 08) 「剛度・剛比」「分割モーメント・到達モーメント」を理解し「不静定構造物のモーメント図」を求めることができる。 09) せん断力と曲げモーメントの関係を理解し、ラーメン構造の各部に発生する「地震時の応力」を求めることができる。 10) 「層せん断力」の力の関係を理解し、多層多スパンのラーメン構造の各部に発生する「地震時の応力」を求めることができる。	
科目名	構造力学5			
単位	1			
履修時間	15			
回数	8			
必修・選択	必修			
省庁分類	23. ⑤構造力学			
授業形態	講義			
作成者	野上 和裕			
教科書	初学者の建築講座 建築構造力学			
確認者	杉本 安雄			
最終確認者	井坂 昭司			
実務教員	○			
該当DP	-			
備考	設計事務所での建築・構造・設備設計の経験を活かし科目を担当			

No	3832205	科目コード	1030902
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築の監督に求められる4大任務（品質・コスト・工程・安全）は、監督が常に意識をもっていなければ達成できません。これらを概観し、建築生産1～8までで学ぶ詳細な生産技術の基礎とします。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：施工管理者に求められる職能を学んでいきます。いわゆる4大任務と呼ばれる「品質」「コスト」「工程」「安全」の観点から学んでいきます。建設工事現場は、沢山の人が関わり、また経済的影響も大きなものであるため、時には環境、法律、経営、経済、労務といった知識も必要となることを、実例を通して学んでいきます。	
期	2		
教科名	生産管理	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	生産管理	01) 建築生産という考えが出てきた背景がわかる。	
単位	1	02) 工事管理と工事計画のポイントがわかる。	
履修時間	15	03) 品質管理の要点がわかる。	
回数	8	04) コスト管理の要点がわかる。	
必修・選択	必修	05) 工程管理の要点がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 安全管理の要点がわかる。	
授業形態	講義	07) ネットワーク工程表におけるクリティカルパスが算出できる。	
作成者	宮坂 達	08) 施工管理者に求められる4大業務以外の職能がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、③、⑦、⑧、⑨		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3832206	科目コード	2030202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：集合住宅ならではの計画上の工夫やラーメン構造について理解する必要性があります。住環境と集合性を理解して計画できる必要性があります。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：本講座では、独立住宅にない集合住宅固有の問題点を理解した上で、計画・構造に関する計画演習を行い、集合住宅の設計課題に対する基本構想案を練り上げていきます。	
期	2		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習7	01) 三斜入力による実際の敷地が入力できる。	
単位	2	02) 実際の敷地特性が現地調査により理解できる。	
履修時間	60	03) RCラーメン構造について理解し、実際に計画できる。	
回数	30	04) 2方向に道路がある場合の道路斜線について理解し、計画に反映できる。	
必修・選択	必修	05) 第二種高度斜線を理解し、計画に反映できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 住棟形式や特徴について理解し、計画に反映できる。	
授業形態	実習	07) 住戸形式や特徴について理解し、計画に反映できる。	
作成者	綾 英登	08) 集合住宅に関係する用語を理解し、計画に反映できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) コモンスペースの種類や活用方法について理解し、計画に反映できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 現在の集合住宅の特性や工夫を理解し、計画に反映できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	出席20点満点、課題評価40点満点、履修判定試験40点満点で評価。尚、課題評価点及び出席評価点合計60点満点については、履修判定試験時に行う実技試験に変わる事もある。得点60点以上をもって合格とする。	
該当DP	-		
備考	設計事務所を開設後、公共的な施設の新設・改修を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3832207	科目コード	2030702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：学生自身が設計した2階建RC造都市型住宅の図面をもとに、図面だけでは説明しにくい空間のつながりや広がり、内部と外部の関係などをプレゼンテーション模型を製作し、立体的、視覚的に建築の全体像を施主及び施工者等にコミュニケーションを通じての伝達方法等を取得する。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：プレゼンテーション模型に必要な完成度、製作の手順、伝達すべき空間内容の把握と表現方法、模型材料の選び方、模型工作に必要な工具と材料の扱い方、模型としてのスケール感の表し方、模型を使ったプレゼンテーションとその表現を学びます。	
期	2		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習7	01) 模型の種類と役割、表現すべき縮尺、製作のための材料と道具の選び方がわかる。模型製作の手順を考え、組立てる事ができる。	
単位	1	02) 模型用施工図の必要性がわかり製作できる。部材を切り出し接着し、開口部を切り出す事ができる。部材整理用の箱をつくり整頓できる。	
履修時間	30	03) 模型用施工図に必要な線、不要な線の選択ができる。施工図を印刷し模型材料に無駄なく効果的に貼付ける事ができる。	
回数	15	04) 模型のベースとなる敷地を切り出し表現できる。コーナーの処理の重要性がわかり、一枚残し等の技術を使って切り出す事ができる。	
必修・選択	必修	05) 一階と二階、屋根を分割し各階の平面的つながりと、立体的つながりを表現し説明する事ができる。	
省庁分類	-	06) 内壁を断面図の高さを理解し切り出す事ができる。窓の表現に必要な材料を選択し、縮尺に合わせた枠の表現を選択し表現できる。	
授業形態	実習	07) 模型の主要な表現部分である開口部、建具、ドア等を縮尺に合わせて製作できる。階段を縮尺に合わせ製作できる。	
作成者	丸山 千春	08) カッターの種類と役割がわかる。模型としての屋根の重要性と役割がわかる。陸屋根、勾配屋根を製作できる。	
教科書	はじめてのAutodesk Revit(Revit LT 2017)② 実技1 BIM入門ガイド	09) 建築模型の本体に合わせた外構の表現、作業内容がわかる。庭、アプローチ、点景の種類を理解し必要な点景を配置できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 模型と図面、パース等を使ったプレゼンテーションボードを製作し、設計意図等を第三者に効果的に伝達できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にてBIM設計を行った経験を活かし科目を担当		

No	3832208	科目コード	2040502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要である。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組む。	
期	2		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト5	01) 問題発見に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題発見に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題発見に向け、技術者としての問題意識をもって、現状の問題点を指摘することができる。	
回数	15	04) 問題発見に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題発見に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
省庁分類	-	06) 問題発見に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題設定に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題設定に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
教科書	-	09) 問題設定に向け、現状の問題点から解決すべき課題を提案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題発見をとおして設定した課題の社会的な意義等を適切に説明することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
		③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネージメント経験を活かし科目を担当		

No	3832209	科目コード	2060202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設現場において監督の行う墨出（測設）は、建物の品質を左右する重要な作業である。現代建築において墨出は、トランシットなどの光学機器を使用して行うことから、その操作は必須である。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：トランシットの標定（据付）とそれを使って角度を読み取り、その結果を検証し誤差を修正する方法を学ぶとともに、度分秒の四則計算や三角関数を使った寸法の計算方法も学ぶ。	
期	2		
教科名	測量実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	測量実習2	01) トランシットの操作方法、標定の方法がわかる	
単位	1	02) トランシットのバーニヤを使って、角度の読み取りができる	
履修時間	30	03) 読み取った角度の補正ができる	
回数	15	04) 度分秒の角度の四則演算ができる。三角関数を使って、未知の寸法が計算できる	
必修・選択	必修	05) トランシットを使って、逃げ墨が作れる（測設）	
省庁分類	32. ⑩その他	06) 放射法と導線法を使って、多角形の測量ができる	
授業形態	研修	07) 測量した多角形の面積が計算できる（座標法による面積計算）	
作成者	杉本 安雄	08) トランシットを使って、垂直方向の角度計測を行い、高さの測量ができる	
教科書	技報堂 図解土木講座「測量学」	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所での建築・構造・設備設計の経験を活かし科目を担当		

No	3833201	科目コード	1010602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：現場監督が現場で関わりを持つ、施主・設計者・職人との人間関係の根幹をなす、コミュニケーションの方法を、現役監督から聴き、ものに触れることで、監督に必要な素養が得られます。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：水澤工務店の現役監督が工事にかかわった建物について施工に関する様々な話を聞いた後、実際にその建物を見学し、自身の持つ監督としての資質に気付くことができます。	
期	3		
教科名	監督教養	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	監督教養3	01) 和風建築に使われる材料や木組みの仕組みを実際に手に取り、匠の技の素晴らしさがわかる。	
単位	1	02) 和風建築の左官材料がわかり、具体的な工事の方法がわかる。	
履修時間	15	03) 日本伝統の塗料「漆」の工事手順がわかる。	
回数	8	04) 新和風（新数寄屋）の精神を理解し、幕張海浜公園の松籟亭の建築手法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 松籟亭を見学し、新和風（新数寄屋）の茶室空間を自ら体感し、日本伝統の美がわかる。	
省庁分類	-	06) 建築見学を通して、監督がどのように設計者と対峙しているかがわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	福富 則夫（水澤工務店）	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	出席評価を40満点、期末に行う履修判定試験の中で作成するレポート評価を60点満点として評価し、合計60点以上を合格とする。	
該当DP	-		
備考	総合建設業の現役現場監督（ゼネコン工事部長）であることから、監督マインド涵養のための科目を担当		

No	3833202	科目コード	1011402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：監督科では3年次からエンジニアリング系の科目群を学んでいきます。工学系の技術者として数学や物理学の知識も必要となることから、学習に必要な数理知識を学びます。	
科	383. 建築監督科		
年度	2025年度	学習内容：指数計算や対数計算、微分・積分、多元連立方程式、行列式など、今後学んでいくために必要な高等数学を、実例を通して学びます。	
学年	2年次		
期	3	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	工学基礎		
科目名	工学基礎2	01) 指数と対数の計算がわかる。 02) 対数を使って、環境工学系の問題を解くことができる。	
単位	1		
履修時間	15	03) 1次関数、2次関数のグラフを描くことができる。 04) 関数のグラフの交点座標や、2次関数の頂点座標を求めることができる。	
回数	8		
必修・選択	必修	05) 関数の微分ができる。 06) 関数の積分ができる。	
省庁分類	32. ⑩その他		
授業形態	講義	07) 積分を使って部材内に働く曲げ応力やせん断応力の一般式を求めることができる。 08)	
作成者	杉本 安雄		
教科書	オリジナルテキスト	09) 10)	
確認者	杉本 安雄		
最終確認者	井坂 昭司	評価方法 授業中に行った課題レポート4割、期末に実施される履修判定試験6割で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
実務教員	○		
該当DP	-		
備考		設計事務所での建築・構造・設備設計の経験を活かし科目を担当	

No	3833203	科目コード	1030202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：各公共施設の概要・歴史的背景、具体的な運用内容等の知識を身に付けることは、建物の計画・設計のみならず、将来の「現場監督」の基本的な教養・基本知識として関連業種を業務を円滑に進める上で重要です。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：テキスト、パワーポイント資料を活用しながら、各（公共）施設の概要・構成・施設の運用方法等を解説し、授業の最後には、カルテによって基本的な知識の習得度を確認します。	
期	3		
教科名	建築計画	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築計画3	01) 現在建設が進む公共建築（施設）には、どのようなものがあるのかわかる。	
単位	1	02) 「事務所ビル」や公共建築物が発展してきた歴史的背景がわかる。	
履修時間	15	03) 「事務所ビル」の基本計画・各部設計の概要がわかる。	
回数	8	04) 「劇場、コンサートホール」の種類や構成内容がわかる。。	
必修・選択	必修	05) 「商業施設」、「ホテル等の宿泊施設」の計画概要、各部計画の内容がわかる。	
省庁分類	20. ②建築計画	06) 「博物館・美術館」の構成内容がわかる。	
授業形態	講義	07) 「病院等の医療施設」の構成内容がわかる。	
作成者	川上 寧	08) 「高齢者施設」の種類とその内容がわかる。	
教科書	やさしい建築計画	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	－		
備考	建設会社で設計、施工管理、生産設計に従事。その知識と経験を活かし科目を担当		

No	3833204	科目コード	1030602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築技術者として、建築工事における3大構造の一つである鉄骨構造に関する基礎的知識の習得が重要です。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：この科目では、鉄骨構造の概要を理解し、鉄骨（鋼）構造の骨組みや床組みを構成するための、加工・組立の基本的な知識を学ぶとともに、接合部分に関する特徴を学びます。	
期	3		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造3	01) 鉄骨構造の材料的発展及び構造計画の発展の歴史がわかる。	
単位	1	02) 鉄骨構造における各種構造形式がわかる。	
履修時間	15	03) 鉄骨構造のメリット・デメリットがわかる。	
回数	8	04) 鋼材の種類や機械的性質の違いがわかる。	
必修・選択	必修	05) 基準強度、許容応力度、降伏強度、引張強度、ヤング係数といった言葉の意味がわかる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 鉄骨構造における構造設計手法（保水平耐力計算、限界耐力計算）等の概要がわかる。	
授業形態	講義	07) 引張部材、圧縮部材、曲げ部材といった各部の設計の概要がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) 接合方法とその特徴、管理の要点がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	－		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3833205	科目コード	1030802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築材料1、2で学んだ素材が、建築物の具体的な部位となるときに、どのような観点で素材を選定しなければならないのかを、法規や機能を踏まえて学んでいきます。	
年度	2025年度	学習内容：建築の内外装の仕上げとなる石材、タイル、レンガ、ガラス、非鉄金属材料、塗料、左官材料といった具体的な材料に関する基本的な知識を学んでいきます。	
学年	2年次		
期	3		
教科名	建築材料	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料3	01) 石材の種類と特徴がわかり、適切な工法の選定ができる。	
単位	1	02) 非鉄金属材料の種類と特徴がわかり、部材製作時の注意点と施工管理時の注意点がわかる。	
履修時間	15	03) ガラスの種類と特徴がわかり、適切な材料選定ができる。	
回数	8	04) レンガの概要がわかり、レンガの積み方の違いによる施工管理上の注意点がわかる。	
必修・選択	必修	05) 粘土瓦の概要がわかり、瓦の種類の違いによる施工管理上の注意点がわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) 左官材料の種類と特徴がわかり、施工管理上の注意点がわかる。	
授業形態	講義	07) 塗料、仕上げ塗材の種類と特徴がわかり、適切な材料選定ができる。	
作成者	宮坂 達	08) シックハウス症候群の概要がわかり、仕上げ材料における適切な材料選定ができる。	
教科書	初学者の建築講座 建築材料	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3833206	科目コード	1031102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築関連法規の知識は、建築関係のどの分野で働く場合にも必要不可欠です。また法規は二級建築士・一級建築士の試験科目の1つであり、法令集の調べ方や言い回しに慣れておくことが必要です。	
年度	2025年度	学習内容：はじめに、「建築基準法」のうち、各種手続きに関わる規定である「確認申請・中間検査・完了検査」「報告」「届出」を取り上げ、その概要を理解するとともに、法令集で関連条文を調べることができるようにします。次に、建築に関わる「建築基準法以外」の法のうち主なものを取り上げ、それぞれの全体像及び概要を理解します。	
学年	2年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	3	01) 建築基準法のうち前期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
教科名	建築法規	02) 建築基準法の「確認申請・中間検査・完了検査」については、目的、それぞれの関係性、及び「指定確認検査機関」とは何か、「定期報告・報告、届出」については、目的及び概要がわかる。	
科目名	建築法規5	03) 建築基準法の各種手続きに関する条文から、それぞれの規定を正しく解釈することができる。	
単位	1	04) 「建築士法」について、その目的がわかり、概要を知るため必要な一部の規定については条文を正しく解釈することができる。	
履修時間	15	05) 「建設業法」について、その目的がわかり、概要を知るため必要な一部の規定については条文を正しく解釈することができる。	
回数	8	06) 「住宅の品質確保の促進等に関する法律」について、その目的がわかり、概要を知るため必要な一部の規定については条文を正しく解釈することができる。	
必修・選択	必修	07) 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」について、その目的がわかり、概要を知るため必要な一部の規定については条文を正しく解釈することができる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	08) 「都市計画法」について、その目的がわかり、概要を知るため必要な一部の規定については条文を正しく解釈することができる。	
授業形態	講義	09) 「建築物の耐震改修の促進に関する法律」について、その目的がわかり、概要を知るため必要な一部の規定については条文を正しく解釈することができる。	
作成者	上岡 加奈	10) その他の主な法律（消防法、エネルギーの使用の合理化等に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、長期優良住宅の普及の促進に関する法律、宅地建物取引業法、宅地造成等規制法、民法）について、その目的及び概要がわかる。	
教科書	[井上] 建築関係法令集	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司		
実務教員	○		
該当DP	-		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3833207	科目コード	2030302
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：各自で企画、設計した建築物を、実用性・建設コスト・施工性・汎用性・拡張性・省エネルギー等様々な観点から判断でき、他の人々へプレゼンテーションを通じて説明できる人材は、建設業のどの業態においても重要な要素です。	
年度	2025年度	学習内容：前期で作成したエスキース図面をもとにCAD図面やCG等を作成する。制作物をプレゼンテーションボードにまとめてプレゼンテーションを行います。	
学年	2年次		
期	3		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習8	01) 企画案を建築的に評価でき、最終案を導くことができる。	
単位	1	02) 各図面をCADにより図面化することができる。	
履修時間	45	03) 断面構成を理解し、断面図や矩計図を作成することができる。	
回数	23	04) 各種斜線を理解して図面表現ができ、回避策を提案できる。	
必修・選択	必修	05) 各種外部仕上げを理解し、図面に表現できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 各種内部仕上げを理解し、図面やCGに表現できる。	
授業形態	実習	07) 外構要素を理解し、図面やCGに表現できる。	
作成者	綾 英登	08) 遊憩施設を理解し、図面に表現できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) ルールテラスや屋上の重要性を理解し、各種図面やCGに表現できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 作製図面やCGをまとめてプレゼンテーションボードを作成し、プレゼンできる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	プレゼンテーションボードによるプレゼンを通して、判断する。	
該当DP	-	知識面に関しては履修判定試験を通じて判断する。合計点によって最終評価とする。（60点以上）	
備考	設計事務所を開業後、公共的な施設の新設・改修を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3833208	科目コード	2030802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：学生自身が設計した「集合住宅」の図面をもとに、空間のつながりや広がり、内部と外部の関係などを図面・模型・パース等を製作し、立体的、視覚的に建築の全体像を施主及び施工者等に伝達する力は、建設業で働く者にとっては非常に重要です。	
年度	2025年度	学習内容：図面・模型・パース等、各素材が設計のコンセプトの何を伝えるものなのかをイメージし、時間内に仕上がる範囲をしっかりと見極め、より重要なものから手を入れプレゼンテーションボードの完成を目指します。	
学年	2年次		
期	3		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習8	01) 基本設計図書の範囲と種類がわかり、表現すべき内容を理解したうえで、基本設計図書にまとめることができる。	
単位	1	02) 建物外観パースを作成する手順を理解し、CADデータとして活用するためにAutoCADデータの整理ができる。	
履修時間	30	03) 建物外観パースの外壁開口部作成の手順を理解し、外壁開口部の種類と用途に応じた部品作成ができる。	
回数	15	04) 建物外観パースに必要な主要パーツをパース内に作成、配置できる。	
必修・選択	必修	05) 建物外観パースに必要な細部表現がわかりフォトリリスティックなレンダリング表現ができる。	
省庁分類	-	06) 住戸内観パースを作成する手順を理解し、CADデータとして活用するためにAutoCADデータの整理ができる。	
授業形態	実習	07) 住戸内観パースの内部開口部作成の手順を理解し、内部開口部の種類と用途に応じた部品作成ができる。	
作成者	丸山 千春	08) 住戸内観パースに必要な細部表現がわかりフォトリリスティックなレンダリング表現ができる。	
教科書	はじめのAutocad Revit(8月) LT 2017(9月 実施) BIM入門ガイド	09) 製作した模型の写真撮影の仕方がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 図面・模型・パース等を使ったプレゼンテーションボードを製作し、設計意図を第三者に効果的に伝達できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にてBIM設計を行った経験を活かし科目を担当		

No3833209		科目コード2031102
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由
科	383. 建築監督科	必要性：建築のエンジニアにとって、人体でいえば骨組みとなる構造と人体でいえば心臓・血液ともいえる設備は重要な学習です。
年度	2025年度	
学年	2年次	学習内容：配管の記号などを理解して設備給排水配管系統図・便所給排水配管詳細図が描けるようになります。また、BIMソフトを用いて、立体的な配管も描けるようになります。
期	3	
教科名	建築設備設計製図	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目
科目名	建築設備設計製図1	01) 建築設備の企画が作成できる。 02) 建築設備の基本計画ができる。 03) 給水配管設備の系統図が作成できる。 04) 排水配管設備の系統図が作成できる。 05) 衛生器具や配管の記号を理解することができる。 06) 排水配管の合流式と分流式の違いが明確にわかる。 07) 便所詳細図を作図することができる。 08) 汚水管、雑排水管、給水管、給湯管の接続方法がわかる。 09) BIM_Revitを利用して排水配管の詳細図を描くことができる。 10) BIM_Revitを利用して給水配管の詳細図を描くことができる。
単位	1	
履修時間	30	
回数	15	
必修・選択	必修	
省庁分類	22.④建築設備	
授業形態	実習	
作成者	小林 文雄	
教科書	初学者の建築講座 建築設備	
確認者	杉本 安雄	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法
実務教員	○	筆記試験による履修判定試験により【70点】+課題提出による習熟度チェックにより【30点】＝合計【100点】とし、60点以上で合格とする。
該当DP	-	
備考	建築設備の設計施工に携わり、機械設備・プラント設計・施工の経験を活かし科目を担当	

No3833210		科目コード2040602
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要である。
年度	2025年度	
学年	2年次	学習内容：3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。
期	3	
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目
科目名	リアルジョブプロジェクト6	01) 問題解決に向け、関連する情報を収集することができる。 02) 問題解決に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。 03) 問題解決に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。 04) 問題解決に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。 05) 問題解決に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。 06) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。 07) 問題解決に向け、筋道をたてて(論理的に)考えることができる。 08) 問題解決に向け、技術者として解決のための方法や手順を提案することができる。 09) 問題解決に向け、工程表および予算書を提案することができる。 10) 問題解決に向け、解決のための方法や手順を計画書(企画書)にまとめることができる。
単位	1	
履修時間	30	
回数	15	
必修・選択	必修	
省庁分類	-	
授業形態	実習	
作成者	白井 雅哲	
教科書	-	
確認者	杉本 安雄	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。 ③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。
該当DP	-	
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当	

No	3834201	科目コード	1010702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383 建築監督科	必要性：建築監督は経験豊富な「職人」を束ねる職種ですが、「職人」の経験と仕事の仕方を理解することは、就職後の現場における自身の位置付けを理解するのに必要です。	
年度	2025年度	学習内容：浜離宮庭園内に水澤工務店が施工した2つの「お茶屋」を題材に、監督が経験した、起工から竣工までの様々な苦労や喜びを学びます。	
学年	2年次		
期	4		
教科名	監督リテラシ	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	監督リテラシI	01) 浜離宮恩賜庭園（東京都）と水澤工務店との関係がわかる。	
単位	1	02) 庭園内で水澤工務店が施工した本格的な「数寄屋作り」の施工過程が写真やビデオを通してわかる。	
履修時間	15	03) 浜離宮庭園内の「松のお茶屋」の意匠的な特徴を理解し、宮大工の「粋や技」がわかる。	
回数	8	04) 浜離宮庭園内の「燕のお茶屋」の意匠的な特徴を理解し、宮大工の「粋や技」がわかる。	
必修・選択	必修	05) 浜離宮庭園内の「鷹のお茶屋」の意匠的な特徴を理解し、宮大工の「粋や技」がわかる。	
省庁分類	-	06) 浜離宮庭園内の各お茶屋で使われた宮大工の使用する道具と施工箇所との関係がわかる。	
授業形態	講義	07) 宮大工の大作道具への執着と工夫がわかる。	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	出席評価を40満点、期末に行う履修判定試験の中で作成するレポート評価を60点満点として評価し、合計60点以上を合格とする。	
該当DP	-		
備考	総合建設業の現役現場監督（ゼネコン工事部長）であることから、監督マインド涵養のための科目を担当		

No	3834202	科目コード	1030702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383 建築監督科	必要性：建物の安全性を確保するためには、上部躯体の構造とそれを支える基礎構造が適切に設計、施工されていなければなりません。基礎構造の確実な知識の習得は非常に重要です。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：建物の基礎構造形式の種類とその特徴について学んでいくとともに、基礎が設置される地盤面に関する基本的な知識を習得します。災害事例を踏まえ、地盤対策についても学びます。	
期	4		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造4	01) 基礎の種類とその特徴がわかり、構造図から、どのような基礎であるか判断できる。	
単位	1	02) 地層の種類とその特徴がわかる。	
履修時間	15	03) 地盤調査の種類とその目的がわかり、その概要が説明できる。	
回数	8	04) 標準貫入試験の内容がわかり、柱状図やN値について概要が説明ができる。	
必修・選択	必修	05) せん断強さ、粘着力、摩擦力、圧密沈下といった性質がわかり、概要を説明できる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 液状化現象がわかり、その対策も含め概要が説明できる。	
授業形態	講義	07) 直接基礎の種類がわかり、その選定上の留意点がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) 杭基礎の種類がわかり、その選定上の留意点がわかる。	
教科書	初学者の建築講座 建築構造	09) 地盤の許容地耐力、許容支持力、許容沈下量の概要がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3834203	科目コード	1031002
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築各部の積算ルール、並びに各部の名称を理解し、社会に出てから必要とされる積算方法を学ぶ事で、現場監督として必要な基礎力を身に付けさせます。	
年度	2025年度	学習内容：土工事・鉄筋工事・型枠工事・コンクリート工事から、仕上工事に渡る各部の名称と扱い出しのルールを理解させます。	
学年	2年次		
期	4		
教科名	建築積算	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築積算	01) 建築工事費の階層構造と、各区分（直接工事費・純工事費・工事原価・工事価格）がわかる。	
単位	2	02) 数量積算基準（設計・所要・計画）や、計測単位がわかる。	
履修時間	30	03) 基礎と基礎梁、柱と梁や床版・壁との取合い、内外仕上の各区分がわかる。	
回数	15	04) 根伐の数量積算方法について学ぶ。深さと法幅・余幅の関係や、根伐基準レベルの考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 床付け・砕石地業、捨てコンの計測や、埋戻し数量の積算方法がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) コンクリートの積算方法について学ぶ。鉄筋・鉄骨体積の割合や、開口部控除等がわかる。	
授業形態	講義	07) 型枠の積算方法について学ぶ。先と後の関係や、控除基準がわかる。	
作成者	片倉 啓太	08) 鉄筋の積算方法について学ぶ。各部名称、定着や余長、フックや継手等の配筋ルールがわかる。	
教科書	基準にもとづく建築積算入門	09) 仕上の各区分について理解をし、内法寸法の基準と控除項目がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 内装の天井・壁・床の積算ルール及び、開口部の構成を理解した上で積算ルールがわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑤		
備考	総合建設会社で様々な構造の建物の現場を担当する現役現場監督としての知識を活かし科目を担当		

No	3834204	科目コード	1031202
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：労働基準法を理解することは、近い将来労働者の立場になり、また現場の労働者を指揮監督する立場にもなる者にとって必要不可欠です。この規定は、施工管理技術者試験において出題される重要項目でもあります。	
年度	2025年度	学習内容：最初に労働法の全体像及び労働基準法に関わる基本事項を学びます。次に、労働基準法の主な項目について、案文を用いながら具体的に学びます。	
学年	2年次		
期	4		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規6	01) 労働法の種類、それぞれの法の概要及び関係がわかる。	
単位	1	02) 労働基準法の各項目について、質問の解答に必要な条文を探すことができる。	
履修時間	15	03) 労働基準監督署、労働基準監督官、社会保険、労働者、使用者、賃金等の、基本的な用語の法上の意味がわかる。	
回数	8	04) 労働契約における雇用期間、明示事項、解雇及び退職に関する事項について、適法か違法かの判断ができる。	
必修・選択	必修	05) 賃金に関する事項について、適法か違法かの判断ができる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	06) 労働時間に関する事項について、適法か違法かの判断ができる。	
授業形態	講義	07) 年少者に関する事項について、適法か違法かの判断ができる。	
作成者	上岡 加奈	08) 補償の種類及び労災保険との関係がわかる。	
教科書	〔井上〕 建築関係法令集	09) 就業規則における絶対的必要記載事項、相対的必要記載事項、及び任意的記載事項の違いを判断できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 法令、労働協約、就業規則、及び労働契約の優先順位がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑩		
備考	設計事務所に現場の設計監理業務を行う一方、設計施工現場を請け負う中での労務管理経験を活かして科目を担当		

No	3834205	科目コード	2030402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：高齢者に適した建物を、建築基準法に則って計画できるようにする。複合施設の動線計画を整理して計画できるようにします。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：実在する敷地に建築法規や必要な仕様、周辺環境に則って高齢者複合施設案を計画する。基準階と複合用途の動線分離を確認しながら案を構築させます。	
期	4		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習9	01) 高齢者施設の種類や特徴がわかる。	
単位	1	02) 敷地の特徴と建築法規について理解し各自計画に反映できる。	
履修時間	30	03) 高齢者の生活や身体的な特徴がわかる。	
回数	15	04) 特別養護老人施設の法的条件を理解し計画に反映できる。	
必修・選択	必修	05) 特別養護老人施設に必要な所要室を理解し計画できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 各施設の動線が交錯しない複合施設機能図が作成できる。	
授業形態	実習	07) 高齢者施設の様々な建築的な工夫がわかる。	
作成者	綾 英登	08) ユニットケアについての特徴を理解し計画できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 高齢者施設に適した複合施設を理解し、より魅力的な建築物を計画できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 複合用途建築物の有効な建物配置を理解し、計画に反映できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所を開設後、公共的な施設の新設・改修を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3834206	科目コード	2030902
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由 必要性：学生自身が設計した「福祉施設」の図面をもとに、空間のつながりや広がり、内部空間と外部空間の関係性等を図面・模型・パース等を製作し、設計を行った建築の全体像を立体的、視覚的に施主及び施工者に伝達する方法論を取得します。 学習内容：今期は図面・模型・パース等、各素材が設計のコンセプトの何を伝えるものなのかを理解し、時間内に仕上がる範囲とスケジュールを把握しながら、設計条件や敷地条件の整理及びエスキースから基本設計図書図面の作成までを目指します。	
科	383. 建築監督科		
年度	2025年度		
学年	2年次		
期	4		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習9	01) 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の概要がわかる。高齢者福祉施設の建築事例から福祉施設の現状がわかる。	
単位	1	02) 設計に必要な敷地分析の法規等の項目と分析方法がわかる。配置図エスキースの手順がわかり、エスキースを完成できる。	
履修時間	30	03) 個室ユニット型福祉施設の概要と必要性がわかる。個室ユニット型福祉施設の空間構成がわかり、エスキースを完成できる。	
回数	15	04) 敷地概要の分析に必要なデータをインターネット等を使用し取得できる。敷地に係る斜線制限の整理ができ、内容がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建築基準法上に関わる主な規定項目を確認し法令上の判断ができる。法令を遵守した建築のエスキースを完成できる。	
省庁分類	-	06) デイサービスに必要なプログラムとサービスメニューがわかる。デイサービスの空間実例を参考にエスキースを完成できる。	
授業形態	実習	07) ユニットケアに必要なプログラムと空間要素がわかる。ユニットケアの空間実例を参考にエスキースを完成できる。	
作成者	丸山 千春	08) ショートステイに必要なプログラムとサービスメニューがわかる。ショートステイの空間実例を参考にエスキースを完成できる。	
教科書	はじめのAutodesk Revit(Revit LT 2017対応 実践！BIM入門ガイド	09) 基本設計図書の種類と内容を理解できる。基本設計図書に必要な情報、表現範囲、作図方法がわかり完成できる。	
確認者	杉本 安雄	10) プレゼンテーションボード製作及びプレゼンテーション発表に必要な図面素材、構成材料がわかり製作、発表できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び実習評価点による（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にてBIM設計を行った経験を活かし科目を担当		

No	3834207	科目コード	2040702
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	
期	4		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト7	01) 問題解決に向け、計画書(企画書)にそって計画を実行することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、仲間と協力して行動することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、粘り強く取り組むことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録・報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、技術者として計画の進捗状況から新たな問題点を発見することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、新たな問題点の解決策を筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、新たな問題点の修正案を立案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題解決に向け、修正案を実行することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考	設計事務所に建築業務の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	

No	3835201	科目コード	1010802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築監督は経験豊富な「職人」を束ねる職種ですが、「職人」の経験と仕事の仕方を理解することは、就職後の現場における自分自身の位置付けを理解するのに必要です。	
年度	2025年度	学習内容：葛西臨海公園内に水澤工務店が施工した茶室「松籟亭」を題材に、監督が経験した、起工から竣工までの様々な苦労や喜びを学びます。	
学年	2年次		
期	5		
教科名	監督リテラシ	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	監督リテラシ2	01) 数寄屋建築で木材の仕口や継手使われる古典的な技法や仕組みが、本組み博物館の見学を通してわかる。	
単位	1	02) 大工の使用する道具を実際に見て、触って、その使い方がわかる。	
履修時間	15	03) 松籟亭の起工から竣工までの過程がわかる。	
回数	8	04) 見学に行く松籟亭について、監督の目録での見学ポイントがわかる。	
必修・選択	必修	05) 松籟亭を実際に見学し、見学ポイントとして学んだところが確認できる。	
省庁分類	-	06) 松籟亭の茶室（立礼席）で甜茶体験を行い、その空間を感じ、設計者の意図がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	出席評価を40満点、期末に行う履修判定試験の中で作成するレポート評価を60点満点として評価し、合計60点以上を合格とする。	
該当DP	-		
備考	総合建設業の現役現場監督（ゼネコン工事部長）であることから、監督マインド涵養のための科目を担当		

No	3835202	科目コード	1031402
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物は「人の生命と財産を守らなければならない」といわれている。建築構造力学はその基本的な部分にある、「強さ」や「守る」に関わるとても重要な分野であり建築に携わるものとして必須の知識です。	
年度	2025年度	学習内容：構造力学6では構造力学5により学んだ内容の復習と応用問題に取り組み、後半では振動・地震に着目し、「固有周期、振動モード、共振、応答スペクトル、減衰」や「終局耐力、全塑性モーメント、塑性ヒンジ」を学び建物の崩壊を理解、判断できるように学習します。	
学年	2年次		
期	5		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学6	01) 不特定構造物において、剛度を求め、剛比を元に分割モーメント、到達モーメントの値がわかる。	
単位	1	02) 不特定構造物のモーメント図が作図できる。	
履修時間	15	03) ラーメン構造における地震時の応力において、せん断力と曲げモーメントの関係がわかる。	
回数	8	04) 外力を受ける多層ラーメン構造において、各層に影響する層せん断力、各部材に掛かる負担がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建物をモデル化し、振動による固有周期が計算によりわかる。	
省庁分類	23.⑤構造力学	06) 共振現象の意味を理解し、どのように状況で共振現象が発生するかがわかる。	
授業形態	講義	07) 応答スペクトル（変位・速度・加速度）のグラフから適切な値を読み取ることができる。	
作成者	野上 和裕	08) 塑性解析時の終局耐力・崩壊荷重・保有水平耐力が分かり、弾性・降伏・弾塑性・全塑性の状況を判断できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) ヒンジ法により、崩壊機構（崩壊のメカニズム）を理解し崩壊メカニズム図が作図できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 崩壊メカニズム図より、仮想仕事の原理を利用し、崩壊荷重がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所での建築・構造・設備設計の経験を活かし科目を担当		

No	3835203	科目コード	2030502
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築の現場においては、建築基準法関連のチェックは現場が最終的に行う必要があります。その為、実際の法規に適合した必要図面等を計画性をもって作成する力が求められます。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：前期の基本設計を元に、関連の法規（基準法・バリアフリー法）や福祉施設関連規定等の問題点を改善し各種図面、模型、CG等を完成させてプレゼンテーションできるようにします。	
期	5		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習10	01) プレゼンテーションのあり方について理解し、各自の目標を立てることができる。	
単位	1	02) 効果的なプレゼンテーション構成を理解でき、各自のボードに反映できる。	
履修時間	30	03) 高齢者施設のあり方を想定した上で、各自案の問題点を理解でき、修正・改善できる。	
回数	15	04) 各種図面に記入しなければならない内容を理解でき、各自図面に表現できる。	
必修・選択	必修	05) 複合施設の動線を理解でき、図面上に表現できる。	
省庁分類	31.①建築設計製図	06) 各種法規を確認でき、図面上に表現できる。	
授業形態	実習	07) 高齢者施設の素材のあり方を理解でき、各自計画に反映できる。	
作成者	綾 英登	08) 高齢者への各部の対応が理解でき、各自計画に反映できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 高齢者施設の設備のあり方を理解でき、各自の計画に反映できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 各自の成果物を効果的に説明でき、自分の案を伝えることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験とプレゼンテーション（発表、作品）で行う。（60+40） 60点/100点をもって合格とする。	
該当DP	-		
備考	設計事務所を開業後、公共的な施設の新設・改修を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3835204	科目コード	2031002
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：学生自身が設計した「福祉施設」の図面をもとに、空間のつながりや広がり、内部空間と外部空間の関係性等を図面・模型・パース等を製作し、設計を行った建築の全体像を立体的、視覚的に表現し、各自が施工者の立場に立って伝達できるかが必要です。	
年度	2025年度	学習内容：前期は前期に引き続き図面・模型・パース等、各素材が設計のコンセプトの何を伝えるものなのかを理解し、時間内に仕上がる範囲とスケジュールを把握しながら、作成した基本設計図面から模型・パース等を作成し、それらの素材を最終プレゼンボードにまとめます。	
学年	2年次		
期	5		
教科名	建築立体造形実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築立体造形実習10	01) 高齢者の住まいを寝室とキッチンの住まい方を通してデザインを行う理由と方法論がわかる。高齢者用の寝室とキッチンでデザインできる。	
単位	1	02) 高齢者の住まいを水回りのあり方を通してデザインする理由と方法論がわかる。高齢者用の水回り空間がデザインできる。	
履修時間	30	03) 高齢者の住まいを福祉用具を使用した住まい方を通してデザインする方法がわかり、高齢者が福祉用具を使用する空間がデザインできる。	
回数	15	04) 高齢者の住まいを動線を考慮した住まい方を通してデザインする理由と方法論がわかる。高齢者の動線に配慮した空間をデザインできる。	
必修・選択	必修	05) 高齢者の住まいをライフスタイルと暮らし方の多様化を考慮してデザインを行う理由と方法論がわかる。	
省庁分類	-	06) 高齢期の多様な住まい方に対応した施設の種類と入居条件、設定されている入居目標がわかる。	
授業形態	実習	07) 高齢者にやさしいまちづくり、まちづくりを進めていくための諸法令、制度の内容がわかる。	
作成者	丸山 千春	08) 少子高齢化の現状と課題、地域社会、社会全体の取組みの必要性、日本の住環境の問題を相談んだ福祉住環境計画の方法がわかる。	
教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト	09) 図面表現の基本と目的、模型の種類とつくり方、模型の作成を通しての設計手法がわかり、製作ができる。	
確認者	杉本 安雄	10) プレゼンに必要な意匠的要素（形の基本、対象、対比、反復、流れ、調和、統一、抑揚、均衡等）のデザインワードを理解しプレゼンテーションボードに表現できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び実習評価点による。（60点/100点をもって合格とする。）	
該当DP	-		
備考	大手設備施工会社にて、建築・プラント設計及び施工管理を経験。設計業務にてBIM設計を行った経験を活かし科目を担当		

No	3835205	科目コード	2040802
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	2年次	学習内容：5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います。	
期	5		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト8	01) 問題解決に向け、問題点を発見し必要に応じて計画を修正することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、修正した計画を実行することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録することができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、最後まで仲間と協力して行動することができる。	
省庁分類	－	06) 成果報告に向け、問題の発見から解決までに作成してきた資料を整理することができる。	
授業形態	実習	07) 成果報告に向け、資料に基づき、問題解決に取り組む意義、方法、成果等を報告書にまとめることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 成果発表に際し、筋道立ったわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。	
教科書	－	09) 成果発表に際し、聴衆を引き付けるプレゼンテーションを行うことができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 成果発表を終え、問題点・不足点・今後の課題等を整理・報告することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	－	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考	設計事務所に建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	

No	3831301	科目コード	1031703
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物の実施設計段階において、無理のない構造と寸法を統計的に整理された構造的なデータに基づいて仮定する手法を習得することにより、最も望ましい構造方式を選択し、安全で均整のとれた構造体をつくることができる建築技術者としての資質を養うことを目標としている。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：本講座では、一般的に使われている各種構造物の構法、構造形式、構造材料により分類し、その特徴を把握することによって、これから設計しようとする建築物に最も適した構造を選択するために必要な手法、考え方等についての知識を習得する。	
期	1		
教科名	建築一般構造	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築一般構造5	01) 補強コンクリートブロック造の構造がわかる。	
単位	1	02) プレキャストコンクリート構造の仕組み・特徴がわかる。	
履修時間	15	03) プレストレスコンクリート構造の仕組み・特徴がわかる。	
回数	8	04) 木造枠組壁構法（ツーバイフォー）の仕組み・特徴がわかる。	
必修・選択	必修	05) 免震構造とは何かが理解できる。	
省庁分類	24. ⑥建築一般構造	06) 建築構造計画内容と方法がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	李 正浩	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンで構造設計実務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を活かし科目を担当		

No	3831302	科目コード	1031803
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築監督の4大業務の中でも、「品質管理」を行う上で必要な知識です。管理を行う時に必要な「建築工事監理指針」に基づき学習を進めます。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：鉄筋コンクリート構造を構成する鉄筋工事について学びます。鉄筋の構造性能が発揮されるためには、構造設計図書で指定された鉄筋材料を、正しく加工し、正しく組立てることにつきます。鉄筋工事は、計画から施工までの一連のプロセスの中で求められる知識量は非常に多く、躯体工事の基本となる工事です。	
期	1		
教科名	建築生産	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築生産1	01) 施工管理者の立場とその業務がわかる。	
単位	1	02) 工事関係図書と契約履行、施工管理の一般共通事項がわかる。	
履修時間	15	03) 鉄筋材料の種類と特徴がわかる。	
回数	8	04) 鉄筋の加工・組立における管理項目がわかる。	
必修・選択	必修	05) 鉄筋の継手長さ及び位置がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 鉄筋の定着長さ及びその方法がわかる。	
授業形態	講義	07) 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) ガス圧接工事の管理項目がわかる。	
教科書	建築工事監理指針	09) 機械式継手の種類と特徴がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 検査及び不合格となった時の処置方法がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、③、⑦、⑧、⑨		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3831303	科目コード	2021103
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：3年生では様々な施工図を描きますが、その基本的な知識を一通り概観することで、今後の学習効果の向上につなげます。	
年度	2025年度		
学年	3年次	授業内容：建築が計画されて完成するまでには、大きく分けて2つの種類の図面が描かれます。ひとつは、建築主の要望や設計者の設計意図などが盛り込まれ、これから建築する建物の全体の姿を描いた、いわば建築の「ありよう」を図面化したものです。もうひとつは、その建物を具体的にどう造るか、いわば建築の「やりよう（作り様）」を図面化したものです。この科目では、建物のやりようを図面化した「施工図」について、基本的な知識を身につけます。	
期	1		
教科名	建築施工図概論	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工図概論	01) 建築工事全体の中での施工図の位置付けがわかる。	
単位	1	02) 施工図におけるコンクリート寸法図の位置付けがわかり作成の主体者が明確にできる。	
履修時間	30	03) コンクリート寸法図に使われる記号や、そこに記入される数字や文字の情報の意味がわかる。	
回数	15	04) コンクリート寸法図が誰のためにかかれ、その為に何が必要かわかる。	
必修・選択	必修	05) タイルを例に、外装仕上げ材のコンクリート寸法への影響がわかる。	
省庁分類	-	06) 内装仕上げ材料の割付開始位置や割付方法がわかる。	
授業形態	実習	07) 機械設備機器に付帯して必要となる準備工事内容がわかり、プロット図の持つ意味がわかる。	
作成者	杉本 安雄	08) 電気設備機器に付帯して必要となる準備工事内容がわかり、プロット図の持つ意味がわかる。	
教科書	初めて学ぶ建築実務テキスト「建築施工図」	09) 階段周りのコンクリート寸法図作成ポイントがわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 総合図のあるべき姿とその必要性がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	④		
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3831304	科目コード	2031503
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設業界では、住宅のリフォームから大規模公共施設・商業施設まで、改修工事が増加しています。改修工事には新築工事の場合とは異なるアプローチでの設計手法や施工技術といったより広範囲な知識を習得します。	
年度	2025年度		
学年	3年次	授業内容：従来の建築系学科では履修されることの少ない分野であった用途変更を伴う改修工事について、改修と新築工事の差異、設計に係る留意点、施工上制約や工法について製図実習を通し学習します。	
期	1		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習11	01) 改修工事とはどのようなことか、法令上の建築行為としてどのように定義されているかわかる。	
単位	1	02) 改修工事の範囲（リフォーム、リニューアル、リノベーション、大規模修繕、耐震補強改修等）がわかる。	
履修時間	30	03) 建物用途別（住居系、医療福祉系、商業系、事務所系）に係る改修計画がわかる。	
回数	15	04) 建物外部の外装仕上別による劣化原因とその改修及び工法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 建物内部の内装仕上別による劣化原因とその改修及び工法がわかる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 建築設備（各種機器器具類・衛生配管等）に係る劣化原因とその改修及び工法がわかる。	
授業形態	実習	07) 既存RC造建物を事例に、改修に係る法令上の規定における検討、適法化等がわかる。	
作成者	加藤 諭	08) 既存RC造建物を事例に、設計に係る制約（無窓居室）及び床レベル設定等がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 既存RC造建物を事例に、改修に係る構造体の検討、撤去範囲等についてわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 既存RC造建物を事例に、施工に係る制約（保全や環境対策）及び仮設計画等がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	建築・設備設計事務所にて設計業務・設計監理業務を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3831305	科目コード	2032603
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：意匠図が建築の「有り様」を示す図面であるのに対しコンクリート寸法図は工事の「やり様」を示す図面であり、工事をするうえで必要不可欠な図面であり、建築の仕上材料や設備、構造などの情報を一枚にまとめた図面である。建築施工図実践1、2では、RCラーメン構造の建物の躯体平面図と断面図を意匠図を参考に描いていきます	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：建築施工図実践1では、外壁のタイル割から基本となる躯体の全体寸法の調整を符うとともに、主に基礎伏図の躯体平面図（コンクリート寸法図）を作図します。	
期	1		
教科名	建築施工図実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工図実践1	01) 外壁タイルの種類と施工方法がわかる	
単位	1	02) タイルの平面方向の割付を行い、仕上厚、目地寸法、タイル枚数等から躯体寸法が調整できる	
履修時間	30	03) タイルの垂直方向の割付を行い、打継目地寸法、目地寸法、タイル枚数等から、階高などの調整ができる。	
回数	15	04) 基礎の躯体コンクリートやフーチンなどのコンクリート平面寸法図が描ける	
必修・選択	必修	05) 設計図、構造リストや仕様書を参考に、基礎部分の躯体断面寸法図が描ける	
省庁分類	32. ⑩その他	06) 大梁・小梁、フーチング・スラブ等に使われる躯体記号の種類がわかり、記入寸法等が正しく記入できる	
授業形態	実習	07) 躯体図を使用する職方を理解し、その職務に必要な寸法を整理し正しく記入できる	
作成者	杉本 安雄	08) 記入された線分一つひとつの意味が理解できる	
教科書	初めて学ぶ建築実務テキスト「建築施工図」	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験（学科70点満点・提出物評価30点満点）で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	③、④		
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3832301	科目コード	1031903
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：鉄筋コンクリート構造の建物はいうまでもなく、木造、鉄骨造の建築物でもコンクリート工事のない建物はありません。コンクリートの品質を最も左右するのは、間違いなく施工管理であり、十分な知識を持たなければなりません。	
年度	2025年度	学習内容：コンクリートは設計、材料、施工がそれぞれ深く連動しており、切り離して考えることはできませんが、調査設計から、現場打設、品質管理の部分を重点的に学びます。	
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	2	01) コンクリート工事における一般事項、言葉の定義がわかる。	
教科名	建築生産	02) コンクリートの種類と要求品質がわかる。	
科目名	建築生産2	03) コンクリートの材料及び調査設計上の留意点がわかる。	
単位	1	04) レディミクストコンクリートの発注から製造及び運搬までの注意点がわかる。	
履修時間	15	05) 普通コンクリートの品質管理がわかる。	
回数	8	06) コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締め固めがわかる。	
必修・選択	必修	07) コンクリートの養生がわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	08) 型枠工事の概要がわかる。	
授業形態	講義	09) コンクリートの試験がわかる。	
作成者	宮坂 達	10) 軽量コンクリート、寒中コンクリート、他各種コンクリートの特徴と要求性能がわかる。	
教科書	建築工事監理指針	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司	該当DP	
実務教員	○	備考	
備考	①、③、⑦、⑧、⑨	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当	

No	3832302	科目コード	1032303
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設業法は「建設業を営む者の資質の向上、建設工事の請負契約の適正化等を図ることによって、建設工事の適正な施工を確保し、発注者を保護するとともに、建設業の健全な発達を促進し、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする」ものであり、建設会社で働くなら避けては通れない重要な法律です。	
年度	2025年度	学習内容：最初に建設業法の精神を学び、基本の考え方や法の全体構成を理解します。次に法令集を用いながら具体的な規定を学ぶとともに、より実務的な状況に当てはめ、すべきこと・してはならないこと等を理解します。	
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	2	01) 建設業法の精神と概要・全体構成がわかる。	
教科名	建築法規	02) 法令集から必要な条文を探ることができる。	
科目名	建築法規7	03) 「建設業を営む者」「建設業者」「下請け契約」「発注者」「元請負人」「下請負人」の法上の定義と違いがわかる。	
単位	1	04) 建設業の許可の種類と、その違いがわかる。	
履修時間	15	05) 建設業の許可を受けるための条件を、法令集から許可の違い別に読み取ることができる。	
回数	8	06) 請負契約の原則がわかる。	
必修・選択	必修	07) 下請契約の締結に関する規定を、法令集から読み取ることができる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	08) 下請契約を締結する場合にすべきこと・してはならないことと、流れがわかる。	
授業形態	講義	09) 主任技術者と監理技術者の役割及び違いを、法令集から読み取ることができる。	
作成者	上岡 加奈	10) 建設業の許可の種類と、主任技術者・監理技術者の関係がわかる。	
教科書	〔井上〕 建築関係法令集	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司	該当DP	
実務教員	○	備考	
備考	⑩	準大手ゼネコンにて意匠・構造設計・施工管理に従事し現場代理人として会社の経営にも参画。その経験を活かし科目を担当	

No	3832303	科目コード	2031603
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設業実務に必要不可欠である改修工事に係る設計手法及び施工上の制約等を理解することを目標に前期に継続して授業を行います。	
年度	2025年度	学習内容：本期では、内装材及び内部建具等の自主選定を行いつつ、各室の用途や特性に沿った設計を行います。文、空調及び換気設備図を作成するのに際して、躯体スリーブの確認等を理解可能な様に学習します。	
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	2	01) 室用途及び使用内容、性質等に応じた内装材の選定と内装仕上表の作成ができる。	
教科名	建築製図実習	02) 内装仕上表と連動し、展開図及び天井伏図の作成ができる。	
科目名	建築製図実習12	03) 外部及び内部建具の計画性を学習することで、建具表の作成ができる。	
単位	1	04) 換気設備図の作成に係り、法令上の換気規定（シックハウス換気含め）がわかる。	
履修時間	30	05) 機械換気計算（居室・非居室・火気使用室・シックハウス）の計算ができる。	
回数	15	06) 空調設備図の作成に係り、パッケージ空調機を使用した空調計画の策定がわかる。	
必修・選択	必修	07) 躯体スリーブ図の確認を行うことで、改修工事に関する設備工事への制約条件等がわかる。	
省庁分類	－	08) 施工計画書を作成することで、請負者（現場代理人）の提示する書類作成ができる。	
授業形態	実習	09) 施工計画書を作成することで、請負者（現場代理人）が必要な施工図・仕様書・施工指示の内容がわかる。	
作成者	加藤 諭	10) 施工計画書を作成することで、仮設計画及び解体計画の具体的な実務内容がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司	同時に課題図・施工計画書・プレゼンボードの作成及び提出を必須条件とする。	
実務教員	○	備考	
備考	－	建築・設備設計事務所に設計業務・設計監理業務を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当	

No	3832304	科目コード	2032003
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：集合住宅の建築計画・設計を行う上で、建築の中に給排水衛生設備がどのように納まっていくのか知っておくことは大切なことです。実際に図面が描けることを目標とします。	
年度	2025年度	学習内容：集合住宅における給排水衛生設備設計上の注意点を把握し、給排水設備平面図、給排水設備系統図について製図規則に基づき、実際に図面を描いていきます。	
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	2	01) 集合住宅における給水方式の計画方法がわかる。	
教科名	建築設備設計製図	02) 受水槽、高置水槽等の大きさや設置方法がわかる。	
科目名	建築設備設計製図2	03) 揚水ポンプ、直送ポンプ等の決め方がわかる。	
単位	1	04) 住戸内の給水・給湯・排水の配管経路について計画することができる。	
履修時間	30	05) 全体の給水設備の配管経路について計画することができる。	
回数	15	06) 全体の排水水設備の配管経路について計画することができる。	
必修・選択	必修	07) 弁類、計器類等の役割やその取り付け位置がわかる。	
省庁分類	22. ④建築設備	08) 配管サイズの求め方や配管材料のことがわかる。	
授業形態	実習	09) 計画に基づいた給排水設備の平面図が製図規則に基づき描くことができる。	
作成者	今野 祐二	10) 計画に基づいた給排水設備の系統図が製図規則に基づき描くことができる。	
教科書	オリジナルテキスト	評価方法	
確認者	杉本 安雄	筆記による履修判定試験（60%）、提出図面評価（30%）、出席率（10%）の総合評価とし、100点満点中60点以上を合格とする。	
最終確認者	井坂 昭司	備考	
実務教員	○	建築設備の設計施工に携わり、機械設備・プラント設計・施工の経験を活かし科目を担当	
備考	－		

No	3832305	科目コード	2032203
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：学んできた専門知識を統合し、建築現場の工事の流れを理解し、工事に関わる一連の工程の内容と多様な工種の種類を把握し理解する。将来的な建築現場における主要な人材としての建築現場に関する基礎知識を取得する。	
年度	2025年度	学習内容：建築現場で実際に行われている業務の流れがどのようなものか、何を注意しながら仕事を進めているかを学び「学習」する。授業で学んだ内容をチーム毎に建物の着工から完成までを各自考えたポイントでまとめ、建築現場の流れの知識を深め説明出来るよう「実習」を行う。	
学年	3年次		
期	2		
教科名	建築施工計画実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工計画実践1	01) 準備工事に於ける、建築工事、電気設備・機械衛生設備、製品・製作物、図面、書類・検査・申請の内容がわかる。	
単位	1	02) 準備工事に於けるポイント、地鎮祭、仮囲い工事、仮設引き込み、発注物の納期、製作図と施工図、施工計画書等を説明できる。	
履修時間	30	03) 杭・土工事に於ける、建築工事、電気設備・機械衛生設備、製品・製作物、図面、書類・検査・申請の内容がわかる。	
回数	15	04) 杭・土工事に於けるポイント、山留・根切り、杭頭処理、捨コン工事、納入仕様書、スリーブ補強、試験杭検査等を説明できる。	
必修・選択	必修	05) 基礎工事・躯体工事に於ける、建築工事、電気設備・機械衛生設備、製品・製作物、図面、書類・検査・申請の内容がわかる。	
省庁分類	32.⑩その他	06) 基礎工事・躯体工事に於けるポイント、鉄筋、型枠、コンクリート工事、設備スリーブ工事、中間検査等の内容、手順を説明できる。	
授業形態	実習	07) 内部仕上工事に於ける、建築工事、電気設備・機械衛生設備、製品・製作物、図面、書類・検査・申請の内容がわかる。	
作成者	丸山 千春	08) 内部仕上工事に於けるポイント、金属製建具取付、断熱材、石膏ボード・ビニールクロス貼工事、消防中間検査等の内容を説明できる。	
教科書	建築施工計画実践テキスト	09) 外部仕上工事・外構工事に於ける建築工事、電気設備・機械衛生設備、製品・製作物、図面、書類・検査・申請の内容がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 外部仕上工事・外構工事に於けるポイント、屋根防水、天井ボード、エレベーター、外構植栽図、完了検査等の内容、手順を説明できる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、⑦		
備考	設計事務所に現場の設計監理業務を行う一方、実務としての生産設計・設計監理の経験を活かし科目を担当		

No	3832306	科目コード	2032703
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：意匠図が建築の「有り様」を示す図面であるのに対しコンクリート寸法図は工事の「やり様」を示す図面であり、工事をするうえで必要不可欠な図面であり、建築の仕上材料及設備、構造などの情報を一枚にまとめた図面である。建築施工図実践1、2では、RCラーメン構造の建物の躯体平面図と断面図を意匠図を参考に描いていきます	
年度	2025年度	学習内容：建築施工図実践2では、施工図実践1で計算したタイル割を参考に、1階・2階の躯体平面図（コンクリート寸法図）を作図します。	
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	2	01) 設計図及び仕様書に基づき、コンクリート躯体の平面図（様図）を描くことができる	
教科名	建築施工図実践	02) 建具納まりを理解し、タイル割付けによる開口幅からコンクリート開口幅と開口位置が正しく描ける	
科目名	建築施工図実践2	03) 建具納まりを理解し、タイル割付けによる開口高からコンクリート開口高と開口位置が正しく描ける	
単位	1	04) タイル割を考慮したサッシュ類の発注寸法（内法幅×内法高）が計算できる	
履修時間	30	05) サッシュの施工上のクリアランスの取り方について、基本的な考え方や取付方法が理解できる	
回数	15	06) 設計図、構造リストや仕様書を参考に、各階の躯体断面寸法図が描ける	
必修・選択	必修	07) 大梁・小梁・スラブ・建具等に使われる躯体記号の種類がわかり、記入寸法等が正しく記入できる	
省庁分類	32.⑩その他	08) 躯体図を使用する職方を理解し、その職務に必要な寸法を整理し正しく記入できる	
授業形態	実習	09) 記入された線分一つひとつの意味が理解できる。線分の太さや線種が正しく表現できる	
作成者	杉本 安雄	10)	
教科書	初めて学ぶ建築実務テキスト「建築施工図」	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験（学科60点満点・提出物評価40点満点）で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司	該当DP	
実務教員	○	③、④	
該当DP	③、④	備考	
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3832307	科目コード	2033103
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：就職活動を含め、企業の実施するインターンシップに参加する時、ただ現場を見て来るのでは意味はありません。現場監督が行っている仕事をしっかり理解するために、また自己の安全を守るためにも、2級建築施工管理技士（学科）を取得していることが必要です。	
年度	2025年度	学習内容：様々な科目に散らばっている施工管理に関する知識をこの授業の中に集約し、4期前半に行われる2級建築施工管理技術者検定試験に受験し、合格を目指します。プレインターン1では施工・生産管理・法規を中心に学習します。	
学年	3年次		
期	2		
教科名	プレ・インターン	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	プレ・インターン1	01) 建築施工1～3までの授業内容を思い出し整理して記憶を確かなものにし、試験内容に対応できる。	
単位	1	02) 施工・生産管理の授業内容を思い出し整理して記憶を確かなものにし、試験内容に対応できる。	
履修時間	30	03) 建築法規6～8（労基法・業法・安衛法）までの授業内容を思い出し整理して記憶を確かなものにし、試験内容に対応できる。	
回数	15	04) 仕上工事の授業内容を思い出し整理して記憶を確かなものにし、試験内容に対応できる。	
必修・選択	必修	05) 毎回の授業で過去10年の問題を実施し、過去問に対する回答ができる。	
省庁分類	-	06) 過去に学んだ知識の中から、法律・指針の変更点が整理できる。	
授業形態	実習	07) 新傾向出題に関する予想と対策ができる。	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑩		
備考	設計事務所にて、建築設計・設備設計業務を行う現役設計者で広い知識を活かし科目を担当		

No	3832308	科目コード	2040903
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：2期においては、専門性をおとしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組みます。	
期	2		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト9	01) 問題発見に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題発見に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題発見に向け、技術者としての問題意識をもって、現状の問題点を指摘することができる。	
回数	15	04) 問題発見に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題発見に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
省庁分類	-	06) 問題発見に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題設定に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題設定に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
教科書	-	09) 問題設定に向け、現状の問題点から解決すべき課題を提案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題発見をおして設定した課題の社会的な意義等を適切に説明することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
		②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
該当DP	-	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネージメント経験を活かし科目を担当		

No	3833301	科目コード	1032003
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設技術者として、建築工事における主要三構造のひとつである鉄骨構造に関する施工方法についての知識の習得が重要です。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：この科目では、鉄骨構造を構造設計の考え方、材料、部材製作、工事計画、施工といった様々な観点から基礎的知識を習得していくます。	
期	3		
教科名	建築生産	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築生産3	01) 鉄骨構造の特徴がわかる。	
単位	1	02) 鋼材、ボルト類、溶接材料、デッキプレート等の材料の種類と性能がわかる。	
履修時間	15	03) 鉄骨製作工場の概要と工場選定の要点がわかる。	
回数	8	04) 鉄骨製作図のチェックポイントがわかる。	
必修・選択	必修	05) 鋼材の加工と組み立ての流れがわかり、管理の要点がわかる。	
省庁分類	34. ③建築生産	06) 鋼材の接合方法の種類と管理の要点がわかる。	
授業形態	講義	07) 高力ボルト接合における締め付け方法とその管理の要点がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) 溶接接合の種類と特徴がわかり、特に現場溶接における要点がわかる。	
教科書	建築工事監理指針	09) 鉄骨建て方計画における計画の要点がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 鉄骨建て方における施工管理の要点がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、③、⑦、⑧、⑨		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3833302	科目コード	2031203
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：私たちの周りにある建築物には様々な種類の建築材料が使用されています。安全で快適な生活空間を提供する為には使用される建築材料の力学特性を正確に捉えることは非常に重要です。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：本講座では、特にコンクリートを中心に、JIS やJASSで決められている試験方法、その測定・試験を実際に行い、材料の特性を把握します。RC造梁の設計・製作・実験の作業の流れを体験的に学習することにより、建築技術者としての資質を養うことができます。	
期	3		
教科名	建築材料実験	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築材料実験	01) コンクリートの各種強度とコンクリートの調合設計ができる。	
単位	1	02) コンクリートの調合設計による各材料の計量方法がわかる。	
履修時間	30	03) フレッシュコンクリートの空気量測定方法がわかる。	
回数	15	04) フレッシュコンクリートのスランプ値測定方法がわかる。	
必修・選択	必修	05) コンクリートの練り混ぜ方法や作り方がわかる。	
省庁分類	25. ⑦建築材料	06) コンクリート圧縮試験用供試体の制作がわかる。	
授業形態	実習	07) RC造梁の断面配筋詳細図を描くことができる。	
作成者	李 正浩	08) RC造梁の鉄筋（主筋・あばら筋）の組み方がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) RC造単純はりの曲げ試験のやり方とその結果による破壊モードが把握できる。	
確認者	杉本 安雄	10) RC造梁の終局強度の計算ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンで構造設計業務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を活かし科目を担当		

No	3833303	科目コード	2131703
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設実務において広範囲で採用されている鉄骨構造を理解することを目標に、設計だけでなく施工上の各種構成要素を取り入れながら授業を行うことで、現場監督員としての基礎学習の一端とします。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：本期では、課題要求に準じたプランニングから開始し、建築基準法令上のチェックを行いつつ、建具表及び無意計算、立面図作成を行い、同時に仮設図面を作成することで施工計画を理解可能な様に学習します。	
期	3		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習13	01) 設定された敷地内に平面上のプランニングを行う過程で、計画基礎の配置レイアウトができる。	
単位	1	02) 上記01) において計画した計画基礎をもとに、土工事関連の仮設図を作成しつつ、施工上の制約がわかる。	
履修時間	30	03) 鉄骨構造の基準スパンを設定し、上下階との柱配置を行い、構造上の整合性がわかる。	
回数	15	04) 鉄骨構造の外装材（ALC）を使用したレイアウト（ALC割）及び柱との取り合い寸法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 内部間仕切壁の設計に係り、軽量形鋼下地（LGS）とPB（下地ボード）の計画を行い、その施工法がわかる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	06) 開口部（窓）の計画に係り、建築基準法令上の排煙・換気計算を行い、居室の開口部規定がわかる。	
授業形態	実習	07) 上記06) において確定した開口部により平面図を完成させ、建具表の作図手法がわかる。	
作成者	加藤 諭	08) 階高及び軒高、最高高を設定し、断面寸法を確定することで立面図の作図手法がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 建築基準法令上の避難規定に係り、2方向避難の有無を平面上の歩行距離算定し、図示することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 配置図の作図及び建物求積図の作図手法がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-	同時に課題図・施工計画書・プレゼンボードの作成及び提出を必須条件とする。	
備考	建築・設備設計事務所に設計業務・設計監理業務を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3833304	科目コード	2032103
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	建築監督科	必要性：建築と設備の関わりは密接なため、建築を企画・設計する段階から設備のことも考慮することが大切です。この科目では実際に設備設計を行って図面を描くことで、建築と設備の関係を理解していきます。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：この科目では、空調設備の設計製図を行います。当校の建物を題材に空調負荷計算、機器選定、配管・ダクトサイズ決定などを行い、実際に図面を描いていきます。	
期	3		
教科名	建築設備設計製図	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備設計製図3	01) 空調負荷計算の設計条件の決定と負荷計算の手順がわかり、負荷計算書を作ることができる。	
単位	2	02) 負荷計算結果を集計し、各機器の容量を決めることができる。	
履修時間	30	03) 決定した各機器の容量から、それぞれの製品カタログから選ぶことができる。	
回数	15	04) 建築図（平面図）をみて機器を適切な位置にプロットすることができる。	
必修・選択	必修	05) 配管およびダクト経路を適切に決めることができる。	
省庁分類	22. ④建築設備	06) 分かりやすい系統図を描くことができる。	
授業形態	実習	07) 平面図および系統図の配管・ダクトサイズを決め、図面に記入することができる。	
作成者	今野祐二	08) 設備図面として必要事項が図面に記載することができる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 選定した機器について必要事項を機器表に記入することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 各図面の整合性についてチェックすることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記による履修判定試験及び提出図面評価点の総合点100点中60点以上を合格とする。	
該当DP	-		
備考	建築設備の設計施工に携わり、機械設備・プラント設計・施工の経験を活かし科目を担当		

No	3833305	科目コード	2032303
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築工事の施工実務に於いて、各種工事の「施工計画書」及び「総合施工計画書」を作成することは、必須の施工管理業務であり、作成方法を習得すべき重要な施工管理業務書類です。	
年度	2025年度	学習内容：身近な「建築監督科・科展示」を題材として実習をおこなっていきます。配布するプリントを参考資料とし、各自がA3×10枚の「科展示施工計画書」を作成し、実際に下級生を職人として科展示設置を行います。	
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	3		
教科名	建築施工計画実践	01) 科展示施工計画書の表紙、目次に記述すべき内容がわかる。表紙、目次を作成できる。	
科目名	建築施工計画実践2	02) 科展示施工計画の内容を理解しコンセプトを立案できる。コンセプトの立案手順がわかる。	
単位	1	03) 科展示施工計画の内容を理解し組織図を作成できる。作成手順がわかる。	
履修時間	30	04) 科展示施工計画の内容を理解し展示作品リストを作成できる。作成手順がわかる。	
回数	15	05) 科展示施工計画の内容を理解し展示レイアウト図・平面図を作成できる。作成手順がわかる。	
必修・選択	必修	06) 科展示施工計画の内容を理解しパーティション施工計画図・平面図を作成できる。作成手順がわかる。	
省庁分類	-	07) 科展示施工計画の内容を理解しパーティション施工計画図・展開図を作成できる。作成手順がわかる。	
授業形態	実習	08) 科展示施工計画の内容を理解し材料・資材リストを作成できる。作成手順がわかる。	
作成者	丸山 千春	09) 科展示施工計画の内容を理解し展示場施工工程表を作成できる。作成手順がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	10) 科展示施工計画の内容を理解し施工役割分担表を作成できる。作成手順がわかる。	
確認者	杉本 安雄	評価方法	
最終確認者	井坂 昭司	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
実務教員	○	該当DP	
該当DP	①、⑦		
備考	設計事務所に現場の設計監理業務を行う一方、実務としての生産設計経験などを活かし科目を担当		

No	3833306	科目コード	2032803
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：躯体図は、監督が全体の工事の「やり様」を現場で作業する全員に共有するための重要なコミュニケーションツールであり建築の品質管理の中心になる図面です。3期は、難易度の高い階段の施工図を学びます。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：階段の躯体平面図（1階、2階）と断面図の作成を行います。	
期	3		
教科名	建築施工図実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工図実践3	01) 1、2階の階段施工図（平面図）の描き方がわかる	
単位	1	02) 1、2階の階段の仕上厚や手摺の寸法を念頭に置き、躯体の幅員を躯体図に反映できる	
履修時間	30	03) 1、2階の階段の表現と天井の割付を念頭に置き、スラブに埋め込むインサートの位置がわかる	
回数	15	04) 仕上げ材とRC打ち放し面との納まり方がわかる	
必修・選択	必修	05) 型枠が埋め殺しにならないような工事の方法ができる	
省庁分類	－	06) 断面図を通して床の仕上げ材の種類（仕上厚）と、躯体寸法の関係がわかる	
授業形態	実習	07) 階段内に露出する梁型の、図面上の処理方法がわかる。	
作成者	杉本 安雄	08) 断面図で、屋根スラブの勾配の考え方を理解し、図面に表現できる。	
教科書	初めて学ぶ建築実務テキスト「建築施工図」	09) 躯体平面図・断面図を誰が使うのかを理解し、工事に必要な最低限の寸法が記入できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 今回使用する諸材料の特性を理解し、仕上厚さや取付方法がわかる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	③		
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3833307	科目コード	2033203
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：就職活動を控え、企業の実施するインターンシップに参加する時、ただ現場を見て来るのでは意味はありません。現場監督が行っている仕事をしっかり理解するために、また自己の安全を守るためにも、2級建築施工管理技士（学科）を取得していることが必要です。	
年度	2025年度	学習内容：様々な科目に散らばっている施工管理に関する知識をこの授業の中に集約し、4期前半に行われる2級建築施工管理技術者検定試験に受験し、合格を目指します。プレインターン2では構造力学・一般構造・材料を中心に学習します。	
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	3		
教科名	プレ・インターン		
科目名	プレ・インターン2	01) 一般構造1～5までの授業内容を思い出し整理して記憶を確かなものにし、試験内容に対応できる。	
単位	1	02) 建築材料1～3までの授業内容を思い出し整理して記憶を確かなものにし、試験内容に対応できる。	
履修時間	30	03) 建築構造力学1～7までの授業内容を思い出し整理して記憶を確かなものにし、試験内容に対応できる。	
回数	15	04) 毎回の授業で過去10年の問題を実施し、過去問に対する回答ができる。	
必修・選択	必修	05) 過去に学んだ知識の中から、法律・指針の変更点が整理できる。	
省庁分類	－	06) 新傾向出題に関する予想と対策ができる。	
授業形態	実習	07) 外部模擬試験に2回挑戦して合格点を取ることができる。	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑩		
備考	大手ゼネコンで構造設計実務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を持つ		

No	3833308	科目コード	2041003
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	
期	3		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト10	01) 問題解決に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、技術者として解決のための方法や手順を提案することができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、工程表および予算書を提案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題解決に向け、解決のための方法や手順を計画書（企画書）にまとめることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
該当DP	-	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	
備考	設計事務所に建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No		3834301	科目コード		1031503
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由			
科	383. 建築監督科	必要性：ある応力が生じる部材の断面を、最も安全かつ経済的なものとするためには、どのような形や大きさとしたらよいかを検討し、決めることを部材の設計とします。部材の設計にあたっては、使用する材料についての力学的性質や、断面の形、使用方向についての性質をしなくてはなりません。			
年度	2025年度	学習内容：この講座では、構造材料の力学的性質として、応力度、変形の性質、変形と応力の関係、許容応力度などについて調べ、構造力学5、6で学習した断面の形による特性である諸係数を考慮しながら部材設計の、安全で合理的な考え方と方法を学習します。			
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目			
期	4				
教科名	構造力学				
科目名	構造力学7	01)	RC造付着強度試験体の製作ができる。		
単位	1	02)	曲げ材にはどのような力が働くかがわかる。		
履修時間	15	03)	曲げ材のたわみの大きさの算定と制限がわかる。		
回数	8	04)	曲げモーメント応力が生じる部材の設計に関してわかる。		
必修・選択	必修	05)	鉄筋とコンクリートの付着に影響を及ぼす要因がわかる。		
省庁分類	23. ⑤構造力学	06)	コンクリートと鉄筋の一体性などの重要性がわかる。		
授業形態	講義	07)	押抜きによる試験方法により、コンクリートと鉄筋との付着強度がわかる。		
作成者	李 正浩	08)			
教科書	オリジナルテキスト	09)			
確認者	杉本 安雄	10)			
最終確認者	井坂 昭司	評価方法			
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。			
該当DP	②				
備考	大手ゼネコンで構造設計実務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を活かし科目を担当				

No		3834302	科目コード	1032103
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由		
科	383. 建築監督科	必要性：建築の機能で最も重要な「雨風をしのご」という役割を担っているのが防水工事である。工事管理者として、防水工事の知識及び管理手法の習得は重要です。		
年度	2025年度	学習内容：防水工事を体系的に学ぶとともに、最も重要かつ信頼性の高いアスファルト防水を重点的に学ぶことによって、防水工事の基本事項を習得します。		
学年	3年次			
期	4			
教科名	建築生産	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目		
科目名	建築生産4	01) 防水工事の種類とその特徴がわかる。		
単位	1	02) 建物用途や部位に応じて、適切な防水工事の選定ができる。		
履修時間	15	03) アスファルト防水の施工管理における留意点がわかる。		
回数	8	04) 改質アスファルトシート防水の施工管理における留意点がわかる。		
必修・選択	必修	05) 合成高分子シート防水の施工管理における留意点がわかる。		
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 塗膜防水の施工管理における留意点がわかる。		
授業形態	講義	07) シーリング防水の施工管理における留意点がわかる。		
作成者	宮坂 達	08) 部位に応じて適切なシーリング防水の材料選定ができる。		
教科書	建築工事監理指針	09) 防水工事がプロセス管理であることがわかる。		
確認者	杉本 安雄	10)		
最終確認者	井坂 昭司	評価方法		
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。		
該当DP	①、③、⑦、⑧、⑨			
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当			

No	3834303	科目コード	1032403
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設現場で生じる様々な事故等を防止するための法を理解することは、将来現場監督になる者にとって必要不可欠です。またこれらの規定は、1級及び2級施工管理技術者試験において多数出題される重要項目でもあります。	
年度	2025年度	学習内容：最初に建設現場における事故等を防止するための基本的な考え方を学びます。次に、「建築基準法」及び「労働安全衛生法」のうち建設現場に関わる部分について、法令集を用いながら具体的な規定を学びます。	
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	4	01) 建設業における労働災害の現状がわかる。	
教科名	建築法規	02) 建設現場における事故等を防止するための基本的な考え方がわかる。	
科目名	建築法規8	03) 建設現場における安全・衛生に関わる法の種類、概要及びそれぞれの基本の考え方がわかる。	
単位	1	04) 建築基準法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を探することができる。	
履修時間	15	05) 建築基準法のうち、「工事現場の安全」の各項目について、正しい解釈がわかる。	
回数	8	06) 労働安全衛生法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を探することができる。	
必修・選択	必修	07) 労働安全衛生法のうち、「工事上の安全確保」「落下物・飛来物に対する安全確保」に関する規定の正しい解釈がわかる。	
省庁分類	28. ⑨建築法規	08) 労働安全衛生法のうち、「作業用通路等」「足場」「構台」に関する規定の正しい解釈がわかる。	
授業形態	講義	09) 労働安全衛生法のうち、「安全管理の体制」「作業主任者」「教育・特別的教育」について、その目的、概要及び規定の正しい解釈がわかる。	
作成者	上岡 加奈	10) 労働安全衛生法のうち、「リスクアセスメント」「健康診断」「計画の届出」その他事業者等の義務及び努力義務に関する規定の目的及び概要がわかる。	
教科書	〔井上〕 建築関係法令集	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司		
実務教員	○		
該当DP	⑩		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No		3834304	科目コード	1032503
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由		
科	383. 建築監督科	必要性：建築物の誕生は、採算性を無視して語ることができません。採算性を語るうえで最初のハードルは建築コストですが、これには発注者の意思と施工者の意思という2面性があります。その中で最適なターゲットとなるコストを求めていくことは、健全な建築物の建設には欠かすことができません。		
年度	2025年度	学習内容：この講座では、建設工事に関する発注者・施工者の意思の2面性を理解するとともに、発注者が採算性に基いた計画を作るための方法と、施工者側から提供すべきコスト情報について、発注者の視点を中心に講義を進めます。		
学年	3年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目		
期	4			
教科名	コストプランニング	01) 建設コストに関する、発注者と施工者のそれぞれの意思がわかる。		
科目名	コストプランニングI	02) 建設コストの構成（発注金額と工事原価の関係を含む）がわかる。		
単位	1	03) 建築コスト概算金額の3つのステージとその概算精度がわかる。		
履修時間	15	04) 発注者と施工者の意思が一致するターゲットプライスの在り方がわかる。		
回数	8	05) ターゲットプライスに向けて行われるプロジェクトマネージメントの役割がわかる。		
必修・選択	必修	06) 賃貸事業における、発注者側の作業がわかる。		
省庁分類	-	07) 賃貸事業の収支計算の概念がわかる。		
授業形態	講義	08) コストプランニングにおける賃貸事業のメリットとデメリットがわかる。		
作成者	杉本 安雄	09)		
教科書	オリジナルテキスト	10)		
確認者	杉本 安雄	評価方法		
最終確認者	井坂 昭司	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。		
実務教員	○			
該当DP	⑥			
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネージメント経験を活かし科目を担当			

No	3834305	科目コード	2031303
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：意匠、構造、設備などの設計図は図面を媒介として、設計意図を確実に施工者に伝達するものであるから、簡潔・明瞭で、しかもすべて表現され曖昧さがないように作成できる必要性があります。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：本講座は、鉄筋コンクリート原理、構成材料の性質および構造的な役割、補強に関する基本的な知識を理解した上で、基礎・床・梁伏せ図、ラーメン配筋基準図及び配筋詳細図など構造設計図の表現法から始まり、材料、かぶり・あき・間隔・折り曲げ・定着・継ぎ手などに関する基本事項及び構造各部材の鉄筋の納まりについて学び、実務レベルの配筋詳細図実習を通じて、今後実際の設計・施工業務において、構造計算書から配筋詳細図が描け、鉄筋コンクリート造躯体工事の設計監理に必要な知識が習得できます。	
期	4	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築構法演習	01) 構造標準仕様及び構造図の構成と内容が理解できる。	
科目名	建築構法演習Ⅰ	02) 梁及び柱断面配筋図作成ができる。	
単位	1	03) 柱・梁ラーメン配筋図作成ができる。	
履修時間	30	04) スラブ配筋詳細図作成ができる。	
回数	15	05) 基礎ばり配筋図作成ができる。	
必修・選択	必修	06) 鉄筋コンクリート基礎設計ができる。	
省庁分類	－	07) 耐震壁の役割や耐震壁の設計ができる。	
授業形態	実習	08)	
作成者	李 正浩	09)	
教科書	オリジナルテキスト	10)	
確認者	杉本 安雄	評価方法	
最終確認者	井坂 昭司	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
実務教員	○		
該当DP	－		
備考	大手ゼネコンで構造設計実務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を活かし科目を担当		

No	3834306	科目コード	2031803
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築実務において広範囲で採用されている鉄骨構造を理解することを目標に、設計だけでなく施工上の各種構成要素を取り入れながら授業を行うことで、現場監督員としての基礎学習の一端とします。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：本期では、前期までに作成した平面図・建具表及び法令上の各種無意計算・立面図を基に断面図・矩計図・内装仕上表・外構図等を完成させ、同時に土工事・鉄骨建方に係る仮設計画図も作図します。	
期	4	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築製図実習	01) 各自で内装計画を立案し、カタログ及びサンプル等を確認しながら、内装仕上表が作成できる。	
科目名	建築製図実習14	02) 上記01) によって選定した内装材が施設用途上の使用条件、内観イメージ等に整合した作図ができる。	
単位	1	03) 前期において作成した立面図により確定済の高さ寸法を確認しつつ断面図の作図ができる。	
履修時間	30	04) 断面図の作成に係り、法令上の各種高さ制限値について、表現の方法を含めわかる。	
回数	15	05) 上記03) による断面図を基に矩計図の作成ができる。	
必修・選択	必修	06) 矩計図の作成に係り、各部断面詳細、2階床部分の納まり、内装仕上材及び下地の納まりを図面化できる。	
省庁分類	31. ①建築設計製図	07) 建物以外の計画地内に必要なエクステリア部材を検討し、外構図の作成ができる。	
授業形態	実習	08) 上記07) において08造の擁壁（フェンス）の詳細図の作成ができる。	
作成者	加藤 諭	09) 土工事に係る仮設計画図を作成し、根切（掘削）範囲の確認を行い、それによる建物配置寸法を決めることができる。	
教科書	オリジナルテキスト	10) 鉄骨建方に係る仮設計画図を作成し、ラフタークレーン重機の使用範囲及び時間帯等を検討できる。	
確認者	杉本 安雄	評価方法	
最終確認者	井坂 昭司	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。同時に課題図・施工計画書・プレゼンボードの作成及び提出を必須条件とする。	
実務教員	○		
該当DP	-		
備考	建築・設備設計事務所にて設計業務・設計監理業務を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3834307	科目コード	2032403
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築工事の施工実務に於いて、「工程計画」を作成することは、必須の施工管理業務のひとつであり、作成方法を習得すべき重要な施工管理業務書類です。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：「工程計画」を作成する上での必要な施工に関する専門知識を統合し、建設現場の工事の流れ、工事に関わる一連の工程の種類を詳細に把握し理解します。「工程計画」を作成する上での必要な実際の施工図面等を閲覧、理解します。	
期	4		
教科名	建築施工計画実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工計画実践3	01) 仮設計画、準備工事、共通仮設計画の工事種類と内容が詳細にわかる。仮設計画、準備工事、共通仮設計画の工程上の関連がわかる。	
単位	1	02) 外部足場の安全基準、設置時期、設置届提出等の内容が詳細にわかる。外部足場の施工計画、工程計画の関連がわかる。	
履修時間	30	03) 土工事、地業工事、基礎工事の工事種類と内容が詳細にわかる。土工事、地業工事、基礎工事の工程上の関連がわかる。	
回数	15	04) 鉄筋工事、型枠工事の工事種類と内容が詳細にわかる。鉄筋工事、型枠工事の工程上の関連がわかる。	
必修・選択	必修	05) 基礎、土間、一般階躯体コンクリート工事の内容が詳細にわかる。基礎、土間、一般階躯体コンクリート工事の工程上の関連がわかる。	
省庁分類	-	06) 鉄骨工事の内容が詳細にわかる。鉄骨工事と他工事との工程上の関連がわかる。	
授業形態	実習	07) 下地工事、内装工事、建具工事の工事種類と内容が詳細にわかる。下地工事、内装工事、建具工事の工程上の関連がわかる。	
作成者	丸山 千春	08) 建物用途別、工事別、部位別仕上工事の工事種類と内容が詳細にわかる。建物用途別、工事別、部位別仕上工事の工程上の関連がわかる。	
教科書	建築施工計画実践テキスト	09) 外部仕上工事の工事種類と内容が詳細にわかる。外部仕上工事と他工事との工程上の関連がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 工事管理者に求められる総合技術管理の内容が詳細にわかる。設計図書、施工形態、工事契約の内容と種類がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び実習評価点による（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、⑧、⑨		
備考	設計事務所に現場の設計監理業務を行う一方、実務としての生産設計経験などを活かし科目を担当		

No	3834308	科目コード	2032903
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：鉄筋コンクリート構造の建物は、木造と異なり、骨組みと間仕切り壁の基本モジュールが異なります。その為各間仕切りや構成部材の配置の仕方が異なることから、仕上工事の施工図も重要になります。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：3期までに作図したコンクリート寸法図を利用して、細かな部品や人体寸法を考慮する必要性の高い、水廻りの平面・断面の仕上施工図を作成します。	
期	4	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
教科名	建築施工図実践	01) 水廻りの諸器具の形状やその取付方がわかる。	
科目名	建築施工図実践4	02) 人間の動作寸法を理解し、単位空間の最小寸法がわかる。	
単位	1	03) 間仕切りに使われる、LGSや石膏ボードの施工方法がわかり、仕上り寸法がわかる。	
履修時間	30	04) 便所などの個室間仕切りに使われるブースパネルの形状と施工方法がわかる。	
回数	15	05) 断面図作図を行う中で、外壁面の断熱材の材料と施工方法を理解し、製図ができる。	
必修・選択	必修	06) 天井のLGSの構造と施工手順がわかる。	
省庁分類	-	07) 仕上工事に必要な「墨出し」ができる様な寸法記入方法を理解し、製図ができる。	
授業形態	実習	08) 設備機器と配管・配線の関係がわかり、必要寸法を理解して、製図ができる。	
作成者	杉本 安雄	09)	
教科書	初めて学ぶ建築実務テキスト「建築施工図」	10)	
確認者	杉本 安雄	評価方法	
最終確認者	井坂 昭司		
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験及び実習評価点による（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	③		
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3834309	科目コード	2041103
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	
期	4		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト11	01) 問題解決に向け、計画書(企画書)にそって計画を実行することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、仲間と協力して行動することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、粘り強く取り組むことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録・報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、技術者として計画の進捗状況から新たな問題点を発見することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、新たな問題点の解決策を筋道をたてて(論理的に)考えることができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、新たな問題点の修正案を立案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題解決に向け、修正案を実行することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。		
備考	設計事務所に建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No	3835301	科目コード	1031603
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：力は建物に様々な形で作用し色々な影響を物体に与えています。建物が地震や台風的作用に耐え、果たすべき機能を十分に発揮する為には、構造の知識が不可欠であり極めて重要なことです。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：建築物は、常時、重力による鉛直荷重に耐え、また非常時の地震や台風による水平力にも耐えなければなりません。ここでは、一般的な建築物の構造設計における考慮すべき荷重および力に関する知識の習得を目的とします。	
期	5		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学8	01) 鉛直荷重の考え方がわかる。	
単位	1	02) 地震によって生じる力を求めることができる。	
履修時間	15	03) 風圧力の計算方法がわかる。	
回数	8	04) 固定モーメント法の考え方がわかる。	
必修・選択	必修	05) 座屈に関する知識がわかる。	
省庁分類	-	06) 保有水平耐力の算定方法がわかる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	李 正浩	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	②		
備考	大手ゼネコンで構造設計実務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を活かし科目を担当		

No	3835302	科目コード	1032203
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：ビデオ教材を使用して、建築工事の各工事（仕事）の流れを順序立てて概観する事は、今まで科目として細分化して学んだ知識を、流れのあるものにまとめていく事ができます。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：建築施工実務概論1では準備工事（総合仮設）、直接仮設工事、仮枠工事、鉄筋工事、コンクリート工事まで、ビデオ教材を使って工事の手順と注意点を学びます。	
期	5		
教科名	建築施工実務概論	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工実務概論1	01) 総合仮設に括られるインフラの種類と機能、法令がわかる。	
単位	1	02) 直接仮設に括られる工事の内容がわかり、それらの工事に必要な知識がわかる。	
履修時間	15	03) 仮枠工事に使われる材料や部位の名称がわかる。	
回数	8	04) 仮枠組立の手順がわかり、鉄筋工事との関係がわかる。	
必修・選択	必修	05) 監督の、鉄筋の受け入れ時の注意点がわかる。	
省庁分類	－	06) 鉄筋工事の進め方（手順）がわかり、型枠工事との関係がわかる。	
授業形態	講義	07) コンクリートの発注方法や受け入れ時の監督の仕事がわかる。	
作成者	杉本 安雄	08) コンクリートの打設手順や部位ごとの打設に関する注意事項がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	－		
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3835303	科目コード	1032603
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：基礎は上部荷重を無理なく地盤に伝達する必要がある、地盤の強度（地耐力）や変形（沈下）など建築物の安全性に大きな影響を及ぼす地盤の性質を知り基礎の形式が選定できるようにする必要があります。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：地盤の種類や工学的性質、地層（剖面）の分布を正確に把握し、それらの地盤の性質をもとに合理的な（安全かつ経済的で施工可能）な基礎工法を選定するための基礎的な知識を習得します。	
期	5		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学9	01) 地盤・基礎に関する用語がわかる。	
単位	1	02) なぜ地盤に関する知識が必要かわかる。	
履修時間	15	03) 地盤性状・調査の方法やデータの読み取り方がわかる。	
回数	8	04) 軟弱地盤の敷地の安全性確保の方法がわかる。	
必修・選択	必修	05) 傾斜地における敷地の安全性確保の方法がわかる。	
省庁分類	－	06) 軟弱地盤における基礎の設計ができる。	
授業形態	講義	07)	
作成者	李 正浩	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	②		
備考	大手ゼネコンで構造設計実務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を活かし科目を担当		

No	3835304	科目コード	2131403
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物を建てる場合、その配置・形状・寸法・材料の組み合わせなどを図面を用いて具体的に、正確・明瞭・合理的に作図でき、設計者が意図するとおりの建築物が施工できる様にしなければなりません。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：一般的な鉄骨造に用いられる材料や架構形式に関する基礎知識に基づき、柱付きトラス及び長方形ラーメンによる鉄骨造の設計・製図について学習します。	
期	5		
教科名	建築構法演習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築構法演習2	01) 実際鉄骨造の設計図面製作に関する製図の手順がわかる。	
単位	1	02) 鋼構造の設計手順および床伏図作成ができる。	
履修時間	30	03) 小ばりの大きさはどう決めるのかわかる。	
回数	15	04) 小ばりはどう接合するのかわかる。	
必修・選択	必修	05) 柱と大梁の仕口設計・製図ができる。	
省庁分類	-	06) 柱の継手の設計・製図ができる。	
授業形態	実習	07) 鉄骨トラスの詳細図作成ができる。	
作成者	李 正浩	08) 柱脚部の設計・製図ができる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 鉄骨溶接記号が理解できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 基礎の設計・製図ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	大手ゼネコンで構造設計実務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を活かし科目を担当		

No	3835305	科目コード	2031903
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設実務において広範囲で採用されている鉄骨構造を理解することを目標に、設計だけでなく施工上の各種構成要素を取り入れながら授業を行うことで、現場監督員としての基礎学習の一端とします。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：本期では、前期までに作成した平面図他意匠図を基に、換気及び空調設備図、防災設備図等の設備図面を作成し、同時にバリアフリー図の作図、確認申請図書及び施工計画書の作成を行います。	
期	5		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習15	01) 対象各室の換気計算を行い、条件に整合した機器の選定及び機器表ができる。	
単位	1	02) 上記01)によって選定した換気機器を図面上配置し、ダクト接続を行い、換気設備図を完成できる。	
履修時間	30	03) 対象各室の簡易空調負荷計算を行い、負荷に整合した機器の選定及び機器表の作成ができる。	
回数	15	04) 上記01)によって選定した空調機器を図面上に配置し、冷媒管接続を行い、空調設備図が完成できる。	
必修・選択	必修	05) 平面図上の避難計画を立案し、非常照明及び各種誘導灯を配置し、防災設備図が完成できる。	
省庁分類	-	06) 移動円滑化経路を立案し各種開口幅寸法、注意喚起床材の配置等の特記したバリアフリー図が完成できる。	
授業形態	実習	07) 自己の設計数値により確認申請書類一式が作成できる。	
作成者	加藤 諭	08) 同上に係る建築計画概要書一式、建築工事届一式の作成ができる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 上記07・08)にて作成書類及び3期から作成図面一式をまとめてファイリングし、申請図書が完成できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 着工届・現場代理人届・下請リスト・施工計画書等を作成し、ファイリングし製本提出ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-	同時に課題図・申請図書及び施工計画書・プレゼンボード・建築模型の作成及び提出を必須条件とする。	
備考	建築・設備設計事務所に設計業務・設計監理業務を行う現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3835306	科目コード	2032503
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築工事の施工実務に於いて、ネットワーク工程表、バーチャート工程表等の「工程計画」を作成することは、必須の施工管理業務のひとつであり、作成方法を習得すべき重要な施工管理業務書類です。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：建築施工工事に於ける各種工事内容を理解し、建築工事に関する総合理解力を高め、総合理解力を基本にネットワーク工程表、バーチャート工程表を作成出来る考え方を身につけます。	
期	5		
教科名	建築施工計画実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工計画実践4	01) ネットワーク工程表、バーチャート工程表の重要性がわかる。工程表作成の注意事項、記載事項がわかる。	
単位	1	02) 各種工程表の概要がわかる。各種工事の関係性と手順とを理解し工程表作成に反映できる。	
履修時間	30	03) ネットワーク工程表の手法と歴史がわかる。工程表作成の基礎知識としての工程数と工程数がわかる。	
回数	15	04) ネットワーク手法の起源がわかる。結合点、ダミー、最早開始日・終了日、最遅開始日・終了日の意味がわかる。	
必修・選択	必修	05) 鉄骨工事に於けるモデル建物工程計画の工程関係性と手順がわかり、モデル建物のネットワーク工程表を作成できる。	
省庁分類	－	06) 鉄骨工事に於けるモデル建物工程計画の工程関係性と手順がわかり、モデル建物のバーチャート工程表を作成できる。	
授業形態	実習	07) RC工事に於けるモデル建物工程計画の工程関係性と手順がわかり、モデル建物のネットワーク工程表を作成できる。	
作成者	丸山 千春	08) RC工事に於けるモデル建物工程計画の工程関係性と手順がわかり、モデル建物のバーチャート工程表を作成できる。	
教科書	建築工程表の作成実務	09) ネットワーク日数計算に必要な語句と意味がわかる。クリティカルパス、フロート等の意味と計算方法がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) ネットワーク日数計算に必要な語句と意味がわかる。トータルフロート、フリーフロート等の意味と計算方法がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、⑧、⑨		
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3835307	科目コード	2033003
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築施工図実践1～4で学んできたコンクリート寸法図で工事ごとに特に大きな違いがある部分がコンクリート壁に設けられる開口部で、使用する開口部材の材質や製品寸法によって異なります。開口部の詳細図面の作図を通して部位ごとの納まりが検討できることは、施工図を描く上で必要な知識です。	
年度	2025年度	学習内容：コンクリート造・鉄骨造・軽鉄間仕切りなどの躯体に、アルミやスチール、木製の建具を取り付ける際の納まりを学びます。	
学年	3年次		
期	5		
教科名	建築施工図実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工図実践5	01) コンクリート躯体にアルミサッシュが取り付く場合の納まりがわかる。	
単位	1	02) コンクリート躯体に木製建具が取り付く場合の納まりがわかる。	
履修時間	30	03) 鉄骨造の躯体にALCを取り付ける場合の取付方がわかる。	
回数	15	04) 鉄骨ALCにアルミサッシュが取り付く場合の納まりがわかり開口部の補強部材の取付方がわかる。	
必修・選択	必修	05) LGS壁の構成がわかり、施工方法、特に開口部廻りの補強がわかる。	
省庁分類	-	06) LGS下地に取っつく木製建具の納まりがわかる。	
授業形態	実習	07) 木製建具の種類と製作方法がわかる。	
作成者	杉本 安雄	08) 木製建具に使用される金物の種類と性能がわかる。	
教科書	初めて学ぶ建築実務テキスト「建築施工図」	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	学科試験60点満点、提出課題40点満点の合計100点満点中、60点をもって合格とする。	
該当DP	③		
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3835308	科目コード	2041203
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	3年次	学習内容：5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取りまとめを行います。	
期	5		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト12	01) 問題解決に向け、問題点を発見し必要に応じて計画を修正することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、修正した計画を実行することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録することができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、最後まで仲間と協力して行動することができる。	
省庁分類	-	06) 成果報告に向け、問題の発見から解決までに作成してきた資料を整理することができる。	
授業形態	実習	07) 成果報告に向け、資料に基づき、問題解決に取り組む意義、方法、成果等を報告書にまとめることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 成果発表に際し、筋道立つわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。	
教科書	-	09) 成果発表に際し、聴衆を引き付けるプレゼンテーションを行うことができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 成果発表を終え、問題点・不足点・今後の課題等を整理・報告することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびレーダーチャート」を用いて記録する。		
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No	3831401	科目コード	1010904
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：現代の建設業にとって生産性の向上は喫緊の課題ですが、そのためにはエンジニアリングの知識やスキルだけではなく、ビジネスやマネジメントの知見も必要となります。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：建設業に従事する人間に必要なビジネスの知識や、現場監督に必要な経営マインドやマネジメントの基本について、様々な具体的事例等から学び、理解を深めます。	
期	1		
教科名	経営管理	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	経営管理Ⅰ	01) 建設業の産業構造がわかる	
単位	1	02) 現代社会における企業の位置づけがわかる	
履修時間	15	03) 企業と経営について、株式会社の発展と経営機能の分化を切り口としてわかる	
回数	8	04) 日本型企业システムの特徴がわかる	
必修・選択	必修	05) コーポレート・ガバナンスの必要性と方法がわかる	
省庁分類	-	06) 経営戦略の体系と理論の諸類型がわかる	
授業形態	講義	07) コトラやボーターなど、競争地位戦略の類型と特徴についてわかる	
作成者	高瀬 恵悟	08) マーケティングミックスの諸要素についてわかる	
教科書	オリジナルテキスト	09) SWOT分析、PPM、バリューチェーン分析などの経営分析手法がわかる	
確認者	杉本 安雄	10) テイラーやウエーバー、バーナード、サイモンなどによる組織論の概要がわかる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	準大手ゼネコンにて意匠・構造設計・施工管理に従事し現場代理人として会社の経営にも参画。その経験を活かし科目を担当		

No	3831402	科目コード	1032804
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：仮設工事は、建物をどのように作るかという施工計画そのものに直結しています。工事の進捗、品質確保、作業員の安全性、工事によって得られる利益といった全てに影響する為、監督を目指すものにとっては重要な内容になります。	
年度	2025年度		
学年	4年次	授業内容：『建築工事監理指針』を使用して、実務レベルの仮設工事の知識を習得して頂きます。また、仮設工事の計画では、たわみや座崩など、構造力学の知識も学びます。基本的な用語と考え方の理解を進めます。	
期	1		
教科名	建築生産	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築生産5	01) 仮設工事の目的と重要性がわかる。	
単位	1	02) 共通仮設と直接仮設の違いがわかり、分類ができる。	
履修時間	15	03) 各仮設物の名称がわかる。	
回数	8	04) 関連法規と届け出の必要性がわかる。	
必修・選択	必修	05) 基本施工計画と総合仮設計画の概要と計画の流れがわかる。	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 各種準備工事がわかる。	
授業形態	講義	07) 揚重機をはじめとした各種施工機械の名称と使用目的がわかる。	
作成者	宮坂 達	08) 工事に必要なインフラ整備の項目がわかる。	
教科書	建築工事監理指針	09) 足場の法的基準や各種名称がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 仮設構造計算に必要な基本的な構造計算ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、③、⑦、⑧、⑨		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3831403	科目コード	1033204
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：ビデオ教材を使用して、建築工事の各工事（仕事）の流れを順序立てて概観する事は、今まで科目として細分化して学んだ知識を流	
年度	2025年度	れのあるものにまとめていく事が出来ます。	
学年	4年次	学習内容：建築施工実務概論1では土工事からコンクリート工事までを学びました。『建築施工実務概論2』では鉄骨工事についての学習になり	
期	1	ます。鉄骨の工場製作から学習し現場の組立までを学習します。	
教科名	建築施工実務概論	鉄骨構造は工期が短くて済みますし、高層ビルなどでは多く用いられる工法です。精度を上げるためには、いかに工場での作業を上手く行う	
科目名	建築施工実務概論2	にかかってくるので、要点を押さえながら学習していきたいです。	
単位	1	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
履修時間	15	01) 鉄骨加工に必要な工作図の作成から、鉄骨工場（ファブ）における実際の作業までの流れがわかる	
回数	8	02) 鉄骨の溶接に必要な職人の技能、溶接後の製品検査など、溶接にかかわる全般的な事項がわかる	
必修・選択	必修	03) 鉄骨加工工場から、現場までの運搬方法がわかる	
省庁分類	-	04) 現場に搬入された鉄骨製品の組立手順や具体的な作業の流れがわかる	
授業形態	講義	05) 鉄骨部材の接合方法とそれに伴う事前の作業など、接合に関する事項がわかる	
作成者	杉本 安雄	06) 鉄骨部材を据え付けのコンクリート基礎の構法がわかる	
教科書	オリジナルテキスト	07) 骨組み以外の鉄骨製品（階段、合成床組等）について広い知識がわかる	
確認者	杉本 安雄	08) 耐火被覆の構法と製品の性能がわかる	
最終確認者	井坂 昭司	09)	
実務教員	○	10)	
該当DP	-	評価方法	
備考	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。		
	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3831404	科目コード	1033504
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築のコストはイニシャルコストの大部分を占めており、事業性を考慮した時そこに掛けられるコストは必然的に決まってきます。監督が工事原価として預かる費用がどのような経緯で決まってきたのかを知ることは、原価管理の重要性を再認識することになります。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：コストプランニング1では事業者（施主）の視点からのコストについて学びましたが、コストプランニング2では、ゼネコンの視点に立ち、コスト実現のために監督が行っている原価管理手法を学びます。	
期	1		
教科名	コストプランニング	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	コストプランニング2	01) コストプランニングからコストコントロールまでの流れがわかる	
単位	1	02) コストコントロールの一つの手法としてVE（Value Engineer）の方法がわかる	
履修時間	15	03) 現場における実行予算書の位置づけを理解し、原価管理の具体的な手法がわかる	
回数	8	04) 原価管理上発生するリスク要因がわかる	
必修・選択	必修	05) 原価管理リスクへの対応の為、ゼネコンが行っているリスクヘッジの方法がわかる	
省庁分類	-	06) 型枠工事における材料・労務・管理に係る費用の関係を「歩掛数量」として掴むことができる	
授業形態	講義	07) 鉄筋工事における材料・労務・管理に係る費用の関係を「歩掛数量」として掴むことができる	
作成者	杉本 安雄	08) 「単位面積・単位容積あたり」の歩掛単価を理解し、統計的な原価管理手法を理解する。	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	⑥		
備考	設計事務所に建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No	3831405	科目コード	2033304
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設会社にとって事務所ビルは、共同住宅に匹敵する量の受注がある用途の建物です。プランが単純であるため、事務所ビルは、機能がまとめ易く、合理的なゾーニングを学ぶのには最も適しており、短時間でエスキースをまとめるための技能を身に着ける事ができます。また、コンクリートラーメン構造の低層の事務所ビルは、構造計画的にも合理的であるため、1級建築士の試験を受験するための基本知識もに着けていきます。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：事務所ビルについて、提示する設計条件に従って、本講座及び次期に行われる建築製図実習17を使って設計、製図まで行います。	
期	1		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習16	01) 設計条件を分析し、整理し、要求事項に沿ったゾーンに振り分けることができる。	
単位	1	02) 各ゾーンの設計に必要な面積を想定することができ、想定される配置階に割り振ることができる。	
履修時間	30	03) 設計条件として提示されない、移動空間やそれに伴う導線計画、付帯する空間などを想定し提案できる。	
回数	15	04) ゾーニングからエスキースまでの一連の作業を、指定された時間内にまとめることができる。	
必修・選択	必修	05) コアの計画に伴う構造的な計画の手法や柱割りの手法を合理的に行える。	
省庁分類	-	06) 地盤的な特性を考え、基礎の形式や構造的な部材の大きさを仮定することができる。	
授業形態	実習	07) 課題で要求される設備や通常使われる設備の機器類を、機器の能力の概算をとらえ計画できる。	
作成者	杉本 安雄	08) 外部に置かれる設備機器類の大きさを理解し、建物内や敷地内空地内に適正に配置できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 各自で企画した設計内容を、概要書としてリストにまとめることができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 上記の内容を「企画案」として図面でまとめることはできる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験時間内に、提出物評価：50点満点（減点法）/学科試験：50点満点で評価を行い、その合計点で合否判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No	3831406	科目コード	2033704
系	建築インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：施工計画は、設計図書に記載のない工事であり、現場を預かる責任者が、今後行わる作業を想定し、現場内に設置される仮設物や作業機械について表した、現場での「つくり方」を示すもので、監督にとっては必須の知識です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：この授業では、施工計画実践1～4までの知識を定着させるとともに、共通仮設図や直接仮設の計画と作図が出来るようになります。	
期	1		
教科名	建築施工計画実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工計画実践5	01) 施工現場の周辺状況を理解し、特に空中架構物や地中埋設物などへの対応がわかる	
単位	1	02) 敷地周囲に設置される仮囲いの法的な根拠を理解し、具体的に図面として表現できる	
履修時間	30	03) 敷地内に設置される仮設建物・仮設設備等がわかり、図面として表現できる	
回数	15	04) クレーン、バックホーなどの建設機械の性能を理解し、具体的な掘削計画を作る事ができる	
必修・選択	必修	05) 山留工事の仕様を考え、計画を図面化できる	
省庁分類		06) 山留部材の安全確認ができる	
授業形態	実習	07) 材料搬入などの計画を踏まえ、足場の施工計画ができる	
作成者	杉本 安雄	08) 足場の安全確認ができる	
教科書	建築工程表の作成実務	09) 仮囲いから根伐までの工程表を作る事ができる	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、⑧、⑨		
備考	設計事務所での現場の設計監理業務、設計施工物件での施工管理の経験を活かし科目を担当		

No	3832401	科目コード	1011004
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建設現場の運営・管理の手法論は、学校教育などで得た知識よりも、実際の現場で得た経験やノウハウが卓越するとされる。しかし、だからといって先人の知恵や体系的な研究成果を学ぶことは決して意味がないことではなく、特に初学者にとってはむしろ安全、確実かつ効率的な良い方法です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：本講座では、以上のような観点から、建設工事現場における組織運営上の留意点を、「社会心理学（social psychology）」の知見をベースとして学んでいく。建設工事現場は、ある程度条件が整っているオフィスワークと異なり、特殊な状況が多数存在することから、人間の心理状態、特に集団の心理を学んでおくことは、人心掌握や困難な事態に臨んだときの対処法を学ぶ上で貴重な経験となります。	
期	2		
教科名	経営管理	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	経営管理2	01) 建築の施工管理の分野における心理学（社会心理学）の必要性が理解できる	
単位	1	02) 思い込みによる事故とその防止策が理解できる（認知バイアス）	
履修時間	15	03) 公共工事の価格決定メカニズムが理解できる（オークション理論）	
回数	8	04) 談合の発生原因とその対処について理解できる（囚人のジレンマ、リニエンシー制度）	
必修・選択	必修	05) ゲーム理論のうち、「囚人のジレンマ」が理解できる（ナッシュ均衡、パレート最適）	
省庁分類	-	06) ゲーム理論のうち、「コミットメント」、「支配戦略」などが理解できる（合理的な豚）	
授業形態	講義	07) 現場管理において「傍観者効果」の防止策について理解できる	
作成者	高瀬 恵悟	08) 現場管理において「認知的不協和」ならびに「反発的行動」の防止策について理解できる	
教科書	オリジナルテキスト	09) 現場管理において「集団極化（リスクシフト・コーシャスシフト）」の防止策について理解できる	
確認者	杉本 安雄	10) 個人と組織の関係における認知心理学の知見の幾つかの事例を理解できる（認知的不協和、自己覚覚、内発的動機づけ）	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	準大手ゼネコンにて意匠・構造設計・施工管理に従事し現場代理人として会社の経営にも参画。その経験を活かし科目を担当		

No	J832402	科目コード	1032704
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：構造物の構造設計にあたり、人命を優先し、経済性を考え、建築物の多少の破壊はやむを得ないという考え方もあります。部分崩壊しても建築物を全体崩壊させないような設計を行うため、部材の降伏と建築物の崩壊の関係を理解する必要があります。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：不静定構造物を解析する方法のひとつで、最も基礎的な解析法である「固定モーメント法」によって曲げモーメントなどの応力や曲げモーメント図の描き方を学習します。	
期	2		
教科名	構造力学	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	構造力学10	01) マトリックス計算による連立方程式の解き方がわかる。	
単位	1	02) 構造物の安定・不安定の判別ができる。	
履修時間	15	03) 不静定構造の基礎的解法「固定モーメント法」がわかる。	
回数	8	04) 弾性と塑性の性質と断面内の応力分布がわかる。	
必修・選択	必修	05) 曲げ材の設計に必要な断面性能の求め方がわかる。	
省庁分類	-	06) 不静定構造物の崩壊機構の理解ができる。	
授業形態	講義	07) 不静定構造物の崩壊荷重の求め方がわかる。	
作成者	李 正浩	08) 不静定構造物の保有耐力の求め方がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 耐震設計における動的解析の基礎がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 地震応答スペクトルの意味と活用方法がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	②		
備考	大手ゼネコンで構造設計実務及び付属の研究所にて鉄骨・コンクリートに関する研究実績を活かし科目を担当		

No	3832403	科目コード	1032904
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築物の構造安全性を確保するためには、地上部分のみならず、基礎や地盤に関する配慮も重要です。この分野は、工期やコストに大きく影響するため重要工事の一つであり、危険作業も多く重大事故も多数発生しており、現場の技術者にとっては、早期にマスターすべき必須の知識です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：本講座の前半では、根切り工事や山留め工事について、また、後半では基礎・地盤工事のうち、最も煩雑で種類が多い「杭地業」に関して学んでいきます。いずれも、一連の流れを理解し、特に重要な用語について正確な知識を身に付けることを目指します。	
期	2		
教科名	建築生産	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築生産6	01) 根伐の種類やそれに使われる重機、安全上の注意点がわかり、施工管理のポイントがわかる	
単位	1	02) 埋め戻しや盛土に使われる「土」の種類と特徴がわかり、施工管理に応用できる	
履修時間	15	03) 根伐に伴ない発生する湧水の処理の仕方や湧水防止の方法がわかり、施工管理のポイントがわかる	
回数	8	04) 山留工事の手順や使用する材料とその工法、使用機械などがわかり、施工管理のポイントがわかる	
必修・選択	必修	05) 山留支保工の施工管理上のポイントがわかる	
省庁分類	34. ⑧建築生産	06) 既成コンクリート杭の種類がわかり、それぞれの杭工事における施工管理のポイントがわかる	
授業形態	講義	07) 場所打ちコンクリート杭について杭構の掘削方法がわかり、その施工方法がわかる	
作成者	杉本 安雄	08) 場所打ちコンクリート杭の施工管理ポイントがわかる	
教科書	建築工事監理指針	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、③、⑦、⑧、⑨		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3832404	科目コード	1033304
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：一定の規模を超える建築物の設計・工事監理は、建築士でなければすることができません。なかでも一級建築士は建築物の用途・規模に制限なく設計・工事監理ができるもので、国土交通大臣が行う国家資格です。指定科目を修めて建築監督科を卒業すると、実務経験2年で一級建築士を受験することができます。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：建築基準法の分野で実際に出題された問題を解きながら、これまでに学んだ規定やその調べ方を復習するとともに、その後に改正された部分及び細部を補充していきます。	
期	2		
教科名	建築法規	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築法規9	01) 法令集から「用語の定義」「面積・高さ・階数の定義」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
単位	1	02) 法令集から「申請・手続き」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
履修時間	15	03) 法令集から「用語の定義」「面積・高さ・階数の定義」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
回数	8	04) 法令集から「居室関連」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
必修・選択	必修	05) 法令集から「構造強度」「構造計算」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
省庁分類	-	06) 法令集から「法第22条の区域」「耐火建築物等としなければならない特殊建築物」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
授業形態	講義	07) 法令集から「防火区画」「内装制限」「避難施設等」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
作成者	上岡 加奈	08) 法令集から「道路」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
教科書	〔井上〕 建築関係法令集	09) 法令集から「用途地域」の問題に解答するため必要な条文を探し、正しく解釈することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 以上に関連する条文のうち、過去2年以内に改正された箇所と改正の概要がわかる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3832405	科目コード	2033404
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：事務所ビルは、計画的に明確であることや基準階が得やすいなど、短時間で比較的に大規模な計画を体験することができ、卒業後に担当として扱うことの多い種類の建物である。就職活動が多忙な時期の課題として、まとめ易い課題として実施します。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：建築製図実習16で作成したRCラーメン構造の事務所ビル基本計画を、基本設計図としてまとめるが、各自の進路に応じて、実施設計図を手掛けるグループとCGなどを用いてプレゼン図面にまとめるグループに分けて学習します。	
期	2		
教科名	建築製図実習	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築製図実習17	01) プレゼン図面や実施設計として、関係他者に伝える図面を描くことができる	
単位	1	02) カーテンウォールの各部の役割と施工方法がわかる	
履修時間	30	03) 空調設備、給排水設備の要求能力（スペック・サイズ・重量）の概算ができる	
回数	15	04) 設備の配管ルートを確認にできる。PS、EPS、DS等の大きさや端小屋の設計ができる	
必修・選択	必修	05) 水回りの設備機器の取り付けとタイル割との関係がわかる	
省庁分類	-	06) 構造計画ができ、構造の各部材寸法を仮定断面として理解し、構造伏図として表現できる	
授業形態	実習	07) 階段の各階別の表現ができ、断面を正しく詳細図にまとめることができる	
作成者	杉本 安雄	08) 課題で要求された事項について、設計における解決策を文章としてまとめることができる	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No	3832406	科目コード	2033604
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	建築監督科	必要性：快適性が求められる現代の建築にとって建築設備は重要であるとともに、地球環境を考慮したものとする必要もあることから、これから建築にかかわる者のにとっては非常に重要な位置づけを持っています。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：500㎡程度のオフィスビルの空調調和設備の計画及び設計製図について学習します。空調設備は冷温熱源（冷水・温水）を用い、各階、変風量単一ダクト方式＋ファンコイルユニット方式の併用方式で行うものとし、建築と設備の収まりなどを考慮しながら図面が描けるよう学習します。	
期	2		
教科名	建築設備設計製図	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築設備設計製図4	01) 企画段階で行うべき設備に関する調査・作業内容がわかる。	
単位	2	02) 基本設計初期段階で建築計画へ反映すべき事項がわかる。	
履修時間	30	03) 基本設計初期段階で建築計画へ反映すべき事項がわかる。	
回数	15	04) 使用する機器類（エアハンドリングユニット、ファンコイルユニット、全熱交換器、送風機（排風機）など）の仕組みがわかる。	
必修・選択	必修	05) 使用する器具類（吹出口、吸込口、ダンパ類、給気及び排気ガラリ、ベントキャップなど）の仕組みがわかる。	
省庁分類	-	06) 図面に空調機器や器具類の配置を適切に行い、図記号を使用し図面を描くことができる。	
授業形態	演習	07) 図面に適切なダクト経路を考え、規定に基づいた方法で図面を描くことができる。	
作成者	今野祐二	08) 図面に設備機器等の機器番号・機器名称・台数など必要事項を適切に記載ができる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) ダクト系統図をバランスよく、見やすく描くことができる。	
確認者	杉本 安雄	10) ダクト平面図及びダクト系統図で描かれる図記号を理解し、自ら図面を再チェックすることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	筆記による履修判定試験及び提出図面評価点＋出席点の総合点100点中60点以上を合格とする。	
該当DP	-		
備考	建築設備の設計施工に携わり、機械設備・プラント設計・施工の経験を活かし科目を担当		

No	3832407	科目コード	2033804
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	建築監督科	必要性：建築工事は、同じ工事項目でありながらも、常に同じ工事になりません。この点が、机上での学習では補う事の出来ない部分となります。実際に現場を見ることで、今まで学んできた知識をより定着することになります。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：インターンシップIにおいては、現場の安全管理について意識を高め、現場で実際に行われている管理業務についてわかった事や気が付いたことなどについて、日報報告を行ってもらいます。	
期	2		
教科名	インターンシップ	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	インターンシップI	01) 安全管理に着目し、現場の一日を体験できる	
単位	3	02) 現場における安全対策について、自ら気が付くことができる	
履修時間	90	03) 現場の安全上の問題点を、現場スタッフがどのように解決しているのか体験できる	
回数	45	04) 就職後自分の仕事となる「管理スタッフの仕事」に関して意識を高めることができる	
必修・選択	選択必修	05) 自分の考えたこと、感じたことを、的確にまとめ、報告書としてまとめることができる	
省庁分類	-	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	-	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	インターンシップに関する出席率（40点満点）、企業が発行するインターンシップ結果報告書（30点満点）日報評価（30点満点）とし、合計60点以上をもって合格とする	
該当DP	-		
備考	内定企業におけるOJTであり、現場上長（管理スタッフ）が個別に指導を行う		

No	3832408	科目コード	2033904
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	建築監督科	必要性：建築工事を行っていく上で欠かせないのが総合仮設計画書です。仮設に関するコストや工期、品質、安全に大きくかわるのみでなく、様々な監督官庁への届け出にも必要な書類です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：建築施工計画実践6では、総合仮設計画書の内、主に工事準備期間から主工事（山留支保工）までの部分まで具体的な計画書・計画図を作成していきます。	
期	2		
教科名	建築施工計画実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工計画実践6	01) 周辺環境を理解した上で、仮囲いの図面の作図ができる	
単位	3	02) 現場に配置される、現場事務所などの仮設図の作図ができる	
履修時間	90	03) 総合仮設として準備する設備関係の設計ができ、図面を描くことができる	
回数	45	04) 現場の進行を考えながら、重機類の選定ができ、安全を配慮した工事の計画を立案できる	
必修・選択	選択必修	05) 地盤の状況を判断し、山留の施工方法を想定し、安全を確保するための構造計算ができる	
省庁分類	-	06) 工事の進捗を配慮し、山留支保工の各フェーズごとの計画立案ができ、安全確保のための構造計算が出来る	
授業形態	実習	07) 労基法関連（労働基準法・労働安全法・労働保険等）の届け出書類の作成ができる	
作成者	杉本 安雄	08) 道路使用許可・道路占用使用許可関連の書類作成ができる	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	出席率30点満点、提出物評価点30点満点、学科試験40点満点とし、合計100点満点の60点以上をもって合格とする	
該当DP	-		
備考			

No	3832409	科目コード	2034004
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：今後、実務で、基本的なミスを犯さないために構造計算書から配筋詳細図が描け、鉄筋コンクリート造躯体工事の設計監理・監督に必要な知識を身につけることを目的とします。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：本講座では、2年次及び3年次に学習した構造力学、構法演習をベースとし、RC造建物における構造設計の全体の流れや構造図の構成及び内容を把握し、RC造建物の構造計算及び構造図作成に必要な実務レベルでの知識を習得します。	
期	2		
教科名	建築施工図実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工図実践6	01) 構造図の構成と内容がわかる。	
単位	3	02) 構造標準仕様、図示の原則、構造設計標準仕様がわかる。	
履修時間	90	03) 柱・梁断面算定計算ができる。	
回数	45	04) 柱・梁断面配筋詳細図作成ができる。	
必修・選択	必修選択	05) ラーメン配筋詳細図作成ができる。	
省庁分類	-	06) 大地震を想定した構造設計ができる。	
授業形態	実習	07) 各部材の構造設計・計算ができる。	
作成者	李 正浩	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	②、⑤		
備考			

No	3832410	科目コード	2041304
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：2期においては、専門性をとおしてどのような問題解決に取り組むか、仲間と話し合いながら自分たちが取り組む課題の発見・設定に取り組めます。	
期	2		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト13	01) 問題発見に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題発見に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題発見に向け、技術者としての問題意識をもって、現状の問題点を指摘することができる。	
回数	15	04) 問題発見に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題発見に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
省庁分類	-	06) 問題発見に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題設定に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題設定に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
教科書	-	09) 問題設定に向け、現状の問題点から解決すべき課題を提案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題発見をとおして設定した課題の社会的な意義等を適切に説明することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
		③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		

No	3833401	科目コード	1011104
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：簿記（bookkeeping）とは、企業などの経済主体の活動を一定の方法で帳簿に記録・計算し、一定の時点で総括して損益の発生や財産の増減を明らかにする技法・ルールのことを言います。実際に手を動かしてみなければ分からない部分もありますので、経理事務士の過去問題を使って実践的な知識・技能の習得を狙っていきます。	
年度	2025年度	学習内容：本講座では、建設現場の四次業務の一つである「原価管理」に大きく関係する建設業簿記に関するルールを学んでいきます。水準としては、一般社団法人 建設業振興基金が実施する「建設業経理事務士」の3級乃至4級レベルの知識・技能の習得を目指します。具体的な学習内容は、「簿記」の知識・技能となります。	
学年	4年次		
期	3		
教科名	経営管理	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	経営管理3	01) 簿記の意味・簿記の重要性が理解できる	
単位	1	02) 簿記の種類（複式簿記と単式簿記）の違いが理解できる	
履修時間	15	03) フローとストック、貸借対照表（B/S）と損益計算書（P/L）の違いが理解できる	
回数	8	04) 資産、負債、収益、費用、資本（純資産）の概念が理解できる	
必修・選択	必修	05) 複式簿記の基本である「取引記録の二重性」の意味が理解できる	
省庁分類	-	06) ごく簡単な、収益・費用の計算ができる	
授業形態	講義	07) ごく簡単な、取引と勘定、仕訳と仕訳帳、総勘定元帳への転記ができる	
作成者	高瀬 恵悟	08) ごく簡単な、試算表の作成、精算表の作成、決算書の作成ができる	
教科書	オリジナルテキスト	09) ごく簡単な、現金預金の記帳処理、債権債務・固定資産・資本金の記帳処理、工事原価の記帳処理ができる	
確認者	杉本 安雄	10) ごく簡単な、損益項目の記帳処理、主要取引の記帳手続の要約ができる	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	準大手ゼネコンにて意匠・構造設計・施工管理に従事し現場代理人として会社の経営にも参画。その経験を活かし科目を担当		

No	3833402	科目コード	1033004
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建物の完成品質において一般の顧客がまず最初に目にするのは仕上げ工事です。そうした意味において、仕上げは竣工時の良し悪しを決める重要な要素です。仕上げ工事の施工管理は最後の大仕事です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：生産管理では、メーソソリー・石・タイル・木・屋根の5つの分野の仕上げについて、標準仕様書・監理指針に基づき、管理手法を学びます。	
期	3		
教科名	建築生産	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築生産7	01) メーソソリー工事（OB、ALC等）の標準仕様と施工管理の手法がわかる	
単位	1	02) 石工事の標準仕様と施工管理の手法がわかる	
履修時間	15	03) 外装タイルの種類・施工方法別に標準仕様と施工管理の手法がわかる	
回数	8	04) 内装タイルの種類・施工方法別に標準仕様と施工管理の手法がわかる	
必修・選択	必修	05) 木工事の標準仕様と施工管理の手法がわかる	
省庁分類	-	06) 屋根の種類・施工方法別に標準仕様と施工管理の手法がわかる	
授業形態	講義	07)	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	建築工事監理指針	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、③、⑦、⑧、⑨		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3833403	科目コード	1033404
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：一定の規模を超える建築物の設計・工事監理は、建築士法により建築士でなければすることができません。なかでも一級建築士は建築物の用途・規模に制限なく設計・工事監理をすることができるもので、国土交通大臣が行う国家資格です。指定科目を修めて建築監督科を卒業すると、実務経験2年で一級建築士を受験することができます。	
年度	2025年度	学習内容：建築基準法の分野で実際に出题された問題を解きながら、これまでに学んだ規定やその調べ方を復習するとともに、その後に改正された部分及び細部を補充していきます。	
学年	4年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	3	01) 各法のうち今期の範囲について、質問の解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
教科名	建築法規	02) 建築基準法「容積率」の原則及び例外について、読み取り方がわかり、実際に計算することができる。	
科目名	建築法規10	03) 建築基準法「建蔽率」の原則及び例外について、読み取り方がわかり、実際に計算することができる。	
単位	1	04) 建築基準法第55条、第56条の高さ制限について、原則及び例外の読み取り方がわかり、実際に計算することができる。	
履修時間	15	05) 建築基準法「防火地域」の原則及び例外について、読み取り方がわかる。	
回数	8	06) 建築基準法「容積率」の原則及び例外について、読み取り方がわかる。	
必修・選択	必修	07) 「建築士法」「品確法」「高齢者移動等円滑化法」について、各法の概要、構成及び基本的な部分の読み取り方がわかる。	
省庁分類	－	08) 「消防法」「都市計画法」「建設リサイクル法」「景観法」「建設業法」「宅地建物取引業法」「宅地造成法」「土地区画整理法」「民法」などについて、各法の概要、構成及び基本的な部分の読み取り方がわかる。	
授業形態	講義	09) 各法のうち「法規9」の範囲を含む総合的な質問についても、解答に必要な条文を法令集から探すことができる。	
作成者	上岡 加奈	10) 各法のうち「法規9」の範囲を含む総合的な質問についても、適切に正誤を判断することができる。	
教科書	〔井上〕 建築関係法令集	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司		
実務教員	○		
該当DP	－		
備考	設備設計事務所にて設備設計施工業務を経験後、建築設計事務所を開設する現役設計者としての経験を活かし科目を担当		

No	3833404	科目コード	2033504
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：2期に作成した事務所ビルの基本設計を、進路先職種に応じて各自で決めた目標に合わせて作品を完成させることで、就職後の姿を見つめなおし、職種について再度興味を深めます。	
年度	2025年度	学習内容：4年間の製図実習の集大成として、「原価管理」施工計画に使う、積算や施工計画書の元になる実施図面や仮設図面（計算書）の完成が目標です。	
学年	4年次	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
期	3	01) 積算に必要な図面がわかる。	
教科名	建築製図実習	02) 積算について、数量の拾い方がわかり、図面に不足している情報がわかる。	
科目名	建築製図実習18	03) 拾った数量から、歩掛で関連材料・資材の数量を求めることができる。	
単位	1	04) 山留の種類と形状がわかり、具体的な計画図面が描ける。	
履修時間	30	05) 山留の根杭や切梁の必要サイズが計算できる。	
回数	15	06) 足場の種類がわかり、開口部材の構造計算ができる。	
必修・選択	必修	07) 揚重機械の設置場所を想定し、設置場所が特定できる。	
省庁分類	-	08) 仮囲い・仮設事務所の計画ができる。	
授業形態	実習	09) 作業構台の配置・大きさ・高さ・構造（作り方）を学び、仮設構台の計画ができる。	
作成者	杉本 安雄	10)	
教科書	オリジナルテキスト	評価方法	
確認者	杉本 安雄	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
最終確認者	井坂 昭司	該当DP	
実務教員	○	備考	
該当DP	-	設計事務所に建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当	

No	3833405	科目コード	2034104
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	建築監督科	必要性：建築工事は、同じ工事項目でありますが、常に同じ工事になりません。この点が、机上での学習では補う事の出来ない部分となります。実際に現場を見ることで、今まで学んできた知識をより定着することになります。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：インターンシップ2)においては、主に品質管理について意識を高め、現場で実際に行われている管理業務についてわかった事や気が付いたことなどについて、日報報告を行ってもらいます。	
期	3		
教科名	インターンシップ	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	インターンシップ2	01) 品質管理に着目し、現場の一日を体験できる	
単位	3	02) 施工図と現場を見比べ施工品質上の問題点を自ら気付くことができる	
履修時間	90	03) 品質管理上発生した問題点を、現場スタッフがどのように解決しているのか体験できる	
回数	45	04) 就職後自分の仕事となる「管理スタッフの仕事」に関して意識を高めることができる	
必修・選択	選択必修	05) 自分の考えたこと、感じたことを、的確にまとめ、報告書としてまとめることができる	
省庁分類	-	06)	
授業形態	実習	07)	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	-	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	インターンシップに関する出席率（40点満点）、企業が発行するインターンシップ結果報告書（30点満点）日報評価（30点満点）とし、合計60点以上をもって合格とする	
該当DP	-		
備考	内定企業におけるOJTであり、現場上長（管理スタッフ）が個別に指導を行う		

No	3833406	科目コード	2034204
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	建築監督科	必要性：建築工事を行っていく上で欠かせないのが総合仮設計画書です。仮設に関するコストや工期、品質、安全に大きくかわかるのみでなく、様々な監督官庁への届け出にも必要な書類です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：建築施工計画実践7では、総合仮設計画書の内、主に屋外足場、屋内足場、タワークレーン等の揚重装置の設置・解体などについて具体的な計画書・計画図を作成していきます。	
期	3		
教科名	建築施工計画実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工計画実践7	01) 周辺環境や資機材搬出入などを考慮して外部足場の計画ができる	
単位	3	02) 足場の搬入口部分や壁つなぎ強度について構造計算で安全確認ができる	
履修時間	90	03) 内部足場の計画ができる	
回数	45	04) タワークレーンなどの揚重装置の位置と大きさを決め、安全な工事が行える機器の選定ができる	
必修・選択	選択必修	05) 仮囲いから足場・揚重装置までの撤去・場外搬出までの方法がわかる	
省庁分類	-	06) 仮設資材の搬出計画がマスター工程表との関連を読み取りながら、計画立案できる。	
授業形態	実習	07) 労基法関連（労働基準法・労働安全法・労働保険等）の届け出書類の作成ができる	
作成者	杉本 安雄	08) 道路使用許可・道路占用使用許可関連の書類作成ができる	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	出席率30点満点、提出物評価点30点満点、学科試験40点満点とし、合計100点満点の60点以上をもって合格とする	
該当DP	-		
備考			

No	3833407	科目コード	2034304
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：施工計画書は、工事にとりかかる前の監督の最も重要な仕事です。その為、仮設の計画とその安全性確認と、これから行われる各種工事の必要日数を把握し無理のない計画（段取り）が立案できる事が必要です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：土工事・山留の方法とその構造計算。積算から各工事に必要な入工数・工事期間の計画。コスト管理に必要な歩掛数量や工事原価の算出を学びます。	
期	3		
教科名	建築施工図実践	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築施工図実践7	01) RCラーメン構造の建物の躯体（仮枠、コンクリート、鉄筋）の数量を図面から読み取ることが出来る。	
単位	3	02) 標準歩掛りを使って、補助材料の数量や工事にかかる人工数の拾い出しができる。	
履修時間	90	03) 工事にかかわる原価の計算方法がわかる。	
回数	45	04) 基礎の形式に関する内容とその設計に必要な基礎的な知識の習得ができる。	
必修・選択	必修選択	05) 山留壁の施工図作成に必要な割付けの手順や支保工の部材の取り付け詳細図が描ける。	
省庁分類	-	06) 山留壁に作用する土圧の種類やその土圧を求め方がわかる。	
授業形態	実習	07) 枠組足場の施工図を描くための建枠割り付けの手順やコーナー部分の取り付け詳細図が描ける。	
作成者	李 正浩	08) 枠組足場の風荷重に対する足場の安全設計方法がわかる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) 基礎の形式に関する内容とその設計に必要な基礎的な知識がわかる。	
確認者	杉本 安雄	10) 杭基礎の許容支持力算定に関して、注意すべきことの理解や基礎設計ができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	-	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	②		
備考			

No	3833408	科目コード	2041404
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：3期においては、前期に設定した課題をどのように解決していくのか、他の学科や企業との連携もふまえ、その解決策の「企画提案」に取り組んでいきます。	
期	3		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト14	01) 問題解決に向け、関連する情報を収集することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、収集した情報を整理・分析・考察することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、グループディスカッション等において他者の話を聞くことができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、グループディスカッション等において自分の意見を伝えることができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、グループで話し合った内容を、適切にまとめ、報告することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、筋道をたてて（論理的に）考えることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、技術者として解決のための方法や手順を提案することができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、工程表および予算書を提案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題解決に向け、解決のための方法や手順を計画書(企画書)にまとめることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
備考	設計事務所に建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネージメント経験を活かし科目を担当	③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	

No	3834401	科目コード	1011204
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建築分野は、機械工学や電子工学などの他の工学分野と比べて、技術革新の進度が遅いと言われています。例えば、売上高に対する研究開発コストの割合を見てみると、全産業で約3%であるのに対し、建設業ではその約1/10の水準となっています。この事の要因としては、一品生産であるが故に研究開発のコストを軽減し難いことや、建物そのもののライフサイクルが長いために実験的・冒険的な技術革新ができないことなどが指摘されています。しかし、一方で、建物の諸性能に対する社会からのニーズの変化への対応や、職人の技能不足などを背景とした施工方法の改革が求められているのも事実です。やがて建設業界で働く皆さんは、上記の諸問題に対して第一線で対応しなければなりません。今日明確な解答が無い諸問題に対して解決策を見つけるためには、新技術にチャレンジする柔軟な思考が求められます。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：そこで本講座では、幾つかのケーススタディを通して「雑学」としての建築技術を概観し、その対応力を身に付ける一つの足がかりを構築することを目指していきます。	
期	4		
教科名	経営管理	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	経営管理4	01) 建設業の特徴とそれを踏まえた上での技術開発の動機づけや方法について理解できる	
単位	1	02) 建設業の技術革新はニーズよりもニーズによるものが支配的である事が理解できる	
履修時間	15	03) これまでの4年間で学習した建築関係の技術指針の多くが経験や実験値に基づく根拠あるものであることが理解できる	
回数	8	04) 日本周辺で発生する地震の種類やメカニズムについて正確かつ簡潔に説明できる	
必修・選択	必修	05) 建築物そのものや建設プロセス内のリスクとその対処法について概略を理解できる	
省庁分類	-	06) 免震・制振構造の概要とそのメカニズム、種類等について概略を理解できる。	
授業形態	講義	07) 免震・制振構造の向き・不向き、メリット・デメリット等について概略を理解できる。	
作成者	高瀬 恵悟	08) 技術者倫理の考え方について理解できる。	
教科書	オリジナルテキスト	09) ヒューマンエラーとその防止法について概略を理解できる。	
確認者	杉本 安雄	10) 企業不祥事の実例を通して、建設技術者の行動について自ら考えることができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点/100点をもって合格とする）。	
該当DP	-		
備考	準大手ゼネコンにて意匠・構造設計・施工管理に従事し現場代理人として会社の経営にも参画。その経験を活かし科目を担当		

No	3834402	科目コード	1033104
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：建物の完成品質において一般の顧客がまず最初に目にするのは仕上げ工事です。そうした意味において、仕上げは竣工時の良い悪いを決める重要な要素です。仕上げ工事の施工管理は最後の大仕事です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：生産管理では、金属・左官・金属建具・カーテンウォール・ガラスの5つの分野の仕上げについて、標準仕様書・監理指針に基づき、管理手法を学びます	
期	4		
教科名	建築生産	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	建築生産8	01)	アルミ・ステンレス等の非鉄金属部品の種類・施工方法別に標準仕様と施工管理の手法がわかる
単位	1	02)	左官材料の種類と性質を理解し、それぞれの施工方法別に標準仕様と施工管理の手法がわかる
履修時間	15	03)	金属建具の種類と性質を理解し、それぞれの種類別に標準仕様と施工管理の手法がわかる
回数	8	04)	カーテンウォール種類と性質を理解し、それぞれの種類別に標準仕様と施工管理の手法がわかる
必修・選択	必修	05)	カーテンウォールのスパンドレル・壁穴区画部分の施工管理手法がわかる
省庁分類	-	06)	ガラスの種類と使い分け、取付に関する施工管理の手法がわかる
授業形態	講義	07)	ガラスの保管方法がわかる
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	建築工事監理指針	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	期末に実施される履修判定試験で判定を行う（60点／100点をもって合格とする）。	
該当DP	①、③、⑦、⑧、⑨		
備考	大手ゼネコンにて施工の監理技術者を歴任後、設計事務所を開設。意匠設計、生産設計の経験を活かし科目を担当		

No	3834403	科目コード	2034404
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：内定先の企業における業務を想定し、各自で課題を見付け、内定先企業の業務に無理なく接続できるように仕上げることは、短期離職の防止に必要な教育です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：施工・積算・仮設・設備（電気/空調/衛生）・計画などの専門分野の教員を中心にゼミ形式で学習を進めます。	
期	4		
教科名	卒業検定	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	卒業検定1	01) 施工では施工計画、工程管理などの実務を理解し、工程表を含む施工計画書を書くことができる。	
単位	4	02) 積算では、RC構造の積算調査及び見積書ができる。	
履修時間	120	03) 仮設では、仮設計画、特に山留や足場の構造計算ができ図面で表現できる。	
回数	60	04) 設備では、3期までに計画した建物の設備図面一式について実施設計ベースで製図することができる。	
必修・選択	必修	05) 計画では、コストを意識したプランニングを行い、プレゼンボードにまとめることができる。	
省庁分類	-	06) いずれのコースについても、実際に施工可能な建物とし、計画的/構造的に破綻の無い図面が作図できる。	
授業形態	実習	07) 同様に、どの分野選択の学生も、各分野の講義内容は共通事項としてわかる。	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	出席評価30%、エンジニア分野学科試験30%、最終プレゼンテーション時の評価（在校生評価10%、科目担当教員評価を30%）を40%とし合計100%中60%をもって合格とする。	
該当DP	-		
備考	設計・設備・施工管理・構造設計に携わってきた複数の教員の専門的な経験を活かし集団指導を行う		

No	3834404	科目コード	2041504
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度		
学年	4年次	学習内容：4期においては、前期までに自分たちで考えた解決策にしたがい、仲間とともに解決策の実施に取り組んでいきます。	
期	4		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト15	01) 問題解決に向け、計画書(企画書)にそって計画を実行することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、これまでに修得した専門知識・技術を活用することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、仲間と協力して行動することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、粘り強く取り組むことができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
省庁分類	-	06) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録・報告することができる。	
授業形態	実習	07) 問題解決に向け、技術者として計画の進捗状況から新たな問題点を発見することができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 問題解決に向け、新たな問題点の解決策を筋道をたてて(論理的に)考えることができる。	
教科書	-	09) 問題解決に向け、新たな問題点の修正案を立案することができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 問題解決に向け、修正案を実行することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。	
該当DP	-	②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。	
		③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネージメント経験を活かし科目を担当		

No	3835401	科目コード	2034504
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：内定先の企業における業務を想定し、各自で課題を見付け、内定先企業の業務に無理なく接続できるように仕上げることは、短期離職の防止に必要な教育です。	
年度	2025年度	学習内容：施工・積算・仮設・設備（電気/空調/衛生）・計画などの専門分野の教員を中心にゼミ形式で学習を進めます。	
学年	4年次		
期	5		
教科名	卒業検定	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	卒業検定2	01) 施工では施工計画、工程管理などの実務を理解し、工程表を含む施工計画書を書くことができる。	
単位	4	02) 積算では、RC構造の積算調査及び見積書ができる。	
履修時間	120	03) 仮設では、仮設計画、特に山留や足場の構造計算ができ図面で表現できる。	
回数	60	04) 設備では、3期までに計画した建物の設備図面一式について実施設計ベースで製図することができる。	
必修・選択	必修	05) 計画では、コストを意識したプランニングを行い、プレゼンボードにまとめることができる。	
省庁分類	-	06) いずれのコースについても、実際に施工可能な建物とし、計画的/構造的に破綻の無い図面が作図できる。	
授業形態	実習	07) 同様に、どの分野選択の学生も、各分野の講義内容は共通事項としてわかる。	
作成者	杉本 安雄	08)	
教科書	オリジナルテキスト	09)	
確認者	杉本 安雄	10)	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	出席評価30%、最終プレゼンテーション時の評価（在校生評価10%、科目担当教員評価を60%）を70%とし合計100点中60点をもって合格とする	
該当DP	-		
備考	設計・設備・施工管理・構造設計に携わってきた複数の教員の専門的な経験を活かし集団指導を行う		

No	3835402	科目コード	2041604
系	建築・インテリア系	シラバス（概要）⇒ 学習内容および学習の必要性・学習する理由	
科	383. 建築監督科	必要性：将来、実務において仕事を進めていくためには、専門性だけでなく、問題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力などの「社会性（社会で活躍する力）」を身につけていることが重要です。	
年度	2025年度	学習内容：5期においては、問題解決に向け解決策の実施に取り組むとともに、年度末に開催される学習成果報告会に向け、報告書および発表資料の取り纏めを行います。	
学年	4年次		
期	5		
教科名	リアルジョブプロジェクト	科目目標（わかる目標・できる目標）⇒ 5項目以上～10項目以内、できれば10項目	
科目名	リアルジョブプロジェクト16	01) 問題解決に向け、問題点を発見し必要に応じて計画を修正することができる。	
単位	1	02) 問題解決に向け、修正した計画を実行することができる。	
履修時間	30	03) 問題解決に向け、工程および予算を管理することができる。	
回数	15	04) 問題解決に向け、計画の進捗状況を把握・記録することができる。	
必修・選択	必修	05) 問題解決に向け、最後まで仲間と協力して行動することができる。	
省庁分類	-	06) 成果報告に向け、問題の発見から解決までに作成してきた資料を整理することができる。	
授業形態	実習	07) 成果報告に向け、資料に基づき、問題解決に取り組む意義、方法、成果等を報告書にまとめることができる。	
作成者	白井 雅哲	08) 成果発表に際し、筋道立ったわかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。	
教科書	-	09) 成果発表に際し、聴衆を引き付けるプレゼンテーションを行うことができる。	
確認者	杉本 安雄	10) 成果発表を終え、問題点・不足点・今後の課題等を整理・報告することができる。	
最終確認者	井坂 昭司	評価方法	
実務教員	○	①授業評価は「学習評価ルーブリック表」を用いて授業ごとに実施する。 ②履修判定評価は「履修判定評価ルーブリック表」を用いて期末に実施する。 ③個々の学生の成長を「学生成長評価ルーブリック表およびリーダーチャート」を用いて記録する。	
該当DP	-		
備考	設計事務所にて建築物の企画・設計業務を経験。企画業務でのプロジェクトマネジメント経験を活かし科目を担当		